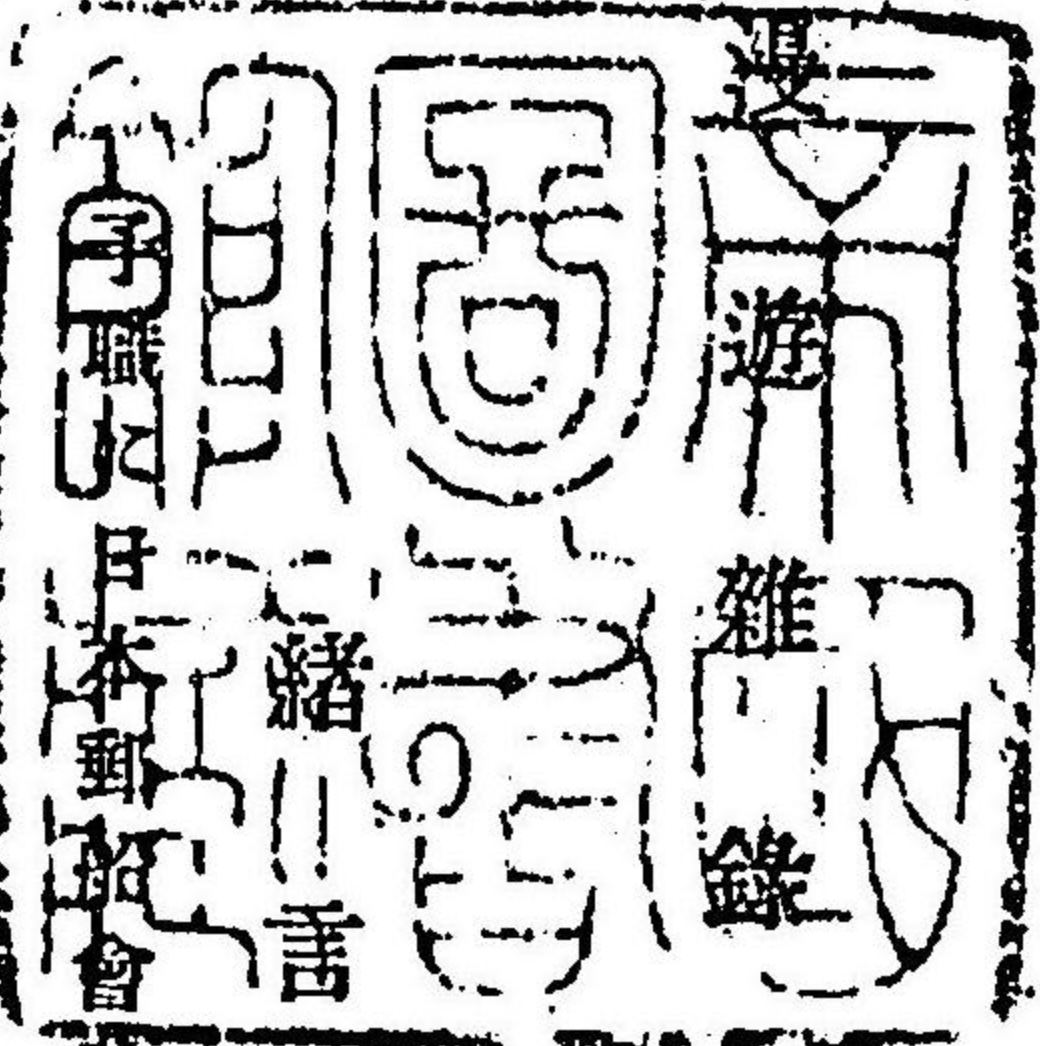
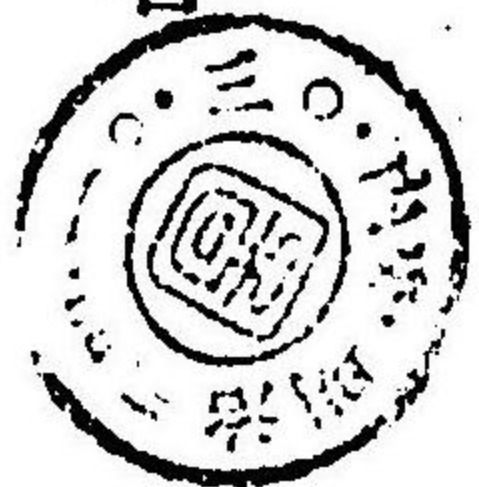


9
5

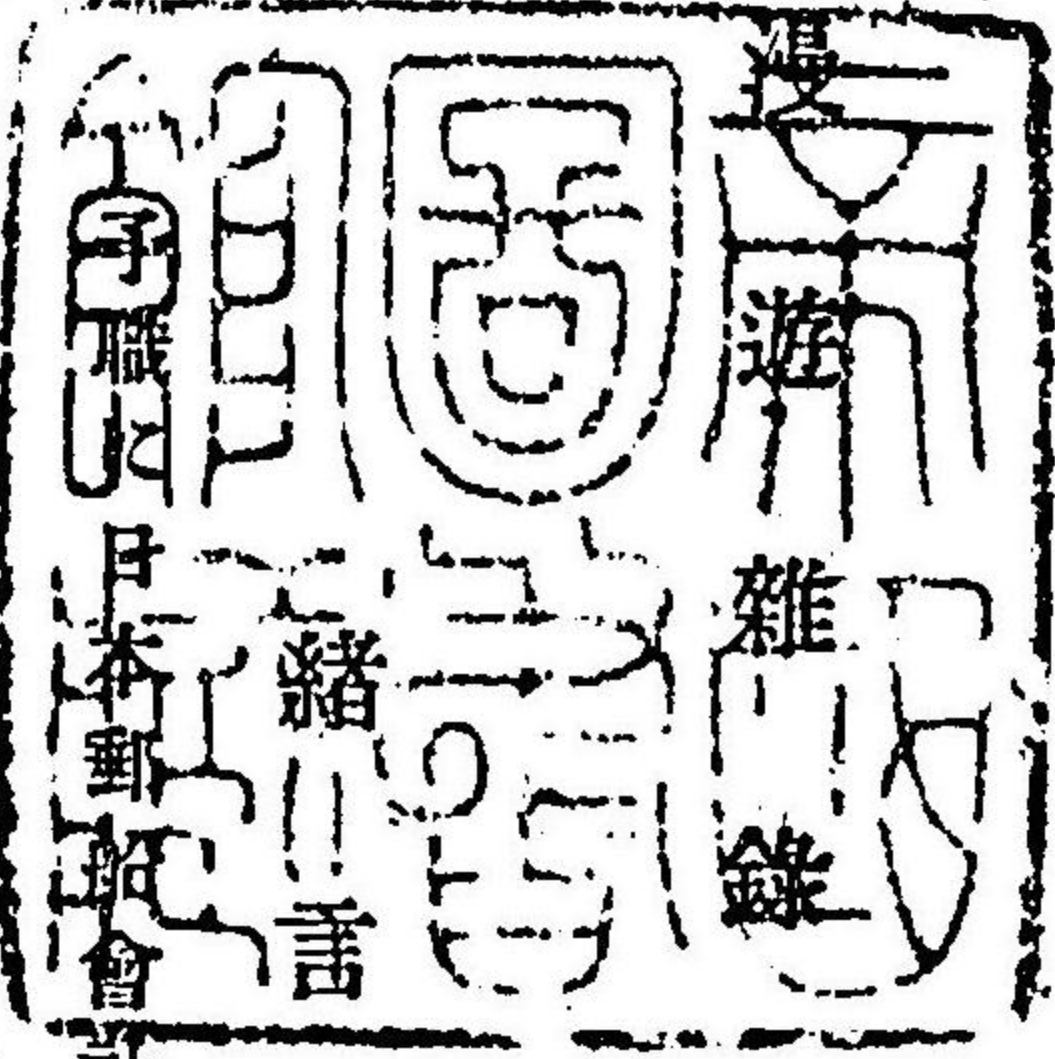
漫遊雜錄



鶴山 正木 照 藏 著



り太平洋を渡りて桑港に着し北米の各地を歴遊七月十一日紐育より太
西洋を渡りて英國「リハアブル」に着し直に龍動に來り留まること二週
日去りて「グラスゴ」に向ひ此地に於て近藤社長に別れ獨り「ミッドルス
ボロ」に來りて博多丸に搭し安土府に航し其碇繋中「ブラッセル」に遊び瓦
土樓の古戰場を弔し又「ロッタアダム」の遊を爲し龍動に還りて復た留ま
ること二週餘にして「サウザムプトン」より「ハアブル」に渡り巴里に出大博
覽會を覽馬耳塞に來りて船に搭し孟買に航し留まること數日復た海に
航して古倫母彼南新嘉坡香港上海の諸港を歴長崎に上陸九州を横きり
て門司に出宇品神戸を過ぎ十一月初旬京に歸る日を費すこと正に二百



鶴山 正木 照 藏 著



日本郵船會社に在り去年四月近藤社長の外遊に隨ひ先づ横濱より太平洋を渡りて桑港に着し北米の各地を歴遊七月十一日紐育より太
西洋を渡りて英國リバアプールに着し直に龍助に來り留まること二週
日去りてグラスゴーに向ひ此地に於て近藤社長に別れ獨りミッドル
ポロに來りて博多丸に搭し安土府に航し其碇繋中ブラッセルに遊び瓦
土樓の古戰場を弔し又ロッタアダムの遊を爲し龍助に還りて復た留ま
ること二週餘にしてサウザムプトンよりハアブルに渡り巴里に出大博
覽會を覽馬耳塞に來りて船に搭し孟買に航し留まること數日復た海に
航して古倫母、彼南、新嘉坡、香港、上海の諸港を歴長崎に上陸九州を横きり
て門司に出宇品、神戸を過ぎ十一月初旬京に歸る日を費すこと正に二百

六日、其遊蹤坤輿を一週せりと雖も到る處極て匆忙、觀光采風豫期の萬一を果す能はず、歸來頭を回らして之を追想すれば、米山歐水概ね既に夢となりて消え去らんとす。此に於て乎、旅中記るし來る雜錄を執りて諸所の案内記等に基き之を修補し、并せて猶ほ記憶に存する諸般の雜事を附記し、以て一冊子となし、他日の忘れに備へ、又知友の間に頒ちて其一笑を博する爲め之を印刷に付することとせり。予や操觚の業を抛て以來十餘年、蕪雜の筆更に散漫を加へ、記事意の如くならず加ふるに歸來例に依りて社務太だ忙劇、稿を換て推敲するの暇を得ず、布置の極めて亂雜なる、行文の極めて粗笨なるは願みて深く自ら耻る所なり。明治三十四年七月識

太平洋

多くの親戚知友に送られて船に上りぬ、頃しも明治三十三年四月十七日、花は

早や散り初められたれども晴れ渡りたる空は麗かにして霞める山も猶ほ笑てわれ等を送るに似たり、われ等一行は近藤社長と外には曾て永らく米國に在學せし社員川田鷹氏と余を合せて都合三人なり、既に手荷物の始末もつき、其中解纜の時刻にも近づき來れば送る人は各別を叙して小蒸汽船に下り、送らるるわれ等は舷側に倚りて名残を惜む、好機に逢遭して萬里の遊に上る、人生是より快なるはなしと雖も、サテ愈故郷の山河に別れゆく時となれば自ら離情の依々たるを覺ゆるは是非もなきことどもなり

午後零時二十分、船は塾籠の逸するが如くに徐々と運轉を始め、須臾にして港口を出、波を蹴て進み行く、横濱の市街は次第に後退し、追ひ來る小蒸汽船より打ち振る手巾の色も見分け難くなりゆく、三人相見て先づ首尾よき門出、芽出度と打喜びたり

此船は東西洋汽船會社の雇船にして、原來英國の白星線に屬し、コブチツク號と稱す、總噸數四千噸の大船なれども製造は十八九年前に係り、船室の構造備付けの諸器具等何れも古式の方なり、殊に今航は乗客極めて多く、われ等一行

の船室も辛ふして調ひ得たる程なれば余と川田氏とは舳の端の片隅に在る一小室に押込まれ、一人の行李を開けんとすれば、一人の行李は先づ室外に出し置くを要する許りに狭ましく起臥頗る究屈なり、社長には同業上の好意を表して東西洋汽船會社より特別に緑合を付け中央なる好一室を無運賃にて供給したれば外に相客もなく至て都合よき方なりき

此日は別に風といふ程の風もなかりしかど東京灣を離るゝに従ひ波の畝ねり方自ら大くなり、船少しつゝ動搖し初められたれば午食後、余と川田氏の二人早やソロク々船暈を感じ來り、房總の山色未だ指顧の中にあれども二人は既に甲板に出て徘徊するの勇氣もなく、共に自室に籠りて呻吟、頭は次第に重く左ながら千鈞の石を戴くが如く、胸は漸く支え來りて水落の下一大横線を劃するの想あり、此日の夜食は申す迄もなく、十八日も十九日も尙ほ未だ苦く碌に朝夕の食事をも執る能はず鉢巻を締めて打臥したる儘なり、社長は更に船暈を感じ玉はず折々來りて、われ等二人の有様を見衰れなることなり、逆冷笑を催さる、われ等二人は互に相見えて何と冷かさるゝとも此に到りては一言もな

し何か妙薬のなきもの歎有るなれば貧乏ながらも五十金、百金は惜むに足らずなど託つのみ、實に船暈ほど生地なきものはなし

二十日には風強く船の動搖頗る甚しかりしも余は最早大分慣れしと見え却て船暈は稍薄らぎ朝、晝とも食堂に入り卓に就て食することを得たり、川田氏は未だ起き得ず此に於て余は忽ち強き方の側となり、君は五度も太平洋を渡りながら其有様は何事ぞと冷かせば川田氏喟然として嘆じて曰く嗚呼今の今迄味方と思ひし人も忽ちに敵となれり止みなんく、と余思はず失笑、其日も暮れて晩食の時刻にも近けば今宵こそ、スモーキング、ジャケツ、短禮服着用に及び正々堂々食卓に就かんものと襟飾、釦等を取揃え、且つ憩ひ、且つ支度し（是れ船暈猶ほ全く止まず狭隘なる室内に於て三四十分も立ち通す時は忽ち氣分悪しくなる故と知るべし）漸くのことにて東洋製の紳士一疋出來上りたれば、イデ時刻迄、暫時の間散歩せんものと塗靴履み鳴らして甲板に上り寒き夜風に面を吹かせ歩せども歩せども更に食時を報ずる鈴聲を聞かず、兎角する中三々五々、客の食堂より出で、甲板に上り來るを見る、願へば食事は既に

終りしなり、余が船室に於て前刻來始めての食堂入りの支度に氣を取られ鈴聲の疾くに響き渡りしを知らざりしなりけり、コハ失敗せりと思へども今更後れて食堂に入る譯にもゆかず誰れか此の失敗を知りて笑ひはせぬかと左顧右眎恐るく、甲板より船室に逃げ歸り、急ぎ禮服を脱ぎ船僕を喚びて何なりとも二三の食品を持ち來れと命ずれば、船僕は余の今しも禮服を脱ぎ終りたる體を認め、先生通常卓上の晚餐にて喰ひ足らず復た直に乃公を煩はすとは貪饑にも程のあるものと思ひけん、いと不平顔して最早冷肉の外、何も得難しと無愛憎極まる返答なり、此際辯解どころの話にあらざれば、何にても可なり速かに持ち來れと一喝、漸く一二の乾肉を得て飢腸を醫するを得たり、床上の川田氏は此體を見て頗る不審、是は又先生威張りて食堂に入りたるもの矢張まだ船暈が全く止まぬと見え、卓上にては食し得ず逃げ歸りたるものなるべしと思ひけん心地よげに微笑を漏らし居れり、後にて説明、共に大笑ひ、先づ失策の第一として謹で記録に留むることとなしぬ

此翌日より余は氣分猶ほ十分爽かならざれども、食慾常の如くに動き初め、二三日にして川田氏も亦同様原氣を回復し一行三人食卓を共にするを得るに至る、われ等の食卓には船長自ら主人席に就き其左右と前に貴嬢の席あり男女混合十四人計りの一組なり、此船長中々の愛嬌ものにて誰れ彼れとなく萬遍に御世辭を振り蒔き、いつも面白く話し居れり、今しもわれ等三人始めて打揃ひ卓に就くを見て、社長に向ひ實は御連れの御兩人共桑港迄床中に御過ごしなさることならんと思ひ居れりなどと、われ等を冷かせり、此航乘客多く皆同時に食堂に入る能はず、故に二組に分ち第一席、第二席となし時間を違へて食せしむることとなす、而してわれ等は此第二席に屬せり、總して第一席の方は晩の衣服等更に構ひなく、銘々の勝手なれども第二席の方は何れも禮服を着用し居れり

二十二日は初めての日曜日なり、午前十時半頃より皆食堂に集り船長自ら僧官に代り導師となりて祭神式を舉行す、後その日曜も亦此の如し、大抵毎航乘客の多数は耶蘇教徒なれば亦是船中に於ける必要なる一儀式なるべし、式終りて桑港海員會の爲めに義捐金を募る

二十三日には乗客中に委員出來、遊戯會員を募集す、其遊戯は室内、室外の二組に分れ、入會金各壹弗宛なり、われ等三人も義務的に其仲間に加はる、是より毎日午後或は晩食後、各種の遊戯を催し、以て消閑の策となす、其中面白きもの三四を左に説明すべし

(一) 骨牌遊び 「ツランプ」の一種にして「ハート」を成るべく少く取たるを勝とす、一組四人宛にて、大抵勝負は十番位なり、戦ふ者は先づ初めて自分の就くべき席を圖にて定め、夫れより其組の半数即ち勝ちたるもの二人宛順次、次の席へ移り、新手と戦ふ法則なれば、毎番其手合ひ變り、自ら張合にもなり、又一面には知らぬ顔同士、イツの間にか懇親を結ぶ媒ともなり、甚だ妙なり

(二) 匙、鶏卵の競争 實際は鶏卵の代りに丸き馬鈴薯を用ぬ、之に匙を添え置くなり、競争者は號令の下に或る距離を走り來り、其馬鈴薯を匙にて掬ひ上げ、其儘持ちて復た或る距離を走り行き、落さず無事に早く着きたるものが勝となる、淡泊なる遊にて多く婦人連中の慰みなり、其掬はんと

しては落し、落しては復た掬はんとし、急げば急ぐほど度々落す所、餘程興味あり

(三) 糸針競争 男女混合の遊にて、女は此處、男は彼處と互に相距ること數十歩の處に立ち、女は糸、男は針を持つ、號令一聲、女走りて男の前に來ると男は女の持ちたる糸を取り、自分の持ちたる針の溝に通す、女は之を以て男の襟を三針縫ふ、縫ひ終れば男直に走りて女の元の席に往く、其早く着たるものが勝なり、急ぎて針の溝に糸を通す所が見ものなり

(四) 薑麥酒競争 是は必ずしも薑麥酒に限るにあらず、炭酸水、「ラム子」などにて差支なし、先づ此等の飲料を罌子の儘一個と外に栓抜きを添え、「ビスケ」一枚を加えて列へ置き、四五人組の競争者は號令の下に或る場處より走り來りて、罌子の栓を抜き、其中味を呑み干し、「ビスケ」を喰ひ盡くし、早く元の場處に歸り來たるものが勝となるなり、眼を白黒にして急ぎ呑むさま、或は「ビスケ」を頬張りて喉に詰め咽ぶ所など、中々に興ある戲なり

と共に船外迄來り、社長を訪ひ、船と陸との立談、少時にして去る。「ホノル」港は「ヲアフ」島の東端に在り、小なれども、群島中の最良港だけありて、棧橋の設もあり、同時に大船五六艘と島通ひの小船三四艘の繋留に差支なし。市中の人口は三萬内外、近來追々繁昌の様あり、日本よりの輸入品は重もに、移民用の食料品にして毎月凡う千四五百噸、其價額一箇年間四百萬圓位のものなりと領事云ふ。

東西洋汽船會社、太平洋郵船會社及び我東洋汽船會社の郵船は何れも桑港、香港間の往復共「ホノル」に寄港するを例とす、其外桑港と濠洲との間を航海する「フセアニツク」汽船會社の船舶も亦四週間毎に往復とも此に寄港す、同社は外に桑港と本港間のみを航海する船舶あり、群島間の航海は「群島汽船會社」と「ワイルダ」汽船會社の船舶あり、交通の便に乏しからず、物産は砂糖を重もなるものとし、其他は芭蕉實等の菓物に過ぎず。

最爾たる此群島も既に人類棲息すれば、之が歴史あり、千七百七十八年、彼の有名なる船長「クツク」が「キアラケリア」灣頭に無残なる最後を遂げし以來、此島あ

ること漸く世に知れ渡り、越て千八百年代の初めには「カメハメハ」第一世の威力、群島を服し、子孫連綿として千八百七十二年「カメハメハ」第五世の死に至り、嗣子なきを以て國人「王族」ルナリロを選びて王とす、一年餘りにして死し、之に繼て「ダビッド」カラカウ選まれて王となり、在位十七年、千八百九十一年一月桑港に於て客死す、此に於て其以前より攝政たりし王妹「リリ」カラニ位に即きたれども、間もなく千八百九十三年一月十四日の内訌にて國は共和制度に變じ、千八百九十八年七月七日の米國議會にて遂に此群島を米國に合併するの議を決し、はかなくも獨立國の命脈絶果たり、われ等が「ホノル」を經過せし時、領事の話に、最早不日、米國より當國に關する新制度の書類到着すべき筈にて、其上は當國の政治向も一新すべけれども、唯今は所謂引續前の假政府にて事實上、政府と稱するものなき有様なりと。

二十七日の午後三時、船は棧橋を離れて再び洋中に出づ、「ホノル」より乗船するもの二十餘人、概ね船室の不充分なるに苦み、中には乗組員の室を高き價にて借りたる人もあり、而して猶ほ三十餘人の客は後に残されたりと聞く。

五月一日の夜は最早桑港に程遠からざれば此程來の遊戯に對する賞品授與式を執行す先づ乗客中の一令嬢食堂内の設けの席に立ち、側より幹事一人宛受賞者を喚び出し、右の令嬢より之に賞品を授け、授くるとき簡單なる賞詞を以てす何れも輕妙簡潔、人に隨ひ、品に隨ひ、又其遊戯の種類に隨ひ各相異れり鳥渡したることなれども興味多く感ぜられぬ、蓋し是は前以て令嬢が其親父と相談して作り置きたるものなるべし中には之に對して滑稽然たる答辭を述る人も見受たり、尤も賞品と云ふも其實、名計りにて何れも玩具の人力、蒸氣船、或るは銀貨入れ、張子の虎の如きものに過されども亦是れ他日の一紀念なりとて皆々珍重し居れり

二日の夜は今宵とう洋上に於ける名残りの晚餐なればとて、例になく御馳走あり、食後、乗客中の長老より船長に向て謝辭を呈し、船長答辭を述べ夫より百餘人の乗客一同手に手を取りて食堂を圍み米國の國歌を唱ゑ、開聲三回、互に別を叙す、萬里の波濤十數日の間、一船の内に起臥を共にせしは所謂一樹の蔭、一河の流にも優る他生の縁なり、白黄と肌の色は變れども人の真情に至り

ては何國も別に變りたる所なし

此航我邦人にして同乗したるは、ポストン府に開く「ユニテリアン」宗の會議に赴く同宗の宣教師平井金三、村井知至の兩氏と電信事務取調の爲め米歐に出張する遞信技師大岩弘平氏と建築上の取調の爲め同しく米歐に出張する清水組の技師岡本壯太郎氏の四人なり、此中平井、村井の兩氏は船に強く初めより元氣なりしも、大岩岡本の兩氏は、われ等よりも猶ほ船に弱く、横濱發航後六七日間は更に船室を出る能はず、此に於て外の人々は何んでも船客名簿中に外に二人の日本人らしき姓名あれども更に見受けざるは不思議なることなりと話し居たる程なりき、併し追々皆揃ふてよりは喫煙室内忽ち日本人部成立し持寄りの雜談珍説と骨牌遊びに日を暮らしたり

三日は昨夜來の風雨にて冷氣強く且つ船の動搖最も甚しく食卓の上に杯を施す程なりしかども皆々既に船に慣れたる上、數時間の後には桑港に着することなれば自ら元氣よく、午後四時頃に至り船頭に「カリホルニヤ」の山色を望みたる時は何となく心嬉しく思はれぬ、此時雨既に休み波も亦穏かになり、

船は益々進みて音に聞たる金門に入る、邱陵嶺、新樹青々たる間、粉壁紅樓の隠現する光景、佳麗とや評せん、壯快とや言はん、始めて此國に入るものに執りては、得も言はれぬ感あり、午後七時頃桑港々東なる檢疫場に投錨す、顧みれば四月十七日横濱を發してより時を費やすこと十六晝夜二十二時四十九分、航程五千七百四十七海里なり、但し四月二十三日は船西半球に入りたるを以て曆法に従ひ更に一日を加え、二十三日と云ふ日、兩日ありしことと知るべし、四日は晴雨定りなき天氣なり、眼前に桑港萬千の人家を望む、水深くして濶廣く、氣象自ら雄大なり、船は檢疫の都合にて直に棧橋に繋ぐことを得ず、われ等上等船客一同は午前十時夫々檢疫を終り、小蒸氣船に乗り移りて十一時頃桑港に上陸す

桑港

われ等は既に米國の厄介者なり我足の踏む所復た我土にあらず、見るもの聞くこと總て故國に同じからざれば初めて萬里遠來の思あり是より先き五六

日、社友三原氏要務を帯びて此地に着し居り豫ての打合せに任せ旅館萬端の用意怠りなければ、われ等は同氏の案内にて迎ひの馬車に打乗り棧橋の上にあち満ちたる群集を押し分け、マーケット街なる「パレース・ホテル」に落付ぬ、名にし負ふ桑港第一の大旅館其壯麗雄大なること寔に眼を驚かさん計りなり、われ等一行の室は第三層樓なる一角に在り四室相連りて一區を爲す、先づ其内の最も廣くして奇麗なるを接客所と定め他の三室を三人の寢室となし、ことに暫しの假居も定りぬれば各、自室に入りて顔洗ひ髪梳り、夫より三原氏をも加えて同行四人船とは違ひ、ひろくしたる食堂に下り立ち卓を圍みて午食を執る心地は左ながら、轍鮒の江海に出たるに異ならず殊に余と川田氏は思はず相見て、動かぬ卓上の食事は又格別の味ありと弱蟲の本音を吹き他の二人に笑れたり

食事後、余と川田氏とは棧橋に赴きて手荷物始末を爲す豫て聞き及ぶ税關の面倒果して如何あるべき歟と心配しながら關吏の命令するが儘に一々革囊「ツラン」等を開き其檢閲に供せしも別に有税品を所持せざれば難なく通

過せり唯社長の「ツラシク」中に絹布製の寝衣と絹の風呂敷一枚ありしを關吏は取り出して頻りに之を反覆し居りしも遂に寝衣は少し襟垢の迹ありしに依り風呂敷は又川田氏の説明に依り漸く會得し無罪放免となりたるも可笑、聞く所に依れば絹布類、煙草、酒類が最も嚴重なりとのことなり同船したる人を、何れも皆われ等と同く検閲を受け居り中には、飛んだ目に逢ひたりなど、と面ふくちかしたる向もありけり

太平洋の水灣入して「サンフランシスコ」灣を爲す桑港は南より北に向け此灣に斗出したる半島の端に在りて東に面し水を隔て「コロラド」と相對す其間凡そ四哩、寔に天の爲せる良港なり、加ふるに棧橋三四十、海岸より櫛の齒の如くに突き出し大小の船舶皆之に頼りて荷物船客の積入陸揚を行ふことをれば其便利言ふ迄もなし、鐵道は南太平洋鐵道會社の線路中、一線だけは市内に停車場を有すれども是は「サンノゼ」に到る支線にして本線の終點は「ホーランド」に在り出入の旅客は渡船に頼りて往復し貨物は貨車に積込みたる儘、船に載せて送り來り送り去るなり、桑港の棧橋に於て此貨車と船舶と相連

接する順序方法甚だ行届き居れり、抑も此南太平洋鐵道と云ふは其一端を桑港に置き北は延て「ポートランド」に達し南は「カリフォルニア」州を下りて「アリゾナ」、新墨西哥、テキサスを經て密士卑河の流末に位する墨西哥港の良港「ニューラルレアンス」に出で、東は「ラグデン」に於て「ユニオン、パシフィック」線に連絡して米大陸横斷線の一端を爲す所の大鐵道にして外に東に於ては「ニューラルレアンス」より紐育に達する航路を有し西に於ては桑港より日本、支那、香港に通ずる航路を有す其業、偉なりと謂ふべし、彼のわれ等の乗り來りし「コブチツク」號の營業主なる東西洋汽船會社及び東洋汽船會社の船舶も亦皆陸上の連接は此鐵道に頼るものなれば南太平洋鐵道の桑港に於ける勢力の強きことは殆んど無邊なり従て總ての遣り方、随分氣儘勝手なりとの評あれども近頃に至り「サンタフェ」鐵道も亦漸次其一端を「コロラド」に突き出し來り「カリフォルニア、エント、ワリエント」汽船會社の船舶と此處にて東洋出入の貨物を連接することになりしかば南太平洋線從來の専占も此敵手の現出に逢ひ稍其勢を挫かんとする模様ありと云ふ、今後の形勢果して如何に變化すべ

き歟何れにしても桑港の爲めには更に繁昌を増すこととなるべし
 現今桑港の人口は凡そ三十四萬ありて太平洋岸に於ける最大の市街なり然
 れども之れが發達の迹を尋ねれば此地の「エルバ、ビュエナ」の舊名より「サンフ
 ランシヌコ」と改名せしは漸く千八百四十六年即ち今より五十五年の昔に過
 ぎずして「カリフホルニヤ」の金坑發見の年即ち千八百四十八年には其人口未
 だ僅に五百内外なる一小村たり然るに其後突進して五十年には忽ち二萬五
 千、六十年には五萬六千、越て八十年には二十三萬三千に達せり、豈驚くべきの
 進歩を知らずや今最近(千八百九十八年)の統計に徴すれば此港の外國(東部諸港
 行も含有す)出入船舶并に輸出入貿易の高は次の如し

入港船舶	八百八十二艘	百二十八萬二千四噸
出港船舶	八百七十三艘	百二十五萬四百五十九噸
輸出	五千二百五十四萬四千八百	
輸入	六千二百九十四萬五千八百三十九	

右輸出入の内に就き支那、日本兩國に關する高は

輸出	日本	商品	三百五十五萬五千六百八十三	支那	三百七十二萬四百六
	向け	實貨	八千七百十七		七百七十五萬七千
輸入	日本	商品	千七百七十六萬五千四百	支那	八百一十一萬四千四百十九
	より	實貨	八十一萬七千八百五十		二十八萬三千十九

以上は何れも米國金貨にての計算なれば我貨幣に直せば凡う倍額に當るな
 り、日本よりの輸入品は茶、生糸、花莖を首とし其外の雜貨類、日本への輸出品は
 麥粉、酒類、釘、棉花(南部諸州に産する)の類なり此港と我國と貿易上の關係、至り
 て大なるものあるは右の計數に依りて明らかかなり、今後支那地方の開發する
 に従ひ此港と同國との關係も亦益重大なるに至るべきは疑なき所なれば既
 に太平洋郵船會社の如き之を豫期して現今二大汽船新造中なり、又濠洲と此
 港との間には前項にも述べたる通り現に「ラセアニック」汽船會社毎四週一回
 の航路あり今後米、濠兩新開國の發達と共に其關係も亦益重密となるべし、其
 外布哇との間の貿易に就ては殆んど此港の獨占と謂ふも差支なき程にて千
 八百九十八年の調に依れば輸出商品の價格凡そ九百餘萬弗、輸入凡そ千百六

木萬弗に達し居れり尙又太平洋沿岸汽船會社の船舶大は三千噸、小は三四百噸位迄のもの取混ぜ二十餘艘は常に此港を中心として北は「ボートランド」ユゼットサウンド「英領コロムビヤ」アラスカに到り南はカリフォルニアの各要港及び墨西に古通ずる數航路を張り居れば此港と此等各地との間に於ける貿易も亦少小にあらず要するに桑港は現在既に此の如き景況にて將來益發達する望に富みたる地なることは敢てわれ等の贅言を須たず

原來桑港は前記の如く半島の端に在るを以て地勢自ら後上りとなり其間、今に尙ほ邱陵起伏の迹を存すと雖も「ケーブル、カア」の設け到る處に行き渡り、勾配急なる坂路も走ること平地に異ならず僅に米貨五仙を投ずれば市内なれば、何處迄も乗りゆくことを得べきが故、九段の坂を人力車にてヨチ々々と登るが如き不便は絶て其例を見ず其外電氣鐵道もあり市内の交通機關は十分に備れり唯處によると拳大なる小石を一面に敷きたる街路あり、馬車を驅るに適せざるを憾むのみ

「マアケット、ストリート」は東北より西南に掛け斜に市内を貫く大道にして大

抵何れの街路も皆其一端を此大道に突出し居れば萬事に就けて甚だ便利なり市内の建物は四五階より八九階位迄のもの多く日本より初めて來る連中は此高厦の中に立ちて何となく急に自分の丈が低くなりたるが如き思を生ず加之來往の人は申すも愚かなれども何れも綠眼白哲の人種にあらずるなれば、われ等の面色、忽ちにして黄益黄なるを覺え一行相見て互に何とて君の顔は左様に黄色を増し來たるやと訝る計りなるも可笑

五月六日は日曜日にして天色晴和なりしかば朝食後われ等四人相携て街車に頼りて「クリツフ、ハウス」に遊ぶ道程凡そ六哩、時を費やすこと一時間計りなり此處は半島の端の西側にして太平洋に面し滄波萬頃、水天髣髴たる壯大窮りなきの風光を前に眺め砂濱一帶潮來り潮去るの間、樓臺亭舍、彼所此所に散在す中に就て「クリツフ、ハウス」は最も大なる建物にして其巖に倚りて巍然たるを以て「クリツフ、ハウス」即ち巖上屋の名を唱ふるなり欄下には數十歩を隔て、臘膈巖海中に峙ち大小無數の臘膈岬々相喚びて水に入り水を出、背を巖上に曝す中には牛程のものあり其蠢然たる行遊の狀自ら人の塵胸を慰むる

に足る「クリツフ、ハウス」より坂路三四町にして「ストロ岡あり」アド、ロフ、ストロ」と云ふ素封家の私邸なれども今は公園の如く誰彼れの別なく遊覽するを得べし庭園の手入れ能く行届き居り天然の眺望に加ふるに奇樹珍草を多く植ゑたれば散歩場には最も妙なり歸途は海岸の方の路を執りて金門公園前に來り序ながら公園に入りて散歩す此公園は市の一端に起りて西は太平洋岸迄延長し長さ凡う三哩幅半哩面積千十三エーカー（凡そ我百二十萬餘坪）あり奇巖怪石老樹枯柯の古色を呈するを且と雖も種々の樹木多く新葉翠陰を蓋さして涼しく地上には芳草烟りて蒸すが如く其間に咲き亂れたる紅紫の花は左ながら錦を敷くに似たり見渡せば坦々なる道路は園を匝りて馬車を驅るに宜しく滌々たる清泉は人造ながら數丈の瀑を爲し落ちては忽ち紫翹碧を湛ゑ小艇に掉して之に浮ふを得べし其外音樂堂あり博物館あり茶を賣る日本屋あり園内些かの塵芥をも留めず極めて清潔なり折しも日曜のことなれば數多の士女各好みの衣裳に伊達を飾り三々五々相携ゑて芝生の上で遊び楽しむ所或は又肥馬輕車威勢よく園内を驅り匝ぐるさま何となくわれ

等島國の者共には見るを得がたき洋々たる太平の氣象あるを覺ゆ
當地に在留する日本人の數は二千以上にも達し居る由なれども多くは下等の勞働者にして領事館、正金銀行、三井物産會社、東洋汽船會社等に在勤する諸氏を除けば他に見るべき商工業に従事するものは極めて稀なりと云ふ、顧みて之を支那人が嫌れながらも市中目貫の場處に支那街の一區劃を爲し獨立自營、幾多の商工業に従事するに比すれば坐ろに裏耻しき思なきにあらず殊に邦人の此地に在留するものは下等勞働者といへども原とよりの勞働者にあらず所謂喰詰めの書生上り多ければ何よりも理屈が先にて領事館にて其統治には頗る骨の折れる方なりと聞く、かゝれば其平常、米國人より輕侮せらるゝも敢て不思議とも思はれず唯其傍杖を喰らひ通過する計りの旅行者迄も同様に輕侮せらるゝは甚だ迷惑なる話なり、われ等の一行は幸に斯の如き目に出合はざりしも同じ頃旅行中なりし或る知人は、渡船の乗り場に於て人頭稅徵收者に捕へられ無理に人頭稅を課せられ又或る知人は、ベスト騒ぎの時に通り合せ停車場に於て強制的に注射を行はれたりと聞く、寔に淺ま

しき次第ならずや
ある夕正金銀行の戸澤氏に招れて、われ等四人、同氏の家にて日本料理の馳走に預る、余は日本にては寧ろ洋食嫌ひの方なりし故、此度の旅行中定めて難儀することなるべしと思ひ來りしに、一は慣るゝと、一は又所謂本場の洋食は日本にて喰ふ似而非洋食とは違ひ、パン、バターを首め何れも皆精好なる故に因るならん歎、此頃に至ては三度の洋食も敢て迷惑には感ぜざる方なれども、何様にも萬里の異郷に於て故國の食事を撰せらるゝことなれば、お椀刺身焼魚口取食して見れば又自ら故郷夏かしき情あり併しながら其實豫想程に珍重にも感せず、爾來到る處日本料理の御馳走は寧ろ有りがた迷惑の方となり、漬物に茶飯よりは上等の「チイス」が好物となり其極「ライスカレー」も嫌ひになれりと言ふて同行に、さりとはキツイ見限り様なりと笑れぬ。
當港の南部に「ユニオン、アイロン、ワーク」と稱する造船所あり、三四の船渠を有し、鐵工、造船の業頗る盛なり、前年我千歲艦を製造したるも此工場なり、われ等の一見せし時には軍艦商船大小六七艘、建造し居れり、職工の數三千七八百人、

一箇年三四萬噸位の製造差支なしと云ふ
我郵船會社と太平洋郵船會社とは従前よりの因みもあること、迎同社の社長「ハンチントン」氏より、わが社長及び一行を「ユニオン、クラブ」に午餐に案内せり、其節同席せしは「ハンチントン」社長を首め、副社長「シユエリン」、南太平洋鐵道會社の副社長「スタップス」、税關長、商業會議所長等知名の士十六七名計りなり、「ハンチントン」氏は現に南太平洋鐵道會社の社長を以て太平洋郵船會社の社長を兼ね居る、米國有數の事業家にして、七十九歳の齡を重ね白髮頽然たれども、元氣もよく勢力も赫々たる一老爺なり、平生は多く紐育に住し、桑港に來ること一年に二三回に過ぎず、此度幸に來合せ居たるを以て自ら主人となりて此會を催したるなり、其後われ等英國在留中此翁の計に接したり、其爲め米國鐵道會社に及ぼしたる影響少なからずと聞く。
われ等は五日間程南方に遊び再び桑港に還り來り、夫より北方に向ひ出發せんとせし折柄、日本より正金銀行頭取相馬永胤氏と外に銀座の太津屋主人何某、パレース、ホテルに來着、此に於て一夕會食、食後我接客室に相集りて雜談を

聞はし、大津屋の主人が同船せし統計家の何某と船中にて蚤が下の臥床より上の臥床に飛び上ると云ひ、否や上の臥床より下の臥床に飛び下るなりと蚤の喧嘩をせし話を始めるやら、相馬君が維新後初めて洋行を企て當地に來遊せし時の懷舊談を面白く話すやら、日本人同士にて遠慮もなく打ち與せし所へ一人の壯年黒澤某と名乗り相馬君を訪ひ來たれば是をも同じく我室内に通じ相馬君が來意如何にと尋ねれば此男亦餘程奇妙なる變物にて「自分は先年洋行の念止み難く小村公使の米國に赴任するを聞き從者の一人にも泣いて頼みたれども聽るされず其後突然横濱より石炭船に乗込み當地に來着し辛苦中過日より「ゼルマン、ジニ」の一商家に雇れたる所不思議の縁にて其家の娘と既に結婚の内約迄成立したれども果して之を遂行すると我が一身の爲めに利益なりや否、自分にて確と判断付難き故、御教示に預からんとて推參せりと其來歴を述ること滔々又喋々、本人は意氣頗る軒昂の有様なれども聞入る一座の人々、何れも頤を解かん計りなり、是が眉目秀美の好少年なれば斯る小説的のことも強ち絶無とも言ひ難けれども熟ら其容貌を見れば矮小黎面

の一杯訥漢なれば何として、實事とは思はれず相馬君も能き加減に諭して歸らしめぬ、領事館などにも此話は知り居る由にて何れも今に半信半疑の中に在りと云ふことなり、其後如何になり行きし歟、果して本人の言ふ通なれば亦是天外の一奇縁と謂ふべし、われ等は五月十五日の晩に「ポートランド」に向て桑港を出發す

「ロス、アングルス」

五月八日の午後五時われ等一行四人、南方に遊ばんと桑港より「ヨークランド」に渡り、南太平洋鐵道會社の汽車に乗りぬ、我國の鐵道とは違ひ廣軌にして車輛は高くして且つ大なり、途中にて一夜を過す筈なれば寢車中の特別室一ツと通常臥床二ツとを求めたり特別室は別に一區劃をなし面洗ひ所并に便所之に附屬して四人迄臥することを得れども夫にては少しく究屈なるを以て二人丈け此に入ることゝしたり總て米國の汽車は長途の旅行に差支なき爲め設備向萬事行届き居り裝飾亦佳麗なること、平生我汽車に慣れたる眼にて

は一驚の外なし、唯其速力早きを以て車體の動搖も自ら激しく、加ふるに外部より侵入する飛塵を防ぐ爲めに窓は多く硝子の二重戸なれば、室内何となく蒸せ苦しき思あり予は始めの間多少車暈の氣味を覺えたる程なり外の人々も皆餘り心地宜しからずと話し居れり

桑港を出でより日没迄の間は、車平野を走る、芳草青々たる所に牧牛牧馬の戯れ遊ぶさま自ら雄大なる氣象あり、食を車中に執りて眠に就く臥床の上にて洋服の脱き着、随分と難儀なり、夜間も亦停車場の着發毎に、車に激觸を感じ夢の破るゝこと幾回なるを知らず翌日起き出ればコハそも如何に昨夕迄の沃野とは大違ひ車は漠々たる荒原を無遠慮に走り居り車窓眼に映するものは短き野草と折々其間にノロ々々としたる一種の霸王樹あるのみ、晝前よりは地漸く溪山の形をなし、綠樹亦少からず斯の如くにして午後一時半「ロス、アングルス」市に着す、桑港より里程四百八十二哩

「ロス、アングルス」は南カリフォルニアの野より出で太平洋に朝する同名の河上に在り海を距ること直徑十五哩、米國に於ける密柑、葡萄等菓物の大市場

なり此邊一體氣候温和、寒からず暑からず、常に七十度内外の平均を保ち居れば花の絶る間なく密柑の如き一樹に赤く熟したるもの、青きもの、花落ちて漸く實を結びたる計りのもの同じ様に生長し傍に苔もあれば花もありて中々に面白し市中の人口今にては凡そ十萬餘ありと雖も十年前に在りては僅に一萬一千に過ぎりしと云ふ、長足の進歩を爲したるものと謂ふべし、殊に五六年前市の北端に於て石油坑を發見して以來頗る繁盛に赴けり、そのとなり市内には電氣鐵道、ケーブル、カー等の設も行渡り、道路も清潔なれども新開地のと連町端れに行けば直に空漠たる原野に連り未だ幾多の開發を待つものゝ如し、馬車を驅りて「グリビス」公園を巡る種々の草花及び南部特殊の棕櫚、椰樹の類多く翠雲空を覆ひ錦繡地上に班々たり、而して遙かに市外を望めば邱陵起伏、綠樹點在、數百の油槽參差として林を爲す風光頗る佳なり、此市に於て最も人目を惹くものは家屋の建方の趣味に富むこと是なり、輪奐宏壯、雲に入るの樓榭は絶て見ざれども、二三階位の家にして其設計に深く工夫を費したるもの多く一として閑雅幽靜の趣を存せざるはなし中には移して林間閑を養ふの

別荘として極めて適當なるものあれば又海邊を避くるの小亭として妙な
るものあり百種千狀互に其奇巧を誇るに似たり加ふるに庭前には樹の緑な
るあり草の青きあり花の紅なるあり夕陽將さに没せんとする所佳人の運動
がてら自ら花に澆くの有様など大に畫趣に富む我邦人は常に西洋風の建築
を雅致に乏しと擯斥すれどもそれも全く建て様に依ることを知れり
此地には我邦人も大分居る由にて二三の小商賈に従事するものありと聞く
而して此等の連中にて組織したる日本人會なるものありわが社長の來遊を
歡びて花を贈り好意を表せり社長も其志の殊勝なるを喜ばれぬ

此地より二十五哩太平洋岸に於てサンペドロといふ一港あり近來百萬弗以
上を費して港灣を修補し二十呎迄の喫水なれば船舶の出入差支なく現に桑
港等への船便ありと云ふ之を此市の港口と見るも可ならん

此邊より産する密柑の中にて最も味よきは無種子柑なり其繁殖の成行に就
き面白き話あり之を左に記るす

千八百七十二年夏ノコトナリ當時巴西國ノ「パピヤ」ニ駐在セシ合衆國ノ

領事ニ「ウキリヤム、エフ、ジャドゾン」ト云フ人アリ偶々六十哩計リノ奥ナ
ル「アマゾン」河ノ北岸ニ無種子柑ヲ生スル樹少シ許リアルコトヲ聞キ原
來學者風ノ人ナレバ忽チ好奇心ヲ發シ折柄「フロリダ」ニ於テ密柑培栽業
ノ起リツ、アル時ナリシカバ此無種子柑ヲ彼處ニ移シテ試ムルコト最
モ妙ナルベシト考エ乃チ一土人ヲシテ河ヲ逆リテ其所ニ往キ右無種子
柑ノ見本少々ト苗木少許トヲ取り歸ラシメ其苗木六本ヲ濕フタル苔ト
粘土ニテ枯レザル様ニ包ミ華盛頓ナル農務省ニ送り世ニ廣メラル、様
勸言セリ然ルニ農務省ニテハ領事ノ熱心ニ引換エ餘リ此樹ノ事ニ就テ
驚キモセズ從テ注意モ加エザレバ哀レヤ馬鞭ヨリモ猶ホ短キ此嫩苗木
二本ハ農務省ノ園内ニ於テ枯死シ殘リシモノモ數箇月ノ間忘レタル様
ニ打捨置レタリ

越テ千八百七十三年ノ冬「メイン」州ノ人ナル「ホーレイシヨ、チベッツ」夫人
當時「マサチューアセッツ」州選出ノ議員タリシ其從兄「バットラア」將軍ノ一
家ヲ華盛頓ニ訪問セリ是ヨリ先キ夫人ノ夫「チベッツ」氏ハ「ホストン」ヨリ

「ロスアングルス」ニ移住シ今ヤサンバアアゾノ深ニ於テ一區ノ官地拂下出願中ニテ追テハ菓樹栽培ノ見込ナレバ其妻ニ申遣ハシ「バットラア」將軍ニ頼ミ農務省ニ就キ南部カリフホルニヤニ適スル菓樹ノ種苗ヲ請ハシメタリ此ニ於テ農務省ハ夫人ニ付スルニ各種ノ種苗ト共ニ彼ノ暫ク打捨置キシ巴西ノ無種子柑ノ種苗ヲ以テセリ

右四本ノ苗木ハ一週間ヲ出ズシテカリフホルニヤニ着シ直ニ栽培セラレタリ實ニ千八百七十三年十二月ノコトナリ然ルニ右ノ内一本ハ注意行届カザリシ爲メ枯死シ又一本ハ牛ニ踏マレテ遂ニ喰ヒ去ラレタリ歳月荏苒五年ノ後ニ到リ殘リシ二本ハ追々生長シテ七十八年ノ冬初メテ十六顆ノ實ヲ結ベリ是北米ニ於テ無種子柑産出ノ始ナリ

此ノ始メテ産出セシ無種子柑ノ見本ヲ南部カリフホルニヤノ各地ニ送り廣ク菓樹栽培家ニ示シタレドモ多クハ皆是ハ偶然ノ産菓ニシテ毎年果シテ斯ノ如キ美菓ヲ結ビ得ルヤ大ニ疑アリ必ズ數年ナラスシテ原トノ粗硬ナル有種子柑ニ復スルナラントノ説ヲ懐キ近隣ノ人々ハ皆來年

ノ結菓コソ見モノナレト待チ受ケ居タリ然ルニ翌年ハ凡ソ一箱程ノ産出アリ去年ノ菓實ニ比スレバ優ルモ更ニ劣ル所ナキ名品ナリシカバ「チベツ」氏ノ無種子柑ノ名聲今ハ噴々トシテ南部カリフホルニヤ一面ニ響キ渡リ數百哩ヲ遠シトセズシテ態々車ヲ驅リテ此樹ノ見物ニ來ル者モアリシ程ナレドモ此時ハ未ダ此無種子柑ガ遂ニ一産業トナルニ到ルベシト信スル者ハ二三ノ人ニ過ギザリキ

「チベツ」氏自ラハ此變種ノ密柑ハ遂ニ我家ノ福ノ神トナルベシト思ヒ二年ノ間、莖根ヨリ繁殖ノ法ヲ驗セシモ其効ナク最後ニ有種子柑ノ樹枝ニ無種子柑ノ若芽ヲ接木スル工風ヲ考エ出シ幸ニ其効アルコトヲ驗シタレバ即チ多クノ有種子柑ノ若木ヲ作り之ニ接クニ無種子柑ヲ以テシ茲ニ始メテ繁殖ノ途ヲ開キ得タリ

左レバ千八百八十二年ノ冬ニハ彼ノ「チベツ」氏ノ原樹二本ヨリ接木法ヲ以テ無種子柑樹ヲ作ルコト南部カリフホルニヤヲ舉ゲテ大流行トナリ翌年ニハ接穂ヲ求ルモノ益多ク一打五弗ニ賣レユキ中ニハ上等ノ接

穂ヲ得タシトテ一本ニ付一弗ヲ惜マザル者アルニ至リ八十四年ニハチベツツ氏ノ原樹ヨリ接穂料ノ上リ高千五百弗ニ達セリ此ニ於テカ遂ニハ其窃ニ盗ミ去ル者アランコトヲ虞リ原樹ノ周圍ニハ高キ垣ヲ匝ラシタリト云フ一二年ノ後ニハ此等ノ接木シタル樹追々生長シテ多クソ接穂ヲ得ルコトトナリ其中ニハ又先キノ樹ヨリ漸次菓實ヲ結ビ出シ今ハ有種子柑ヲ培栽スルモノ復タ一人ヲ見ザルニ至レリ夫レモ其筈ニテ從來有種子柑ヲ栽エシ時ニハ十年ヲ平均シテ一年一エークルノ收穫百弗以内ニ過ギザリシモノ無種子柑ニ變ジテヨリ平均二百五十弗乃至三百弗ノ收穫アリトノコトナリ

初メチベツツ氏ガ彼ノ苗木ヲ得テ培栽セシ時ニハ僅ニ人家三十軒ニ過ギザル一小村タリシリバサイドモ今ハ人口一萬四千ヲ有スル有望ナル一市トナリ世界ニ於ケル最大ナル柑類ノ產地タリ現ニ其培栽スル所ノ地面ハ凡ソ一萬六千エークル凡ソ七千町歩リバサイドヨリ積出スモノ無慮百六十萬箱此價格凡ソ二百十萬弗ニ上レリ是レモ畢竟ハ彼ノ二本

ノ無種子柑樹ノ御蔭ト謂フモ過言ニアレザラバ土地ノ新聞紙ナドハ今尙ホ生存スル彼ノ二樹ハ宜シク之ヲ公園ニ移シテ匝ラスニ鐵柵ヲ以テシ永ク紀念トシテ培養スルコト然ルベシト勸誘シ居レリ

「サンデエゴ」

南カリフォルニアの尾にして墨西哥の頭に程遠からざる所太平洋の水東に向て灣入島あり其口に横はる一線の地脈絶ざること縷の如く此島より延て南に走りて大陸に連り以て灣を掩ふ片扉を爲す是れなん北米南部の良港サンデエゴにして水路は島の北に在り山陰に沿ふて灣に入り更に南に向ひ島の東裏に到る灣廣くして水深く數多の大船巨舶を泊するに差支なしと雖も港口を距ること二哩程の所に砂洲あり其水深干潮の時に於て二十二尺に過ぎず之より以上の喫水を有する船舶は潮待ちして出入せざるべからず是れ其一大缺點なり近來長さ七千二百呎の「ゼッチイ」を設け水深を増す工夫中にして其工事落成の上は喫水三十呎迄位の船舶差支なく出入するを得べしと

の話なれども果して豫定通り成功するや否や疑はしき問題なり。サンデエゴ市は此灣に臨みて立ち人口未だ二萬二千に過ぎずと雖も陸に於ては、サンタ、フェ鐵道の一端こゝに出海に於ては近年カリフォルニア、ソリエンタル汽船會社の船舶、此港より發して東洋に航することとなり水陸連接の路も開けたれば今後追々發達することなるべし。原來此地は千八百七十年前後より顯はれ始め千八百八十三年、サンタ、フェ鐵道の通せし時に到る迄は別に見るべきの進歩もなかりしかど其以後は漸く人心を惹き八十六七年の交に至りて忽ち一大狂瀾を巻き起し千金一擲の黄金世界は此に在りと四方より集る投機者流日に幾百なるを知らず八十五年には僅に三千五百を以て數えし人口、八十七年には突飛して二萬五千に上れり然るに此等の人々の豫想に反して其割合に土地繁昌せざりしかば投機熱漸く醒め去りて四方に散亂するもの多く一時は人口一萬六千迄に減じたりと云ふ米國にては凡そ新開地の有望なる所には忽ち地所賣買の投機大流行をなし其爲め巨萬の資を得るものも尠なからず「サンデエゴ」に鐵道の開通後、一時人氣の集まりしも全く

之れが爲めにして畢竟頃刻の變態に外ならず寧ろ其以來の發達は遅々たるに似たりと雖も順序ある方なれば従前の如く再び退步することはなかるべきか、現に此港は棉花の産地に近く桑港に比すれば凡そ六百哩、タコマ「晚香坡」に比すれば千六百哩乃至千八百哩の鐵路運搬を省き得るが故に我邦に向け輸出すること追々盛になりゆく傾あり今最近の統計に依るに此港の輸出價格は實に次の如く増加したり

千八百九十八年六月三十日に終る一箇年間	輸出價格	四十萬千八百三十九弗
九十九年	同	百四十萬七千三十弗
同	年十二月に終る半箇年間	百五十八萬千五百四弗

然れども棉花の外は輸出品としては唯僅に多少の菓物あるのみにて東洋よりの輸入に至りては未だ寥々として見るべきものなし。今後の發達は一に「サンタ、フェ」鐵道の振起と「カリフォルニア、ソリエンタル」汽船會社の進退如何に因るべし但し汽船の爲めには此地にて石炭供給の途なきこと不都合なり。われ等は五月十日の朝八時五十分「ロス、アングルス」發の「サンタ、フェ」鐵道列車

に乗り幾多の柑村を過ぎり午後一時サンデエゴに着す此間百二十六哩なり何がサテ新開地にて人珍らしき所のみ迎、旅館には直ぐと商業會議所の役員書記等尋ね來り交もく、港灣の説明、名處古跡の講釋等中々に怠りなし中にも書記先生の大なる名刺の一角には當港輸出入價格兩三年間の比較を印刷し以て當港發達の概狀を示し居るなど流石に役目だけありて抜からぬ仕方と思はれたり

譬へば猶ほ普請を仕掛けて費途に行き詰まりたる家屋の如く「サンデエゴ」の市は大に整はんとして未だ整ひ得ざる象あり從て其中自ら多少荒涼の氣味なきにあらずと雖も道路も清潔にして電燈あり、電車あり、灣に突出したる棧橋もあり小なりと雖も兎も角總ての機關を備へたるは感心なり町端れの地所の賣物には標札を建てて之に「五年の後には人口五萬に達すること受合なり」と附記し居るも一奇なり

「コロナド」とは彼の「サンデエゴ」灣の前に横はる半島のことにして表は太平洋に面し裏は灣に臨み風景極めて清し、こゝに有名なる「ホテル、デル、コロナド」

といふ旅館あり巍然たること城の如し原來此地は氣候温和、四時變りなき好海邊なれば、平常忙劇の間に身を置く人々にして暫時の休暇に來りて塵胸を洗ふもの多く之を當てに設けたる旅館なれば美盡し、善盡し、贅澤の上にも贅澤を加へ外にしては庭園の趣向、海水浴の工夫、内にしては舞踏室の結構、食堂の設備等、流石に華奢を競ふ米國の紳士貴女社會の遊び場處たるに耻ぢず、われ等日暮るゝ前、渡船に頼りて灣を渡り晩食を此「ホテル」に試む、願へば始めより來りて、こゝに投宿すれば宜かりしに遊び場處のこと故、食堂に出る服裝が面倒なるべしとの説あり遂に「サンデエゴ」の田舎旅館に腰掛けしは、われ等の大失策にて來て聞けば何も、強て禮服用の面倒もなき由なり、而して諸般の設備向は前申す通にて之を「サンデエゴ」に比すれば其差月髓管ならず一はむさくるしき食堂に薄ぎたなき將男の給仕、一は明窓淨卓清漣縁を送くる間に可憐なる佳人の給仕、女の給仕は餘り他に例を見ず、急に「サンデエゴ」に歸るが、いやになりしも道理なり、此旅館には室の數七百餘あり高さは四階に止れども中央に眺望臺あり之に登りて望む時は「サンデエゴ」の灣よりして市、市より

して邱陵綠樹皆眸裏に落つ、西に向へば又太平洋の水茫々として天に連なり人の心胸を濶然たらしむ、寔に得がたきの眺望なり、われ等食事を終りて庭園を散歩す、時に晩來の驟雨霽れて涼月中天に懸り脈々たる微風棕櫚の葉を戦かし快きこと言はん方なし、既にして夜は追々更けて十時近くにもなれば返すくも惜きことながら歸らぬ譯にも行かず、サンデエゴに引返し、互に相見て愚痴をこぼしぬ

十一日の朝八時過ぎ、サンデエゴ出發

「サンノゼ」及び「リック」天文臺

「サンデエゴ」より「ライクランド」迄の汽車は原と來し道を還ることなれども夜と晝との違ひにて風光亦自ら異なるを覺ゆ、十一日の日没前には汽車既に「モハベ」の荒原を過ぎ、シヤラ、ネヴァアードの山中に入る、峯巒重疊中には雪を戴くもあり最も高きは水平上四千二十五呎に達す、下り路になれば綠樹溪を埋め暮烟靉靄、鐵路は宛も繩をたぐりたるが如く、周匝又周匝、幾多の墜道を経過す

ただ奇觀なり往く時には此邊全く夢中なりしが還る時に之を賞し得たるは幸と謂ふべし、十二日の朝八時過ぎ「ライクランド」に着、サンノゼより「ハミルトン」峰上の「リック」天文臺に遊ばんと停車場前の一小亭に就き朝饗の立喰ひを試み、九時發の列車に乗すれば十時四十分には既に「サンノゼ」に着す、こゝは人口三萬餘の一小市なれども菓物の本場なると氣候の温和なるとにより遊人の來りて此を過ぎるもの少なからず、旅館「グアン・ドーム」は長樹綠陰の裏に在り塵埃到らず至て閑靜にして又清潔なり

午後一時、特に馬車を雇ふて「ハミルトン」峰さして旅館を發す、一路平坦、田野の間を走ること凡う四哩許り路漸く山に入りて登る植る所多く橄欖、其間に點々人家あり翠柳の蔭に吼ゆる牧牛、茂林の裏に戯る馬群、己がジシに樂む所を樂むも面白し既にして奇樹怪巖、既にして疊巒幽竊、一鞭々々風光幽邃を加ふるながら眼に落つる遠山近水は却て次第く壯快の状を増し來る走ること更に十五哩許りにして「スミス・クリーク」と稱する幽竊に下る地稍開けて、谿流潺湲たり谿頭一字の旅舎あり、又外に二三の樵屋あり、是より山頂迄七哩路甚

だ急にして曲折三百六十五回、老たる榭樹多く其下には種々の奇花、紅紫を競ひ秋ならねども、蟲聲の唧々たるあり、栗鼠の人を見て驚き走るあり、時に或は車を停めて花を折り鳥を聞き休みながらにして登り七時頃天文臺の在る處に達す地を抜くこと四千二百尺の高き峰頂のこと、逆氣候寒冷、濕雲飛で人の脚底を埋む、原來吾等の此遊を思立ちしは此天文臺に在勤する技師「ハッセ」といふは川田氏の同窓にして是非登山ありたしと同氏迄申來りしに因ることなれば、先づ「ハッセ」氏の住宅に就き共に暖爐を圍み馬車にて屈みし身體を延ばし、晩食の馳走に預りて後其案内に依り天文臺を覽る、同氏は流石に斯る人里遠き山上に日月星辰を相手に身を學術に任す人だけありて年猶ほ若しと雖も何となく仙骨颯然たり其妻女も同じく川田氏の同窓なる由なれども此夜は親類の許に往きて不在なりき

抑も此天文臺は桑港の豪富「ゼームス・リック」と稱する篤志家が七十萬弗の資金を義捐して之を創設したるものにして現今「カリフォルニア」大學に於て管理し居れり備ふる所の望遠鏡大小二個あり大なる方は口径三十六吋、長さ六

十呎、世界にて指を屈せらるゝものゝ一なり、其基礎の下には生前の意思を表せんがため「リック」氏の遺骸其死は千八百七十六年にありを措けりと云ふ一體此大望遠鏡は唯土曜日の夜に限り、公衆の縦に窺ふことを許す定めにして此夜も偶ま土曜日に當りしを以て衆庶の登山するもの頗る多かりき然るに折悪しく雲霧糝糊、天色清明ならず僅に折々雲の絶間に月光を漏らしたれども大望遠鏡を霧に晒らすこと甚だ禁物なれば何れも之を窺ふ能はず、われ等も漸く小なる方に頼りて月又は金星、水星等を窺ふことを得たるのみ小なる方にも猶ほ細泡の集りたるが如き月の表、至極鮮明に見え金星、水星は宛も満月程の大きさに見えたり、之に就き「ハッセ」氏は一々丁寧に學術上の説明を與へられ又大望遠鏡の運轉方等をも實際に就き細かに話し呉れ、われ等如き素人にも大に興味を感じけり現今山上には臺長「キーラー」氏を首め測天に従事する人々及び其家族等五十人程住し居る由なり

午後十時半、復た馬車に鞭て山を下る此時天漸く晴れ來りて半輪の缺月皓々として中天に懸る雲氣頗る冷なりと雖も神心殊に爽快加ふるに下坂のこと

なれば車の走ること甚だ速かにして登るときには、此所こそ下りには肝膽を寒からしむる所ならめと思ひし嶮岨も知らぬ間に打過ぎ途には各コク／＼と睡りながら打ち過ぎ午前二時には早や「サンノゼ」の旅館に歸り來れり之を聞く此の四千二百尺の峰頂迄斯る馬車道を作るは實に容易ならざる難工事にして爲めに七萬八千弗を要したりと左もありぬべし

翌朝は十分睡を貪り起き出づれば早や午時に近し浴を執りて庭前の樹陰に徘徊す蒼涼の氣人を染め髣髴として何處かに杜鵑の聲あるが如し食後旅館の隣に在る川田氏の知人「ビーンズ」氏の邸を訪ふ大なる建物には非ざれども小奇麗にして庭には多く菓樹草花を植ゆ主婦令嬢交もく／＼われ等を誘ふて其間を緩歩し或は花を伐りて襟に挿み呉れ或は露の滴る如き櫻子をムシリて「ポケット」に入れて呉れるなど左ながら古るき近づきに異ならずわれ等も其愛嬌振りには感心せり

午後馬車を郊外に驅る路平かにして兩側の綠樹重陰蒼々たり而して其間よりわれ等の昨夕登りし「ハミルトン」の峰巒隱現頂上の天文臺は卵殻を伏せた

るが如くに見ゆ、此晚桑港さして還る

「シヤスタ」泉及び「ポートランド」

桑港より北の方彼土關に到る其距離七百七十二哩、南太平洋鐵道會社線なり路多く山谷の間を走り最も高き所は水面を抜くこと四千百三十呎に及ぶ青山綠水老樹長松迎ては送り送りては復た迎ふ其幾千回なるを知らず蒼涼たる嵐氣自ら骨に浸む思あり桑港を出て凡そ三百二十餘哩の所に有名なる「シヤスタ」の源泉あり瀉車暫らく停る、此所は幽谷の裏にして左に溪流淙々石と相激して清き聲あり右の山腰に於て泉湧くこと數十條の噴水を見るが如く高きは五七丈に達し飛沫人衣に濺ぐ其下石滑に苔翠にして極めて涼しげなり此より十數歩にして復た一泉の蟹眼沸々たるものあり屋を作りて之を覆ひ石を甃て桁を爲す其周圍に幾多の杓を備へ人の汲で飲むに任ず瓶詰にする場所は其上に在り原來此泉は炭酸性を帯び味猶ほ我邦の平野水に似たれば米人は好みて之を飲用に供し「ウスケー」の割水として調法すること英人

の「アポリナリス」にも優れり左れば其年々の販賣高も中々少なからずと聞く。走ること幾ならずして車窓忽ち一個の白芙蓉を望む、これなん「シヤスタ」の峰にして其高さ一萬四千四十呎、シッスン停車場より麓迄十二哩なり噴火山の名残を留めて其形圓錐狀を爲し全峰皆雪我富士のねに髣髴たり山中には噴火坑の迹又は温泉等、いろ／＼覽るべく遊ぶべき所もあれば好奇の男女、年々登山するもの頗る多き由なり此日は暮るゝ迄車は尙ほ小米齒裏を走り折々人家村落の點在する趣、中々に得がたき風景なり中にも人をして最も驚かしむるは其林樹に富みたる一事にして殆んど無盡藏の富源と稱するも過言にあらざるべし如何なる方法を以て取調べたるかを知らざれども「フレゴン」一州内の材木は凡そ二千三百五十億呎、厚さ一時幅一呎、長さ一呎を材木の「一呎」と稱するなりと、「ポートランド」に關する記録中に散見せり「フレゴン、バイン」即ち「アメリカカ」松の名聲天下に噴々たるも洵に以えあるなり。翌れば五月十七日の朝「ポートランド」に着きぬ此地は「ウキラメテ」河上に在り此河の「コロムピヤ」河に合する所迄十二哩、又同河の河口「アストリヤ」迄百五哩、

北太平洋に通ずる良港なれども「アストリヤ」より沖の方十三四哩にして「コロムピヤ」河の流砂堆積して洲を爲し其上水深からず又「アストリヤ」「ポートランド」間の河水、淺き所は干潮の時二十二三呎に過ぎざれば、大船巨舶の出入に不便なしと謂ふべからず現今人口凡そ九萬餘、千八百六十年には二千八百餘、八十年には一萬七千五百餘に過ぎざりし、南には南太平洋鐵道あり北には北太平洋鐵道あり又東に向ては「フレゴン」鐵道ありて米大陸の諸線に連続し、海には東洋に通ずる航線あり、將來頗る有望なる地なり輸出物産は彼の「フレゴン」州の木材、小麦、麥粉、「コロムピヤ」河の鮭等其主要なるものなり最近一箇年間の輸出入品價格は凡そ一千万弗餘、出入船舶は凡そ二十六萬七千噸に及べり此地より東洋に通ずる航線は數年前「サミュエル」「サミュエル」會社に於て經營し居たりしが其後同社は手を引き、「ドッド」「ウエル」會社之を襲き大抵三四艘の汽船を以て毎月乃至四週一回位の定航を爲せり然るに此會社も千九百年即ち昨年の末には「フレゴン」鐵道との水陸連結契約満期となり繼續の運に至らず此に於て此線路は更に「フレゴン」航業鐵道會社にて營むこととなり其後變じて

「ポートランド、エシヤチック」汽船會社の手に移り現今三四の汽船を以て營業し居れり併し此後猶ほ如何に變化するか期し難き様子なり
此地には「ハアダア」と云ふ大北鐵道會社の代理人あり又「シエトル」に於て我社の事務を取扱ふ大北鐵道會社員「スタッドレー」と云ふ人もこと迄出迎ひ共に周旋怠りなかりき又「ワレゴン」鐵道會社より態々其所有の小蒸氣を貸し呉れ一同之に乗じて河を上下し港内の模様を視ることを得たり河の幅は先づ永代橋下の隅田河に凡う其一半を加へたりとも思はるべき程にて二三の鐵橋之に架し大船は多く其下流に於る棧橋に横付けとなし荷物の積入陸揚をなし居れり「ワレゴン」鐵道會社の車輛製造所「ウキルコックス」の製粉場等は皆前岸に在り

一體「ポートランド」は河に沿ふたる地なるを以て其兩岸には起伏する邱陵或は茂りたる林樹多くして風光蒼涼なるが上に「フールド」「アダムス」「セント、ヘレン」等の高山面に當りて聳る猶ほ三個の玉盃を倒にしたる如く見ゆれば山水相待ちて愈趣を加ふ市の後なる高き小山の上に公園あり之に上りて望むとき

は雄大なる眺望なり又われ等の宿りし旅館「ホテル、ポートランド」と稱するは恐らく北太平洋岸に於ては他に及ぶものなき好建築にして宏壯とは謂ひ難きも極めて清潔にして食堂はじめ休息場等萬事裝飾向も行届き階下には古代の米國土人の住居を摸じ其遺物を飾りたる小休息室の設け等もありて面白し

十八日の午後北太平洋鐵道に頼りて「タコマ」に向ふ昨日迄乗りし南太平洋線の列車と違ひ車中の裝飾太だ奇麗にして書籍縱覽所、眺望所、酒保、理髮店の設備備れり路筋は全く「ワレゴン、バイン」の茂生したる林間にして其少しつゝ開墾したる處には牧牛、野草に遊び杖大の蕨芽、地を抽て叢生す火にて林を焼き開墾に便したるあたり頗る我北海道の原野に似たり路程百四十四哩、午後八時比「タコマ」に着きぬ

「タコマ」

北太平洋の水、深く北米の大陸に灣入して其形木の根の如く幾多の岐線を爲

し陸と犬牙錯雜、水は灣となり港となり、峽となり、陸は島となり、半島となり、岬となる、而して其入口に横るを、晚香坡島とす、島の南の水路を「ジュアンダ、フウカ」峽と稱す、實に十六世紀の頃に當りて「ジュアンダ、フウカ」なる西班牙人が、墨西哥の西岸より航し來りて發見せし所なり、然れども此人も峽内迄は進入せず、其後二百年間、數多の探檢者ありたれども、未だ此邊に上陸したるものなく、彼の有名なる船長「クック」の如きも此の沖は通航したれども、遂に之を認めずして経過せしもの如し、越て千七百八十七年に至り、船長「ロバート、グレイ」ボストンより二艘の商船を帥、來り「グレイ」港、「コロムビヤ」河等を發見し、其後五年、英國海軍の艦長「ジョージ、ヴァンクハア」始めて「ジュアンダ、フウカ」峽に進入して、「アドミラルリチー、インレット」「ビュゼット、サウンド」「フールド、カナル」等の水路を發見して、夫々之に命名せり、夫より千八百五六年の交に至り、「ルイス」及び「クラーク」の陸上探檢隊、非常の艱苦を忍び、「ミスウリー」河を溯り、落機山を越て、「クリア、シオタア」「スネイク」及び「コロムビヤ」河に沿ふて下り、遂に其河口に達せり、爾後引續き此地方は發達の運に向ひ、千八百五十三年、和聖東州の境域を定め

同八十九年十一月始めて合衆國中の一州となる、當時其人口未だ僅かに七八萬の上に過ぎざりしと云ふ

「ビュゼット、サウンド」は其蔓延する所甚だ廣く、合計千九百九十二哩の海岸線を有し、其幹線のみにてても百十七哩に及び、幅は大抵八哩位あり、「タコマ」も「シエトル」も共に其内の一港たり

青山迴合、水紺碧の色を湛えて靜なること湖の如く、一峰南に當りて兀然、天半に秀つ、其高さ一萬四千五百十呎、千秋の雪、玲瓏として玉に似たり、之を「タコマ山」と云ふ、「タコマ」は此山水明媚の裏に在り、灣深くして大船を繋ぐに足る、其人口千八百八十年には僅に千九十八人なりしもの、現今は五萬餘に達せり、北太平洋鐵道此地を以て其終點となし、北太平洋汽船會社の東洋航路と水陸互に相連結す、輸出物産は小麥、麥粉、木材を重なるものとし、製粉場、製材場の數も少なからず、其最近（一八九九年）の輸出高左の如し

外國行 三百六十三萬、ブツセル 價格二百二十六萬弗

沿岸各地行 十四萬三千、ブツセル 同 九萬千弗

「タコマ」

外國行	四十萬バルレル	同	百十六萬弗
沿岸各地行	十萬バルレル	同	三十五萬弗
木材	八千五百二十八萬呎	同	九十三萬弗

右の外石炭其他諸雜貨の輸出を合すれば輸出價格千二百萬弗之に對する輸入價格は八百六十六萬弗なり又出港の船數は五百四十八艘にして此噸數は七十一萬五千餘噸

「タコマ」の港は北より南に向ひ市街は西岸の高地に在り灣に面する所は數十丈の懸崖なれば船着の便宜しからず目今崖下を埋立て或は切り下げ此に棧橋を造り鐵道を敷き來りて船と汽車と互に相連接するの便利を付け居れども其規模頗る究屈にして此上の擴張困難なるに似たり而して是等の要地は何れも皆古くより北太平洋鐵道會社之を占領し他人の聲を許さず近時「ユニオン・パシフィック」線の端を此に出さんとする説あれども形勢前記の如くなれば今は此鐵道出で來るにしても對岸即ち東の方にも新に棧橋倉庫等の大經營を爲す外途なかるべし併し東は西と異なり水も淺く未だ何事も手

の着き居らぬ邱陵なれば之に新設計を施すは容易の業に非ざることと思はる

われ等の遊びし當時は「タコマ」に帝國領事館あり領事林會發吉書記生高木某の兩氏が勤外に「シエトル」に分館を有し書記生一名滞在せり(現今は「シエトル」の方本館となれり)原と「タコマ」と「シエトル」とは同じ「ビュゼット・サウンド」に在るを以て自ら競争の氣味を帯び「タコマ」の市民は「シエトル」に負けじとすれば「シエトル」の市民も亦常に「タコマ」を壓倒せんとする傾向あり而して近來の様「シエトル」は旭日の勢あるに反して「タコマ」は衰えたるにはあらざれども何となく生氣を減じ來り今一際發達思はしからざる所あり此を以て市民は熱心に其勢を挽回せんとし怠らず乃ち常に歡を東洋に結ぶの利を思ひ居ると見えわれ等一行の來遊を聞き盛に歡迎せんとすの計劃商業會議所に起りしも社長の之を斷りしに付き止みたり然れども尙ほ商業會議所の書記は會頭を代表して處々にわれ等を案内せり中にて最も有味に感ぜしは對岸に在る「セントポール・エンド・タコマ」會社の製材場是なり水より巨大なる木材を曳す

り上げて縦に割き横に伐り板となし、柱となし、貫きとなし、棧となす等何れも機械力を用ひ其運動の容易敏速なること寔に言語に絶へたり、而して猶ほ日々使用する職工は七八百人に達すと云ふ以て其製造高の大なるを知るに足るべし

「タコマ」より三四十哩を隔て、石炭鑛二十餘あり年々の採掘高六百三四十萬噸に下らず而て其質も相當に良好なり「タコマ」并に「シエトル」の兩港よりして輸出するもの常に少からず船舶に積入るゝ方法、中々に備れり又銅及び金銀鑛も近くに在り「タコマ」港の入口に大なる鑛鑪を設立し「アラスカ」「モンタナ」「アイダホ」等の鑛物をも此にて鑛解し居り一日に三百四十五噸は製し得ることとなり

「タコマ」と「シエトル」との間には北太平洋鐵道の線路連絡し居れども、われ等は此兩地間を日に數回航通する太北鐵道會社の小蒸氣船「フライヤ」號に乗りて「タコマ」を去りぬ其距離二十四哩、時を費やすこと二時間、五月十九日の晩の六時半頃に「シエトル」に着せり海とはいへ靜にして小波も起らず青山綠樹、曲折

窮りなく風光太だ佳なり

「シエトル」

「シエトル」と云へば我會社船の毎月來往する所、マダ達はぬ京の從兄弟同然かぬぐの噂さに夏かしさも一入にて是迄經來りし所とは異り自ら親類の家に來たる思あり折柄土佐丸も入港中にて、われ等の着くや其乗組の人々を首め大北鐵道關係の人々、又は豫て我船舶に關係ある人々等大勢波止場の棧橋迄出迎ひ、われ等の一行を取巻き「パットラア」なる旅店に案内せられぬ

此頃は「クロンダイク」の採金熱非常にして當地よりの出船に便乗せんと處々より集り來る滯手粟攪みの連中ども其數を知らず從て市中一般に賑かなれども多くは皆蔽衣蓬髮の勞働社會にして晩來醉氣を鼓し踉蹌とさまよい行くさま何となく人氣あしき様に思はる、左なきだに「シエトル」は船着の場處だけありて朝南暮北の無頼漢、出沒常ならざる處なるに今此採金熱あり市中の雜沓推して知るべし併し「シエトル」の長大足の進歩を爲し發達の他に類ひ稀

なるも其幾分は畢竟是等の爲めなればわれ等が見て以て心中に快しとせざる現象もシエトル市の爲めには寧ろ喜ぶべきの光景と謂はざるを得ず此地に在留する邦人は其數頗る多く何れも小商賣に従事す中にも飲食店を業とするもの其大部を占め随分儲けになる由なり左れば白人等の仲間にて之を嫉むこと甚しくわれ等の着する少し前に日本人の飲食店に對するストライキを企て誰れにてもあれ日本人の飲食店に入りて飲食するものは之に暴行を加ふべしと威嚇し一二日の間は日本飲食店の入口に番を付置く等多少の騒ぎありしも何を云ふても最早數十軒の多きに及びたる日本飲食店のことなれば其出入を禁ずること逆も出來がたく遂には白人等の敗北に歸し日本飲食店は依然日増しに繁昌すこのことなり此外日本より毎船來着する労働者少なからず是等は多く此地を足掛りとして四方に散亂するを常としいつも市中に日本労働者の絶間なければ一般に日本人に對する感情宜しからずわれ等散歩の途中にても往々悪口を云ふものあり或る日も一行中の川田氏が旅店に在る理髮所に往き髮刈らしめんとせしに其下使ひの黒奴が忠

告顔にこの理髮師は白人にして日本人の髮を刈ることは甘んぜざるべければ寧ろ断はられぬ先に他に行くがよしと勸言したりし侮辱も亦甚しと謂ふべし凡う日本の労働者は從來北方の鮭漁に雇はる者多かりしが近時は各鐵道會社の保線工夫として需用多く其一日の給料米貨一弗外に五仙宛雇主より周旋人に手数料を支出する由なり、ラリーエンタル、トレイデング會社等にて専ら其取扱を爲す現に此工夫として雇用せらるるもの數千人あり猶ほ需用少なからずと聞く

シエトルは「タコマ」の如く行きつまりたる灣底に位するにあらず「ピユゼット」峽水の弧狀に地を侵したる所に在るを以て前岸への距離も頗る遠く從て港内廣濶南北に延びたる海岸線四五哩あり地勢は後上りの邱陵なれども北の方一少部分の斷崖を除く外其勾配急ならず波止場一帶の地は平坦にして大陸の接續頗る便なり我社船も従前は此波止場の船渠に繫留せしも船體の大きな船渠の塞がり居る場合に不便なるに依り大北鐵道會社に於て巨萬の資を投じ北端の地を卜して新に船渠を作り以來専ら其船渠に入ること

なれり市街よりは凡う三哩程隔り居り往復に多少の不便あれども我社船專用の大利益あれば聊かの不便は償ひ得て餘りあるべし
「シエトル」が始めて白人間に知られたるは千八百五十年にして越て五十三年に至り公然シエトル市の基礎を置けり、その之を「シエトル」と名けたるは近方に住みし土人の一酋長にして勇豪、勢力あり至て白人に親切なりしものゝ名に基きしなり、其後土人と白人との間に鬭争絶えず五十六年には土人大擧して市を襲撃し白人の爲めに打退けられたり七十年の頃には人口僅に千百人、八十年に至りても猶ほ三千六百に過ぎず、八十五年には急進して一萬以上となり段々發達の運に向ひし所不幸にも八十九年六月六日の大火災に罹り全市殆んど烏有に歸し千萬弗以上の損失を來たせり然れども野火固より春草を燒盡くすべきにあらず爾後燒迹は忽ちにして遙か従前よりも壯麗なる家を以て建て充たされ九十年には既に四萬三千の人口あり現今にては八萬を超えたりと云ふ豈驚くべきの發達ならずや粉壁層樓高に倚りて參差たる光景、誰れしも災後十年内の仕事とは思はれぬ程なり

鐵道の「シエトル」に通ずるもの三、こゝを終點として米大陸を「セントポール」迄横斷する大北鐵道を首めとして南に向ては北太平洋鐵道會社の支線あり「タコマ」を経て「ポートランド」に達し南太平洋鐵道線并に「ユニオン、パシフィック」鐵道線に連絡を通じ、北に向ては太北鐵道の支線と加奈太太平洋鐵道の支線あり英領加奈太との間を連接す、海には我會社の米國航線あり其外太平洋沿岸航線ありて北は「アラスカ」、南は「カリフォルニア」及び「墨西哥」に達す、蓋し海陸交通の便、斯くの如く開けたるは「シエトル」が今日の發達を致せし原因にして我米國航線の如き亦之に與りて多少の力ありと謂ふも不可あるなし大北鐵道會社にては疾くより眼を此地に注ぎ市の南北兩端に於て巨萬の資を惜まざず漸次地所を購入し船渠を首め集車場等の設備、日に怠りなく一兩年の後は二萬噸に近き大船二隻をこゝより東洋に通航せしめんことを企て居り既に造船にも着手し居る程なれば「シエトル」市の發達は今後益見るべきものあるべし想ふに今の勢を以てすれば他日「ビュゼット、サウンド」に於て「カリフォルニア」の桑港に於けると同地位に立つものは此「シエトル」の外に之れなから

ん

此地より輸出する重要な物産は石炭木材小麥麥粉等にして最近(一八九九年)の統計に依れば輸出年額四百六十五萬七千弗に達せり輸入は年額五百八十六萬弗主として支那日本及び英國より來る諸雜貨なり

五月二十一日此地の顔役にて今は代言を業とし大北鐵道會社の法律顧問なる前判事「バアク」氏の案内にて小蒸氣を仕立前岸に在る「ポート、ラルチャード」の海軍船渠「ポート、ブレンクレイ」の製材場を巡覽し「シエトル」に還り來りて「モラ」造船處を覽る商業會議所の頭取書記「二三」の市會議員等も同行種々と説明の勞を執られたり海軍船渠迄は「シエトル」より十四海里船渠の長さ六百五十呎島陰に在りて位置は申分なき様なれども其構造に至りては「セメント」塗の上を木材にて疊みたるのみにて至て無造作なり近邊に二三十軒の家屋あり職工事務員等之に住す其外未だ何等の設計もなく寧ろ寥々たる方なり製材場は海軍船渠より少し手前の方海水の深く灣入したる隅に設けられ規模甚だ宏壯此邊の人々は世界第一なりと誇り居れり其當否は兎も角現に十數艘

の大小帆船其前に碇泊し木材の積入を爲し居る所景象頗る盛大に見ゆ「ポートランド」「タコマ」にて見たる製材場よりは確かに大なるべし支配人の「ケヤンベル」と云ふ人「一々」丁寧に諸工場を案内し遂に其社宅に誘ひ美酒を饗せられぬ此工場に雇はれ居る日本人其數二百に餘り何れも能く其業に適すと聞くわれ等が此工場に來りて最も驚きたるは大なる木を斷ちて板となし桁となし而して切り餘りたる其切屑を焼き捨つる装置にして其竈は高三十尺にも餘る丸き鐵筒狀を爲し夫より噴出す熾炎は晝夜を分かず天を焦かし「シエトル」より之を望めば左ながら對岸に火災あるかと疑はるる計りなり左れば日々焼捨る木屑實に幾許なるを知らず又以て此工場の盛んなる一斑を推知するに難らず而して是等の木屑は此所にてこそ不用にして其處分に斯の如く苦心するものなれば若し我國などに持ち來れば薪は無論猶ほ各般の用途あるべきものなれば惜しきこと限りなし下されと云へば唯は愚か少々足し前しても欣でくれる所なれども運賃を計算すれば矢張引合にならず寔に如何とも致方なき者かな凡う此等製材場には何處にても鋸の修補場附屬す一丈二

丈にも餘る龍脊の如き大鋸の目を立て目を組むこと何れも皆汽力又は電力機械を用ぬ、其鋸の鋸目に觸れて相摩する所閃々火を放ち中々に凄まじき有様なり「モラン」工場は製材造船鐵工の諸業を兼ね市の南部に在りて廣き便利なる位置を占む構内に船架もあり總て動力には電氣と水壓力とを用ぬ一人の業としては頗る見るべき者あり此工場にて見たる木材中十八吋角にて長さ百二十餘尺に及ぶ「フレゴン、パイン」あり實に美事なるものなりき聞く所によれば原と此「モラン」と云ふは今を距ること二十五年前僅に十仙の銅貨を懐にして當地に來り兄弟四人と共に一生懸命に働き漸次身代を起したる人なりと、此日も自ら先ちてわれ等を工場に案内して詳しく説明せられたり二十二日には復た前判事「バアク」氏の案内にて先づ市中より「ケーブル、カー」に乗り勾配緩き邱陵を越え和聖東湖畔に出、同氏の別墅所謂「インデヤン、ハウス」に入り小休折節同氏の細君と其知合ひの令嬢二人、こゝに遊び居り忽ちわれ等の一行に加わり相携えて湖上の小埠頭に到り豫て用意し置きたる小艇に乗り清漣を破りて駛り出ぬ此湖は市を距ること凡う二哩計り宛も市の裏に

當り南北に長く東西に狭く、綠樹周匝、此方の岸には二箇處の公園あり亭舎三五、翠烟の裏に隱現す而して南に當りては兀たる「クヤマ」富士の白玉峯、天半に聳え風景殊に美なり今しも初夏の長日漸く暮なんとして湖面は靜なること鏡の如く、ありこゝに行き通ふ艇舟扁々として木葉に似たり、われ等の艇中には時を知らぬ花ありて諧謔百出、何となく陽氣立ちたり、いつこも同じことながら殊に米歐の交際社會には紅紫の嬋娟たる色こり缺くべからざる所なれ、われ等天涯の羈客、圖らずも此半日の清遊を得て心神快絶、今に夢魂の時折尙ほこの湖上に向つて飛ぶを覺ゆ旅館に歸りし時は正に點燈ころなりき今日休みたる「バアク」氏の「インデヤン、ハウス」は其名の如く建築を首め萬づ「アメリカ、インデヤン」の古風を模し内には同人種の遺物又は製作品等を數々飾り置き裏は直ぐに湖に臨み楡柳の蔭より釣をも垂ることを得べく面白き別墅なり

われ等は三四日間、晚香坡維利亞を回遊、二十六日の午後再び「シエトル」に還り來り其夜「レニヤ、クラブ」にて商業會議所員の催しに係る晚餐に招かれぬ此地

にて知名の人々二十四五名列座バアク氏主人席に就き食後歡迎の演説數番社長より之に對して答辭を演べられたり、凡る米國の紳士豪富といふは多く赤手身を起したる連中にて今日數十百萬の富を致せる人々も十年二十年の昔に在りては工夫、船頭、職工の如き微々たる一賤夫たりしこと其例稀ならず而して此等の人々は常に素生を隠し立せず却て自ら説て自ら誇り我富は我兩腕の賜なりと云ひ居れり左ればにや今夕バアク氏の演説中にも我社長が身を一書生に起して遂に今日の地位に至りしこと米人の常に誇る所謂「セルフ、メイド、メン」(自立の人)の好例なれば我等は殊に此點に於て敬慕の念に絶えずと述たるが如き一種變りたる讚辭なれども其中自ら米人の氣質見えて床しき所あり

翌夕は此地在留の日本人連中よりの招待に依り日本人會場に趣き日本料理の馳走を享く集まる人々其數四十餘人もありしならん「マリエンタル、トレイデング」會社の人達重なるが如し何分異郷にての日本好みなれば萬事思ふに任せぬと見え遠慮なく申せば一體の體裁向き不整理の方にて食物も殆ん

と箸に掛けらるるものなくわれ等は旅館に歸りて後更に二三の食事を命じ漸くと飢腸を充たすことを得たり日本人が日本食に喰ひ足らず補ふに洋食を以てす又一奇話なり去りながら此等の人々の温き情に至りては又自ら山海の珍味にも代る難き所ありわれ等はいつゝ迄も深く心中にぞめ置き忘るゝことなかるべし胡馬越鳥誰か望郷の心なからん郷人の多くに招れて萬里の空に一夕の歡話を爲す心情左がら故郷に在るの想ありき

予が桑港の「バアレース、ホテル」に滯留せし時、或る日午食の後、庭前の椅子によりて休息す偶々隣の椅子に六十にも近き一翁あり、うろ／＼と予に話懸け聊等は追々「シエトル」へ向はるゝ由、われは該地に於て石炭の取扱を爲すものなり必ず面會の期あらんことを望むとて予に一葉の名刺をくれたりこれ即ち「リヤリー」炭坑の持主たる「リヤリー」氏なり其後われ等「シエトル」に着せしに同氏は果してわれ等の知人を介して其石炭積入場の一覽を請ひ來れり我業務の上にも關係あることなれば往て之を覽るに其場處はウエスト、シエトルとて市の南に當る對岸に在り灣に跨りて橋あり橋の上を汽車走る此汽車に依

りて此に赴く原と小麥積入の「エレヴェートル」なりしを近來其一半を改修して石炭積入場となしたるなり石炭の調合向を首め其積入方に至る迄機械力を用ひ頗る簡便に見ゆ此處より炭坑迄距離三十二哩目下自力にて電氣鐵道の敷設中なりと云ふ歸途「パーク」氏の案内にて大北鐵道會社の「デポ」(停車場)を覽る其區域甚だ廣く數百の車輛集り居り倉庫の設備も乏しからず其裏口に直く貨車を着け車より貨物を倉に入れ表に於て卸賣を爲す等便利に工夫しだり會社にては近頃此近邊に又多くの地所を占領し今は其所有地の長さ二哩に及べりと聞く

現今「シエトル」にては未だ中央停車場の設けなくこの會社の汽車も皆市の中央なる海岸に近き處より發車することなれどもソコには別に屋舎の之を覆ふものもなく乗るも降るも野天にして汽車の側には馬車も群り居り發着の時は頗る雜沓す鈴聲琳琅汽車のガタリくと市中を緩走し行くさま我北海道なる小樽の街上を炭礦汽車の馳せ行くと略ぼ似たり左れば市の發達に連れ中央停車場の設け一日も忽にすべからざる所其位置の點につき北太平洋

鐵道會社は現今の海岸を適當と主張し大北鐵道會社にては前記大北「デポ」の所在地を選定せんと云ひ議協はざるより其儘になり居れりと聞けども遠からず何れかに定まることならん
われ等「シエトル」滞在も前後一週間計りに及び最早一通りの視察も済みたれば二十九日の晚八時名残を知り合ひの人々に惜みて「セント・ポール」さして出立せり

晚香坡及び維利亞

大なる鐵道會社にては社長、課長、監督技師等の如き重なる役員は常に線路を巡回し途中にて諸般の事務を取扱ふ必要あるより大抵私用車を備ふ其内には事務室、寢室、厨房、食事場等の設けあり四五人位の同乗差支なし外に料理人兼小使一人之に乗込み食事等の世話をなす全く他に關係なき單車なれば旅客列車のみならず都合によりては貨物列車にも連結せしむることを得至て便利なるを以て往々特別待遇を要する客の交際用に之を使用すわれ等が「シ

エトルより晚香坡に赴くとき大北鐵道の西部總支配人「ブレボン」氏より殊に其私用車を差回され一行の外「スタッドレー」「グリップス」會てシエトルに於て我會社の事務を扱ひ居りし人兩人も同行萬事を周旋せり

「シエトル」を發したるは五月二十三日の午前八時にして九十五哩の所に「フエヤヘブン」と云ふ停車場あり汽車の時間都合にて一時餘り停車其間に停車場近傍の「パンフヒック」「アメリカカンパニ」「シヤリング」會社の罐詰製造場を覽る罐詰詰める原料は即ち此邊にて漁獲する鮭なれども此時は未だ季節より三四十日も早きが故に實際鮭は取扱ひ居らず職人は唯罐の製造にのみ従事せり其製造とても主として蒸氣を動力となす各種の機械に頼るを以て敏速にして順序正しきこと却て人工に優るものあり此會社にては漁網七十餘結（一結大抵七千弗乃至一萬五千弗を要す）を有し罐詰にする鮭は會社自ら漁獲するもの多きに居れりと云ふ一體此の「ビュゼット」「サウンド」の諸灣并に「フレザア」河には鮭漁甚だ盛にして罐詰となりて各地に輸出せらるるもの年々其數少なからず日本人にして之が漁獲に雇はるるもの常に多數なる由なり又鹽鮭を

日本に輸出しても相當に利益となるを以て毎年多少之を試むるものあり此邊にては「ドッグ」「サルモン」と稱する一種の如き誰れも喰ふものなく殆んど無代價同然なりとの話なり午後二時頃には「シエトル」より百十九哩なる「プレイン」停車場に達す是より北は英領加奈太なれば、こゝが所謂國界の關所にして税關の役人來りて荷物を改む左程嚴重にもあらず午後五時「フレザア」河畔に着す大北の鐵道線盡きて一同車を下り河岸を歩すること二三百歩小舟にて水を渡り更に電氣車にて馳すること十三哩六時頃晚香坡に達す此日の途筋は半ばは「ビュゼット」「サウンド」の灣水と相離合し半ばは長松雜樹の間に在り晚香坡近邊は地未だ開けず道の兩側は依然上代の林野其儘にして處々に樹を燒きて開き始めたる掌大の地を見るのみ

晚香坡は加奈多太平洋鐵道の終點にして其東洋航船「エムプレス」線及び濠洲航船の發航地なれども創立後僅に十五六年に過ぎざる新開地なれば萬事尙ほ幼稚にして人口も漸く二萬四千八百八十六年には六百人なり北に當りて連山高く聳る雪鹿の子班らに残り顔吹く風も我三月の初旬に似たり港

内は左ながら池の如く湖の如く何れより入り何れに出るかを認め難き程なれども水深くして大船巨舶の繫留に差支なし唯其の港口細き頸狀をなし左は斷岸右も亦山腰の斜坡にして幅僅かに三四百間に過ぎず而して潮水奔放一時間八哩の勢を有すれば出入頗る不便なり「エムプレス」號の如きも霧の時などには往々其入口に猶豫して晴を待つことありと云ふ然れども今の所東洋より米歐に入るには此道筋最も近くして速なる上加奈多太平洋鐵道會社にては大勉強を以て貨物旅客の誘引に勉め居れば當港は今後益發達することなるべし既に帝國領事館の設あり清水領事館在勤ず日本人にて此近邊に於て勞働に従事するもの少からずわれ等の宿せし「ホテルヴァンクヴァ」の如き館僕は大半日本人なり月給は米貨七八弗なれども客より受くる心付多ければ一月の收入三十弗以上に及び食事向ふ持なれば少し儉約せば貯金も容易なりと云ひ居れり

二十五日朝來馬車を市外の林間に驅る「スタンレー」公園其間に在り老樹天に參し幹朽ち枝折れ葛藤苔蘚縱横自在に生ひ茂り未だ曾て斧斤の痕を見ざる

所天然の古色何となく奥床かし此日は英女皇陛下八十一回の地久節に當れども市中左迄の賑を見ず唯家々の窓戸國旗の風に翻ると時折奏樂の響を聴くのみ正午過る頃維利亞通ひの汽船「アイランダー」號に上る千噸内外にして十八九海里の速力を有する奇麗なる客船なり

二時間計りにして船「ジョチャ」灣を横きり晚香坡島の岸に沿ふて舐る大小の島嶼葉布羅列其幾百千なるを知らず長きもの圓きもの蝶の戯るが如きもの鶴の舞ふが如きもの斷えなんとして復た連なる瓢の如きもの隠れては復た顯る夢の如きもの千態萬狀島として松を戴がざるはなく宛も我松島の勝景を移し來りて之を數倍大にしたるが如し唯未だ人口稀薄の境とて人家堂塔帆影櫓聲の其間を補綴するなきを以て折角の佳景も何となく物淋しき思あり此間復た凡う二時間餘り船は島間を穿ちて進み遂に「ジュアンダ、フカ」峽に出で折れて維利亞港に入る時正に六時過なりき

維利亞は晚香坡島上に在り英領「コロムビヤ」洲の首府なり人口凡そ三萬内外何事も英國風にして建築の如きも米國諸市の様に甚だ高からず一體に稍古

色を帯びたり地は一面の岩層にして港内廣からず岩礁處々に隠現して大船は深く進入するを得ず皆外港の大洋船渠に繋留す、われ等來遊の時も千噸内外の一流船餘り深入して灣内の礁上に乗上げ頻に唧筒を仕掛、船内の浸水を酌み出し浮出し方に盡力し居たり然れども大洋船渠邊には別に岩礁もなければ危険なし我會社船も常に此船渠に入るを例とす是はアール、ビー、リッセツト會社の私有に屬し大船四五艘同時に繋留すること差支なく倉庫の設もあり此地には相當したる設備を有せり原來此地は餘り輸出入品の無き所なれども旅客の來往は少からず若し晚香坡港と比較すれば、島上に在りて鐵道の米大陸に連絡するものなきだけ此地の方不利なるに似たり

此地は政廳の在る所なるを以て英女皇陛下地久節の賑も自ら晚香坡の比にあらず觀兵式もあり其他種々の催しもあれば各地より集り來る人も多く、夜に入りては千門萬戶、日本出來の灯燈を吊るし、電氣燈を點じ其間に音樂隊のねり行くあり中々の雜沓なり、われ等も共に浮かれて其熱鬧の中を徘徊して樂みぬ

「エスクワイモルト」の海軍々港は維利亞の北四哩程の所に在り英國北太平洋艦隊の根據地なり港内廣くして長さ五百呎に垂んとする船渠の設もあり、我會社船金州丸前年特に許可を得て二回計り、こゝに入渠じて差當りの修繕を爲したることあり然れども未だ鐵工處としては見るべきの設備なき様なれば大なる修繕向は如何あらん歟、此軍港より少し離れてマアリン、レイルウエイと稱する船渠あり架下に鐵軌を敷き、氣力を以て架上に乗せたる船を上下することとせり、至て粗末なる構造なれども重量二千五百噸、長三百二十呎位迄の船は上架せしめ得べしと云ふ、此邊灣水縁にして小島其中に浮び樹石の模様面白く工夫を凝らして作り上げた庭園を見るが如し

維利亞の公園を「ビーコン、ヒル、パーク」と云ふ、ジュアン、ダ、フカ「峽上に臨みたる斷岸上の廣原にして蒼海前に在り老樹綠深く野花其下に亂れ開く之といふ手入の迹も見えざれども天然の佳景、自ら人の心胸を開かしむるに足る、其近邊には豪富の邸宅多く何れも屋敷を廣く取り繞らすに垣根を以てし奥深くしたる所、自ら米國風とは異なれり、ダンジミルの邸は其中にも極めて壯大に

して高麗秀で、城の如く今は維利亞の一名所となれり此家は「ナ、イモ」鐵道株の大半を所有する豪富にして其主人十數年前に死し今は未亡人と子供等にて「ラッコ」獵等に從事し居る由此主人は初め微賤なる日稼ぎの勞働者なりしが或る時「ナ、イモ」に於て何かの勞役に従ひ休息中、何心なく前に在る小樹を引抜きしに偶ま其細根に一塊の石炭付き上りしより、忽ち此邊に炭層の在るに相違なしとの考を起し遂に之を探がし得て巨萬の富を作るの基を開けりとの話傳れり

二十五日の夜は公園に於て烟花の催あり是も地久節祝意の一なり、われ等も物珍らしく往て之を覽る老若群集皆樂しそふに芝生の上を徘徊し居れり既にして烟花始りたれども日本仕入の安物にて故郷びおきの、われ等も健屋玉屋の讚聲も出ればこり匆々にして立歸りぬ

二十六日の朝八時大洋船渠より「グキクトリヤ」號に上りて維利亞を辭す十一時「ポート、タウンセン」に寄港是れ「ビュゼット、ザウンド」に入る船の檢疫を受くる所なり人口三千餘りの一小港に過ぎず、午後二時半「シエトル」に着

「ケヤスケイド」山中

北米の太平洋岸に於て北より南へかけて横はる一帯の山脈を「ケヤスケイド」山と云ふ「カリフォルニア州」に入りては之を「シヤラ、ネバダ」と稱す凡そ東西を貫通する鐵道線は處こそ異なれ何處かに於て此山脈と今一つ東に在る有名なる落機山脈とを越へざるべからず之を越るには深山幽谷の間を過ぐることなれば其間風景の誇るべき者少しとせず大北鐵道線の如きも亦常に「ケヤスケイド」山中の佳趣に誇り廣告の種となし居れり然るに此頃の同會社東行の旅客列車は「シエトル」午後八時發にて此山中を夜間に經過するを以て、われ等にして若し此旅客列車に乗るときは折角の好風光も夢中に過ぎ殊には目下工事中の「ケヤスケイド」山の大陸道をも一覽せしむるの機なしと大北の人々頗る苦心の末折柄「シエトル」に來着し是より北方へ巡視に出掛けんとせし東部技術監督「バイラム」氏を要し同氏諸共、其私車を以て、われ等を「スポケン」迄送ることとし時間を計り途中にて其私車を旅客列車より外づし次の貨物列

車に繋ぎ復た時間を計りて之を外づし翌日の旅客列車に連結する手順をつけ「ケヤスケイド」山中を晝間経過する取計ひを爲し呉れたるは、われ等の深く其好意を謝する所なり

サテ愈右の手順つき五月二十九日の午後八時「シエトル」を發す「スタッドレー」氏も「スポケン」迄同行、走ること八十五哩、十一時二十分頃「スカイコー」ミッシュユなる停車場に着、豫定の如くこゝにて、われ等の乗り居る私車を旅客列車より外づす次に繋ぐべき貨物列車は明朝五時頃の通過故われ等四人は私車中に臥床を作り寝て居ることにしたれども氣の毒にも「バイラム」スタッドレー兩氏の使用すべき臥床なければ兩氏は出て近傍の粗末なる旅店に暫時の假眠を執れり翌朝眼を覺せば、車は既に長松天を覆ふ層嵐の裏を走り居り山氣嫩寒、翠壁雲を吞吐、清奇言ふべからず時折禽聲の啾々たるは耳に達すれども更に伐木の丁々たるを聞かず况んや雨を覆ふ樵夫の小屋だにも眼にかゝらばこそ實に聞きしに勝る深山なり夫れ是れする中、黒奴の心して調理したる朝食も出來たれば之を車中に喫し、畢れば間もなく車は「ウエリントン」停車場に着

きぬ是より「ケヤスケイド」の山頂を越すことにて鐵路嶺腹に羊腸の狀を爲し往きつ還りつ其勾配の急なる四分乃至三分半の間に在り到底、通常の汽力にては列車を曳き上ること能はざれば先づ列車を兩断して其一部の前後に機關車を付し山頂迄曳き上り再び残りの一部を曳き上げ原の通り連結する方法を執る路の峻峻なる工事の困難なる以て推知するに難からず山頂は水平より高きこと三千三百七十五呎、東へ下るにも亦勾配急なる之字の鐵路なれども西より上るに比すれば其間稍短し下りたる所が「ケヤスケイド」墜道の東入口なり此墜道は「ウエリントン」と此處との間を鑿通する筈にして九十七年に功を起し最早遠からずして落成する見込なりと云ふ、本年七月に至る迄未だ落成の報に接せず、長さ凡そ二哩半、之に費やす工事費豫算三百五十萬弗、日々使用の人夫七八百人、汽力電力を用ゐて東西雙方より盛んに鑿開し、鑿開したる迹を順次鞘巻し居れり、此墜道にして落成するときは汽車は復た前記の如き困難を忍びて山を越ゆるの必要なく距離を減すること凡そ十一哩、時間を省くこと一時間半非常に運搬力を増進すべし殊に之に依りて雪中の苦を

免れ得べきが故其費用の斯く巨大なるを顧みず斷然開通の策を決したる由われ等車を下りて其工事を實見す技師長丁寧に説明の勞を執る入口にて其高さ二十五呎幅十六呎一體に花剛石質なり技師長の話に依れば工事に使用する白人の勞働者は無賴の徒多く朝集暮散去就常なく其月々拂ひ出す給金は三萬二三千弗に達すれども受取日になれば「シエトル」より酒舗醜業婦等群り來り其三分の二迄は之が爲めに吸取らるゝと云ふ

墜道より車は復た東に向て下り行く固より幽溪深谷の間なり是迄は餘り山深くして長樹壁の如く千本立となりて茂り居れば我左右前後に突兀蟻蛭たる峰嶺も車窓より其形を望む能はず巖を噛み石に咽ぶ溪流も亦其姿を見る能はざりしも山の淺くなるに隨ひ谷自ら廣くなりて前後左右の山亦漸く眸中に落ち來り水も亦白龍の戯るが如く鐵路と離合隠現して趣を添ふ墜道より二十六七哩即ち「レヴェンウラス」停車場に達する五六哩の手前より山骨稜々溪聲淙々峯廻り路轉する邊前を望めば翠壁雲深くしていつれの邊に向て往くを知らず後を願はは層巒高く鎖していつれの邊より來りしかを見ず中

にも高き峯には雪を戴き石樹と相掩映幽趣の喜ぶべきものあるかと思へば忽ち竿を携えて溪に遊ぶ漁翁も見え風光奇絶其變化多きこと大北鐵道會社が嘖々誇稱故らわれ等の爲めに晝間の經過を謀り呉れたるも故なきにあらざと思はれぬ午後四時頃「レヴェンウラス」の停車場に着く東より「ケヤスケイ」下山に入る谷口の小村なり

われ等の私車はこゝにて貨物列車より離れ明朝三時頃旅客列車に連結する筈にて暫時の休息時間あれば一同車を下りて散歩すその中「バイラム」氏釣竿二三本見付け來りわれ等を促し鱒釣せんと共に河岸に下り立ち巖上に踞して絲を垂る此川は「コロムビヤ」河の上流にして河上には和聖東州立の養魚場もあり溪魚頗る多しと聞けどもわれ等が餌に懸るが如き馬鹿魚は廣き米國の河水にも居らぬと見え更に潑刺として釣に上るものなし唯萬里の旅の空にして假令少時なりとも斷崖の下に立ち清流に向て太公望を學ぶなどは寔に思ひ掛なき奇遊にして永く記して忘る能はざる所社長の如きは竿を手にしたるは三十年來のことなりとて大に笑はれぬ

此邊鐵道の保線工夫に雇れ居る我邦人頗る多し然るに白人の労働者は之を嫉みて先頃も邦人の小屋に爆裂薬を装置け粉碎したる騒ぎありしも幸に怪我人なくして濟めりと聞く、われ等晩に散歩の時、六十にも近き白髭の一邦人、近づき來り色々話し懸け自分は最早此國に三十餘年流浪し近頃は當地に流れ來りて微かなる生計を營み居れり是なる烟草店が即ち自分の家なれば立寄りて一服吸はれては如何と流石に同郷の情を表する心、われも亦憐れに思はれたり、既にして二三の若き邦人集り來りて白人労働者の状を話し其敢て恐るゝに足らざることを述べ喧嘩といへば彼等二人と日本人一人とにて澤山なり軀幹長大なりと雖も勇を奮ふて足を取れば苦もなく倒すことを得べしと意氣傲然たるもおかし、われ等の寢に就きし後も車外を徘徊し邦語を以て頻りに話すものあるを開けり蓋し同郷の人、夏かしく來り伺ひしものなるべし此夜も「パイラム」スタッドレー兩氏は近傍の旅舎に眠る

五月三十一日、起き出れば車は既に平野の間を走り居り、眼中復た一點の翠螺を見ず十一時頃「スポケン」に着す、之を要するに、途中にて「ケヤスケイド」山の風

光を見んが爲め一日丈け多く費やしたる算用なれども夫位の價は充分ありたり

「スポケン」

「シエトル」より三百四十八哩にして「スポケン」河の水落ちて上下二段の瀑を懸く上なるもの高さ六十呎、下なるもの同七十呎、幅は左迄廣からざれども水量甚だ多くして淡綠色の簾を垂るゝに似たり「スポケン」の市は此兩岸に在り僅に二十餘年前、始めて開けたる地なれども現今人口既に三萬六千あり建築も中々壯麗にして街路も清潔なり

兩瀑の水力を以て電氣を起し以て市内の電燈、電氣鐵道等に原動力を供し其餘力を製粉、製材の事業に用ゐ居れり而して其水力は猶ほ多くの餘裕あるを以て今後益之を製造工業の途に利用する計劃ありと云ふ「スポケン」が近時急速の進歩を爲すに至りたるもの一は此水力あると、一は近傍に金銀鑛の發見せられしと、其他田野森林より産する物品にして此地を中心として集り來り

各地に向て輸出せらるゝもの多きが故なり、現に大北鐵道は申す迄もなく北太平洋鐵道も、ワレゴン會社の鐵道も共に此地に集り來り、ビュゼット、サウソンの諸港並に、ポートランド港との運輸交通上、各地に比類なき便利を有せり。市の南方は一體に邱陵の狀を爲し、其下皆岩層にして處によりては岩石露出、綠樹之に點し、天然の風致を備ふ、富豪の住屋は多く、此邊に在り、平野漫々として盡きなんとする邊、落機山の翠色、雲の間に、隱現する所、眺望絶快、氣宇頗る雄大なり。

スポケン河上に架する鐵橋あり、長くして且つ高く、寔に長虹空に横るの狀あり、其上より兩段の瀑布を望む、亦是れ人心を壯ならしむるに足る。

此地に於ては、ヒンテニヤル製粉所の社長、トムソン氏並に大北鐵道の出張員等、彼是周旋大に好意を表せられぬ、われ等を態々こゝ迄送り、呉れし、バイラム氏は若くと直に別れ去りたれども、スタッドレー氏は、われ等と共に一泊して別れ歸れり。

われ等も此地には別に用向なければ、一通り市中を巡覽し、一泊の上、六月一日

朝十時十五分發の大北鐵車に乗りて出發す、是迄とは違ひ、通常の客車なれども、特別室と外に二三の「セキシヨン」を占領し居れば、別に究屈を感ぜず、左れども、兩人の外友に別れ、今は一行四人となり、退屈に堪えざれば、相集りて骨牌遊びなどして時を費せり、此列車中には書籍、新聞を縦覽せしむる、「ライブラリー」は無論、理髮所もあり、浴室迄も附屬し居り、五十仙を投すれば何時にても入浴するを得ることになれり、午後五時頃迄は車、常に水と離合して走り、林樹綠深く、灘聲時に淙々たり、既にして路漸く落機山中に入る、然れども、流石大山脈のこと、連峯巒の突兀として、眼を遮るものなく、唯高原の次第、に高くなり、往くが如く而して、其間處々に平野あり、大小の湖水あり、人家村落は絶て見えざれども、赭白の牧牛、曬黄の牧馬、幾百となく、群を爲し、樹下水邊に遊び居り、いづれの邊にか、嚙咬たる笛聲も聞ゆ、折しも、長日漸く暮れて、眉尖の月、山の端に上り、肌吹く風も猶ほ寒し、誰か知らん身は萬里の天涯に在りて、正さに五千呎に垂んとする高山の中を過ぎつゝ、あらんとは、翌二日は終日平野の間を走る、滿目際なく、青草碧空に、連り茫々たる洋海に浮ぶが如し、之に比すれば、月影の草

より出て草に入る武蔵野の昔は固より九牛の一毛同然なれども景色は同じ趣なり晩に「デコタ」の州を過ぐ此州の法場を設けて酒を賣るを禁ず所謂禁酒國なれば車中の酒保も法を守りて之を閉づ誰なりしか一行中の一人態と黒奴の車僕に戯れて明日迄は如何にしても飲めぬかと言へば大な聲にて言れては困るなれども御入用なれば何時にてもソト持ち参らんと私語せしも亦一興なりき

三日には過ぎし所前日とは異なり田野大分開け林樹多く人家も餘程稠く農村の閑情喜ぶべきものあり午後二時四十五分「セント、ポール」に着「スポケン」より千四百七十五哩時を費やすこと五十二時三十分是が今回の旅行中最も長き瀛車路なり

「セント、ポール」附「ドルース」及び「マホニング」鐵田

大北鐵道の起點は「セント、ポール」に在り其本社も亦こゝに在り、われ等の着するや同社の營業部長たる「クラーク」氏停車場迄出迎ゑ直に山手なる「ホテル、ア

パアリン」に案内せられぬ新樹庭前に青く地靜にして家清潔なり先づ浴を執りて萬里の旅塵を洗ふ

「セント、ポール」は密士卑河の北岸に位し十哩ほどを隔てゝ「ミチャポリス」市と相對す兩地の間鐵道あり電氣鐵道あり今にても殆んど同市の如し追々雙方の發達するに従ひ人家市街も相連絡するに至るべし、目下共に日の出の勢にて商工業も中々盛んなれども、何れかといへば「セント、ポール」の方稍落付顔にして「ミチャポリス」が「アントニー」溪、密士卑河に在り市の中央なり、の水力を利用して數多の製粉所、製材場等而起し物々生色あるに似ず又鐵道の便に於ても「ミチャポリス」の方各地より集り來る物貨、交換運送の中心點となり「セント、ポール」よりも遙に盛なり其人口「ミチャポリス」凡そ二十萬、「セント、ポール」凡そ十六萬

大北鐵道は太平洋岸の「シエトル」より此「セント、ポール」迄の間を幹線となし外に多くの支線を有し總里程凡う五千百餘哩、之に投下したる資本額無慮七千萬弗、社長は「セームス、ゼイ、ヒル」氏とて米國に於て有名なる鐵道經濟家にして

南の「ハンチントン」と名を齊ふする偉人なり、此人も亦米國企業家の例に負かず原を微賤より身を起したれども今は巨萬の富を有し大北鐵道の「ヒル」か「ヒル」の大北鐵道かと云はるゝ程なり、左れば其同鐵道を經營するや株主に對しては殆んど受負仕事の如く何事も自己の意思通りならざるはなく其兩人の子息并に女婿等にも夫れく重役の位置を與ゑ置けり、われ等の「セント、ポール」に着せし時には此偉人偶々歐洲旅行中にて不在なりき、然れども間もなく歸米、紐育に於て我社長と會見せり。

六月四日午後「サミュエル、ヒル」氏「ヒル」社長の女婿案内、汽車にて「ミチヤボリス」に遊び市中を巡覽、同氏の自宅にて休息、遂に「ミチヤボリス」俱樂部にて晚餐の饗應に預る大北の重役連中五六名來會、食後庭前の芝生に椅子を列べ東西よもやまの話に時の移るを覺えず、此「クラブ」は小湖に臨みて風致に富む、折柄月小にして風涼しかりしかば神氣殊に清爽、既にして社長と三原氏とは「ゼームス、ヒル」氏「ヒル」社長の長男の馬車に同乗、われ等四五人は別れて庭より湖畔に下り立ち小艇にて湖を渡り對岸より電車に乗りて「セント、ポール」に歸る、馬車の

方は主人自ら馭者の代理を勉められたれば馬騶りて自由に動かず車は途中にて横路へ切れ込み車上の人々既に投出されんとせしこと度々なりし程なれば社長と三原氏とは餘程後れて旅館に歸り來り、トング難有迷惑を蒙れりと笑い居られぬ。

大北鐵道の一支線にして「セント、ポール」より「シユピリヲル」湖畔の「ドルース」に達するものあり、湖上を通航する客船并に貨物船と互に相接續す、其航路は「ドルース」より「エリイ」湖畔の「パツファロ」に到るものにして冬季は湖水氷合の爲め航海出來ざるも夏季に於ては旅客貨物の之に賴るもの甚だ多しと云ふ又「ヒル」氏は「ドルース」より百餘哩の北西「マホニング」と云ふ所に一大鐵田を有し盛に採掘して之を汽車にて「ドルース」迄送り出し湖上の船に積込み、ピッパルグ等の製鐵所に送り居れり大北の人々は是非われ等を案内して湖畔の諸設備を首め鐵田の實況をも見せたし、このことに付われ等も之に應じ五日の朝、東「ミチソング」鐵道即ち大北の一支線なり其軌道一直線を爲し迂曲少きを以て「ビー、ライン」と稱す蓋し蜂の飛ぶや常に直線狀を爲すが故、之に形とるものな

りに頼りて「セント、ポール」を發す東道は「ヒル」社長の次男「ルイ、ヒル」氏其他大北の人々四五名なり曾て大北の工事受負人なりし某氏の私用車を借用す此車の持主は有名なる吝嗇家にて相當の財産を有すれども酒類は一切之を口にせず我子迄にも之を戒め置き家法甚だ嚴重なるにも拘らず其長男は酒好きにて折々親父の眼を偷みて飲み家に歸り親父と對座するに當り成るべく氣取られしと態と空を仰て酒氣の親父の方に達せざる様心を用ふるさまの可笑きこと見ものなりなど「ルイ、ヒル」氏が手眞似して話し一行の人々と共に其割に車内の掃除行届き居るは不思議なりと彼所此所探し廻りて戯れ騒ぐも大に興あり又「ミチヤボリス」より一行に加りたる同地大北の荷物募集掛「スチーブン」と云ふ人これは餘程騒々敷男にて「ウスケー」に舌を鼓し下らぬことを驍舌りつゞけぬ午後二時「ドルース」に着「セント、ポール」より百六十一哩

「ドルース」は「シユベリヤル」湖の西端にして「セント、ルイス」河の流末に位し市街は斜に丘陵に沿ふて立つ人口凡う五萬、大湖航道の要樞にして小麦、麥粉、鐵、銅、礦物等を輸出し其代り石炭を輸入す出入の船舶一箇年二千艘の上に出づと

云ふ小蒸汽船を醸して港内を巡視す「セント、ルイス」河の流末は北より南に曲りて海に入る其間凡う九哩、前面一帶の砂洲宛も防波堤の如くにして其内自ら安全なる錨地を爲す而して此砂洲の北端をも切り開き南端の河口と雙方を以て港口となせり、西岸には小麦、麥粉、礦物類を積入るゝ數多の「エレヴエーター」製材所、船渠、造船處等の設あり造船所にては湖水通航の四五千噸大の船舶を數艘築造し居り其形勢中々盛んに見ゆ

大北鐵道の有に係る「リア、ドック」は即ち全く鐵礦積入の爲めに近來新設したるものにして「ドルース」市よりは餘程南の方「セント、ルイス」河の海に入る所に在り遠くより之を望めば水中より築き出したる櫓の如し其長さ千五百呎、幅六十五呎、高さ七十三呎、餘其内部に二百五十の貯礦場あり一貯礦場に二百五十噸を容るゝに足るを以て合計六萬五千噸を貯ふることを得べし而して其上に數線の鐵軌あり車輛之に來往し其兩側には大船巨舶六七艘の維繫に差支なし構造の巨大なる寔に眼を驚かす計りなり聞く所に依れば之が築造には四十呎乃至六十呎の柱一萬三千二百十六本を用ゐ其延長一千三百萬呎に

及べりと云ふ初め余大北の人と話の序に鐵鑛の運賃を問ひしに「ドルース」より「パッフアロ」エリー湖上に在り航程凡る三晝夜迄一噸先づ米金五六十仙乃至壹弗位の間在りと余私かに以謂らく我邦にて下の關より神戸迄航程一晝夜不足の間を運送する石炭の運賃安き時にて尙ほ一噸に付我壹圓内外なり之に比すれば航程の三倍もある所にして此の如く運賃の低廉なるは不思議の次第なりと乃ち次に一日に何程積入るゝやと問ひしに彼れ答えて曰く八千噸の鐵鑛を三時間にて積み終るべしと是は、われ等の夢にだも想ひ至らざる所門司長崎あたりにて石炭を積むにも八千噸なれば極めて早きも五日間運きは八九日間を費やすが例なれば其邊より見當を立て考るときは鬼神の働と云ふの外なければ定て何か間違なるべしと半信半偽の裏に在りしが此地に來りて此「ファ、ドック」の構造設計を見て始て彼の言の虚をらざるを知れり先づ鐵田より鑛物を積來たる車輛は其鑛物を「ドック」の上、即ち棧上に切り設けたる貯鑛場の入口に投下して貯る置き船積の時は横着にしたる船の各船口へ貯鑛場の側面にある數多の渡樋を懸け渡し上より棧を抜けば貯蓄

場内の鑛物は忽ち此渡樋を下りて自ら河を決するの勢を以て、船内に落ち來る千噸二千噸は瞬間なり八千噸三時間も寧ろ十分なる計算に似たり尤も湖水通航の船舶は主として鑛物石炭等の運搬を目的とするが故に自ら其構造も遠洋航船とは異なる點多く船口の如きも縦の長さは僅に三四呎位に止め十呎位の間を隔て甲板上に列べて切りたり又「パッフアロ」に到るには途中に於て大湖と大湖との間に在る運河を経ざるべからず而して其運河の水深には限あるを以て喫水を深くする能はず一體に底を平たくして淺くしたれば形、箬箱を浮べたるが如し其外二三千噸を積み得る一種の鑛物船あり形、瓜を浮べたるが如くにして甲板もなく櫓もなく唯艀部に機關室あるのみ東洋には見るを得ざる特別の形狀なり

是日の夜涼車にて「ドルース」を發す湖上より吹き來る水風猶ほ肌を寒し六日の朝起き出れば車は何時の間に「マホニング」鐵田の側に横れり此邊は一帶に雜樹の叢生したる平野にして地面の上皮二十四五呎乃至三十呎位を削り去れば其下は一面に鐵塊、鐵沙、淺き所にて四十呎、深き所にて百八九十呎に至

る層を爲す瀛力を装置したる掘鉄にて掘採し直に之を車輛に積み入れて送り出す事業極めて雑作なし、此鐵脈は千八百八十八年頃の發見にして長さ百五十哩に涉り幅大抵二哩位あり年額千百萬噸内外の鐵鑛を出し鐵の純分は百分の六十乃至六十二ありと云ふ而して此鐵脈の内、ヒル氏の所有に屬するものは地面にては四萬、エーケル（凡う我四千八百萬坪産鐵額にては凡う總數の八分の一に當るとのことなり）シユピリヤル湖畔に彼の大構造を爲して鐵鑛積入の便を圖りたるも畢竟此の無盡藏の大財源あるが爲めなり米國事業家の規模の壯大なる豈驚くべきにあらずや

別段外に見るべき所もなければ十二時過ぎに鐵田を發し歸途に就く幾ならずして天色晦冥迅雷激き烈風吹き電を降らすこと箭の如し三四時間にして止む此邊には往々斯の如く不意に風雨の襲ひ來ることある由なり午後七時「ドルース」に還り「キチガミ」俱樂部にて晚食す彼の饒舌家「スチーブン」氏が昨日來汽車中に於て酒氣紛々としながら始終われ等に話し掛け居りし有様を實見せし「ルイ、ヒル」氏は是晚態と「スチーブン」氏と我社長との間に椅子を占め

社長に向ひ低聲にて聊か以て累を防がんと笑語せしは時にとりて可笑かりき食後復た夜汽車に乗り翌七日期「セント、ポール」に還る

是夕「ヒル」氏の宅へ晚餐に招れぬ老「ヒル」氏は不在なれども子息等の案内なり此宅は、われ等の旅館より程遠からぬ「サミット、アベニユ」に在り蒼色の大理石造にして構造壯麗百餘萬弗を費したる由、流石に豪家のこと、進食事に用ゆる器皿等も皆立派にして室内の裝飾向も亦格別なり風致少なき旅館の食堂に慣れた、われ等には殊更の御馳走なり食後館内の美術室を覽る有名なる古畫新畫百餘幀、其外美術に關する書籍、版本等堆をなす價を以て算する時は數百萬弗にも上ぼるべし中に丈け二尺程なる羅馬法皇の肖像あり「ルイ、ヒル」笑て曰くこれぞ此館中にて最も價高き畫なれ愚父が百五十萬弗を法皇に寄附して學校の資に供したる其返禮に贈られたるものなればなりと、夫より老「ヒル」の書籍室、居間等を巡覽す卑賤より身を起したる人に似ず種々の方面に嗜好を有すと見え卓外の陳列品等も何となく常人に異なれり此家の設計も總て自ら工夫し別に専門家の手を煩はさざりし程なりと云へば餘事は推して知

るべし廊下に出て椅子に死りて眺むれば燈光點々或は遠く或は近く全市の夜景一望の中に在り既にして月中天に懸りて樹影庭上に婆娑たり脈々たる風に雑談を戦して夜の深け行くを知らざりき

八日には彼是を要務を片付け大北の人々に別を告げ晩の八時十五分發の「ノースイースタン」會社の汽車にて「シカゴ」向け「セント、ポール」を出立す

「シカゴ」

「セント、ポール」より「シカゴ」迄は其距離四百十八哩、時を費すこと十三時間餘にして六月九日の朝九時三十分に着、湖畔の大旅館「アウグトリヤム、アチツクス」に投宿、流石は合衆國の中央なる大都會に名高き旅館だけありて其建築の壯麗にして宏大なること桑港の「パアレース、ホテル」を出てし以來始めて見る所なり

「シカゴ」は「ミシガン」湖の南西岸に在り人口百七十萬、全世界に比類なき鐵道の「大集合點」家畜類の市場、穀類の賣買地なり連合停車場は六箇所ありて二十八萬五千に及ぶと云ふ豈又盛なる景況ならずや

總ての建築皆甚だ高く中には二十階以上に及ぶものもあり而して市上には高架鐵道、電氣鐵道等縦横に馳せ遠ひ輪聲轟々、往來の雜沓、言はん方もなし公園の南に在るものを「ジャクソン」公園と稱し、「ワシントン」公園と相連る是れ前年大博覽會の在りし地なり當時の遺物として閣龍の航海せし船の摸形等尙ほ寂びしげに風雨に曝され居りぬ又其時建築せし日本風の家屋も依然として公園の一景物となり居れり北に在るものを「リンコルン」公園と稱し中央に同氏の肖像あり坦道紫回、草青く樹緑りにして音楽堂、動物園等の設も備はり至て清潔なり今尙ほ「リンコルン」氏の像前には折々黒奴の跪きて恩を謝するものありと聞く殊勝の至と謂ふべし

當地には帝國領事館あり領事藤田敏郎氏在勤す然れども日本人の此地にて商工業に従事するものは極めて少なく領事は畢竟商工業の狀況を調査して

報告するに過ぎざるが如し尤も茶生糸或は花菴の如き我國産の太平洋岸を経て當市に輸入せらるゝもの常に少なからず支那商も亦大分居る由なれば東洋との貿易上の關係頗る大なるものあるは言ふ迄もなしこの地の屠場は最も著名にして日々屠る所數千頭に及ぶと云ふわれ等は時間なきを以て見ることを得ず見たる人の話に名のみ聞く地獄も斯くあらんかと思はるゝ程にて其夜の食事は何となく胸に支える想ありと一夜「マソニック、テンプル」に上る二十二階の高樓にして最上階に寄席あり電氣装置の踊等種々の藝を演じ居れり窓外より市街を望めば豆人寸馬身は天半に颯揚するが如し

此地の旅館にて偶ま古川銅山の近藤陸三郎、小田川全之の二氏に遇ふ此近藤氏の名前を横文にて書けば「アール、コンドラ」なれば我社長と全然同名となり是迄既に屢各地にて書面、電信等にして彼是取遣へ配達を受けたること少なからず中にも陸三郎氏が「ドルース」に往きし時の如き大北の或人等は一時我社長と思ひ違たることもありしと聞く茲に於て夫等の行違を話し互に大笑

せり其外折柄内務省の日下部辨二郎、近藤銑太郎の兩氏も同宿し同時に日本人の三近藤が集りしも一奇なりき海外に出るものは其名前の書き方に注意せざれば飛んだ間違を生ずることありと常に聞き居たるが洵に其虚ならざるを知れりわれ等が一寸外人に紹介せられても先方が「ゼームス」とか「ジョーヂ」とか云ふ簡單なる名なれば直に記憶すれども少し六かしき名になれば中々覚えられざると同じく彼等外人にとりては日本人の姓名を記憶すること尤も困難と見え余と川田氏との姓名の如き日本にては左迄復雜の方にあらざれども更に外人には覚えられず偶ま一の外人より他の外人に紹介し呉れる時の如きいつも姓名を喚ぶに行つまらざることなし其中にも近藤と云ふ姓の如き響のよきものは最も彼等の記憶に留り安きと見え誰も能く覚え居れり

當地には別に用向も無く先きの急ぐことなれば二宿にして去る

紐 育

「シカゴ」を發して汽車の疾きこと飛ぶが如く、九百十二哩を二十五時間餘にして六月十二日の午後七時前、紐育に着す旅館は當市第一の「ウオドルフ、アストリヤ」なり

紐育市本部は「マンハッタン」島上に在り此島は北より南に延び舌の如き形をなす其西に流るるを「ハドソン」河即ち西河と稱し東に横はるを東河と稱す然れども其實東河は河にあらず長島峽の一派なり此兩水の相會する所即ち紐育灣にして所謂港内なり此より袋の口の如き港門を出れば汪洋一碧水天に連る太西洋なり島の長さは十三哩幅は廣き所もあり狭き所もあり一様ならざれども平均先づ二哩位にして北を廻するは一脈の「ハアラム」川なり市街は南端をダウン、タウン即ち下町と稱し其創設古るき故に街衢狭くして不規律なれども商業の要樞を占め肩摩殺撃の大忙劇地なり北に向ふ程漸く靜になりゆく之れを「アツプ、タウン」即ち上町と稱す街衢井然として縦横碁盤の目の如く縦は第一小路より始めて十一小路に終り横は二百餘町に及ぶ而して廣小路とも稱すべき「ブロード、ウエイ」之を縦貫す聞く所によれば昔は商業の要

樞は唯「ダウン、タウン」のみに止まりしかど近來市の發達につれ次第く北に進し來り既に三十二三町目より四十町目位迄に及べりと

千八百九十七年市の區域を擴げ周圍の各市街を擧げて紐育市に合せ之を大紐育と稱す其幅員三百二十五平方哩分ちて「マンハッタン」所謂紐育「ブロンクス」「マンハッタン」の北に當る「ブルックリン」同南に當る「クキンス」同上東に當る及び「リッチモンド」紐育灣内に在る「スタテン」島を云ふの各區となす其人口合計凡り三百五十萬紐育だけにて二百萬に達せり史を案ずるに千六百九年「ヘンリー、ハドソン」の此地方を探檢せし以來同二十四年に至り和蘭の東印度會社が印度人より六十「ギルダア」凡り我五拾圓を以て「マンハッタン」島を買收し始めて殖民を開き同五十年には人口千餘人あり當時之を「ニュー、アムステルダム」と稱せしが其後千六百七十四年に至り轉じて英人の手に歸し間もなく今の名に改められ爾來漸く發達せしと雖も千八百年の初めには人口未だ六萬餘に過ぎず長足の進歩を爲せしは全く其以後に在り百年の歲月短きにあらずと雖も六萬の人口よりして二百萬に至る亦驚くべきの勢ならず

や而して此二百萬の中其最も多きに居るものは獨逸人にして凡う九十萬之に次ぐを愛耳蘭人とす其數凡う八十五萬英蘇の人は二十萬伊太利魯西亞各十萬支那人は凡う一萬に及ぶ由又以て米國に於ける獨逸人の勢力の侮るべからざるを知るに足る

今紐育市最近千八百九十九年の輸出入貿易額及び出入港船の數を聞くに大畧左の如し

輸入合計 五四九、九八七、一五四弗
輸出合計 五六一、三四二、五三三弗

入港船合計 四、二五〇艘 七、七〇七、四七七噸

出港船合計 四、〇五四艘 七、四九六、二七九噸

「マンハッタン」島即ち紐育の西東兩岸を首め西に對する「ゼルシイ」市并に「ホボケーン」東に對する「ロングアイランド」南に對する「ブルークリン」の沿岸は大小の棧橋、櫛の齒の如く其總數二百にも及ぶべし遠洋、近海の航船は皆各之に頼りて貨物船客の揚げ卸しを爲す天然の良港に加ふるに此人工を以て

す其便利や知るべきのみ今試に太西洋横斷航船にして當港に出入する重なるものを擧れば次の如し

「アメリカン、ライン」 英國「サウザムプトン」に到る

「アラン、ステイト、ライン」 同「グラスゴー」及び「ロンドンダアリー」に到る

「アンカア、ライン」 同「モーヴキル」ロンドンダアリーを経て「グラスゴー」に到る

「アトランチック、ツランスポート、ライン」 紐育、龍動直航線

「コムパニイ、ゼチラル、ツランスアトランチック」線 佛國「ハーブル」に到る

「キユナアド、ライン」 「クキンスタウン」を経て「リヴァプール」に到る

「ハンボルク、アメリカン、ライン」 「サウザムプトン」を経て「漢堡」に到る

「ホラント、アメリカン、ライン」 「ロツタアダム」アムステルダムに到る

北曼「ロイド」線 「サウザムプトン」を経て「ブレメン」に到る

「フエニツクス、ライン」 「アントワープ」に到る

「プリンス、ライン」 「チーブルス」ゼノア等に到る

赤星線 「アントワープ」に到る

「スカンデナビヤン、アメリカン、ライン」

「クリスチヤニヤ」
「セント、ペトルスバルグ」に到る

白星線

「クキンスタウン」を経て「リヴァプール」に到る

「ウキルソン、ライン」

「ロンドン」及び「ハル」に到る

右の外米國沿岸より西印度、墨西古等に通航するもの十五六線あり又、バトソン河並に、ロング、アイランド、峽等に往復する河船の線路亦十三四あり鐵道の停車場は西の對岸、ホボケーンに在るもの五箇所、紐育市に在るもの一箇所、其外、ブルークリン並に、ロング、アイランド、シチーにも停車場あり紐育に向て集中し來る鐵道線凡う十數あり、ホボケーンの停車場と紐育市との間には、ハドソン河上を往復する渡船ありて出入の旅客を送ることとせり以上陳ぶる如く紐育に對する水陸交通上の便利、斯く發達すると共に市内交通の便利も亦大に見るべきものあり先づ電氣鐵道を第一として高架鐵道あり、馬車鐵道あり、何時見ても何れも満員ならざるなく殊に朝夕勤め人、職工等の出歸りの時を最も甚しとす此の如く交通の機關發達したる市中に尙ほ乗合馬車の往復するものあるは不思議に見ゆれども是亦相應の乗客あり翻

翻たる少女の如きも之に乘りて平然たり、其外近來の發明に係る彼の自動車も、ポツ／＼往復し居れり、辻馬車の數は割合に少き方にて從て其賃錢も不廉なり蓋し大抵の人は殊に馬車を雇ふ必要なく電氣鐵道、高架鐵道等にて容易に用便を達し得るが故ならん而して此等の電氣鐵道、高架鐵道等は晝夜とも一切休むことなきなり

此地の「セントラル、パーク」は世界に於ても一二を爭ふ名園にして横町第五十九丁目より起り百十町目に及ぶ其面積一平方哩と三分の一、外に「マンハッタ、ン、スクエイヤ」を稱する一區を有す博物館、動物園等の設けあり樹木蒼鬱、池水鏡の如く坦々たる車道、縦に馳せ横に走る若し夫れ天日漸く西せんとする頃に至れば派手に着飾りたる貴婦人、令嬢達の輕車肥馬われ劣らじと來りて驅るもの其幾百なるを知らず中には揚々として騎を學ぶものもあり自轉車の競走を試むるものもあり日暮になる迄は、いつも中々賑かなり此公園内に埃及古代の石塔あり其高さ六十二呎九吋、頭に至り劍の如く尖りたる角柱狀を爲す而して其各方面には象形文字の彫刻あり古氣掬すべし昔時埃及に於て

神前に奉納したる神聖なる紀念物なり其小なるものは歐洲大陸にも往々齎らし來れども大なるものは甚だ稀にして唯巴里に一基と龍動の「テームス」河岸に一基あるのみ當地の人々は此「テームス」河岸に在るものを見て米國にも一つ欲しきものなりと思ひ居りしに之を聞て埃及の前首相「イスメイル」パツシヤ贈るに今此公園内に建つる所のものを以てせり是は埃及に於ても第六に位するものゝ由にて其重量總計二百二十噸運送費は一切前の「ヴァンダア」ビルト氏負擔せりと云ふ「リツアサイド」パークと稱するは「ハドソン」河岸一帯の高地にして七十一町目より百二十七町目迄の間に在り悠々たる流に臨みて風景頗る美馬車を驅り自轉車を乗り回すには最も妙なり「グラント」將軍の墓は此公園内に在り

紐育と「ブルークリン」との間に懸け渡したる東河々上の長橋は有名なる「ブルークリン」橋にして實にも長虹の空に横はるが如く其總長一哩四分の一、幅八十五呎、中央に於て水面より高きこと百三十五呎、千八百七十年始めて架橋の議を決し爾來歳を経ること十有三年、金を費すこと凡う千六百萬弗、千八百八

十三年九月に至り成功したるものなり橋上に電氣車あり往復の人多く之に頼る現今日々橋上を往復するもの平均十萬人に下らずと云ふ其築造の精巧なること實に紐育のみならず又實に世界の一大奇觀たり

港内の「ベドロ」島上に自由の像ありまた是れ紐育の一大奇觀なり銅板を以て作り上げたる女神が手に炬火を捧ぐるの像にして像の高さ百五十一呎、臺の高さ百五十五呎、夜に至りて燈を點すれば其の火光遠く照らして燈船の用を爲す初め佛國有名彫刻家「アウガスト」パトルデイの合衆國に來り遊ぶや其の船中に移民の群集する状を見て心中私かに以謂らく若し此の國の入口に於て何物か此れ等の人々を歓迎して、こころ共和國なれとの思を其の腦裏に印せしむるものあらしめば如何に此れ等の人々を喜ばしめ且つ勵ましむることを得べけん夫れには「自由は世界を照らしつゝある」との意思を表する女神、炬火を捧ぐる大像を建つるに若くものなしと、此に於て國に歸りたる後、右の像を作りて合衆國民に贈らんものと思ひ立ち寄附を募りしに何がサテ奇を好む佛人のこと、連間もなく其の應募額二十萬弗に達せしかば千八百

七十九年其の製造に着手し八十三年に功を竣れり原と其の臺は米國の方に於て作るべき筈の所、米人は却つて左まで熱心もせず數年の間其の儘に打捨置きたりしを其の後、ワールド新聞率先して人心を喚起し遂に二十五萬弗の寄附を募り得て、千八百八十六年の夏に至り此の島を選び其の臺を築きて此の像を建てたり畢竟一時の好奇心に出でたる舉に過ぎずと雖ども自由を尊ぶ此の國の精神自ら其の中に籠るが如く像を望めば何んとなく人をして敬肅の意を表せしむるに足る、バトルデイの思付、佛人の義俠、共に千古に傳ふべし。

當地はシカゴと異なり日本人の店舗も少からず其重なるものは正金銀行、三井物産會社、森村組、關西貿易會社、近來破産の爲め閉店、山中商會、堀越商會、生糸合名會社等にして外に茶業組合の出張員もあり領事館には内田領事、在勤す我邦よりの輸入品は茶、生糸、羽二重類を主とし花筵諸雜貨之に亞く輸出品は棉花、レール諸機械の類なり、森村、關西貿易共に雜貨商にして其店舗も一通り整ひ居れり山中は骨董が主にして堀越、生糸合名會社等は生糸、羽二重の取

引を専らとせり右の外我邦人の船舶に乗込み下等勞働に従事するもの「ブルークリン」の方に大分居る由なり

われ等は一週間程滯留の後、六月十八日和聖東の方へ向け出立、七月二日の晩再び還り來りぬ此時は暑氣最早甚しく日中寒暖計百度以上に上りしことあり然れども時々雷雨來り其後は忽ち八十度位迄下るを常とし氣候頗る激變するを覺えたり一體冬は随分寒く夏の最も暑き所なりと云ふ併し此地の人々は夏の暑き時とても概ね矢張冬同様の衣服を着し白き服裝などは更に眼にかゝらず是れ蓋し盛夏中にも前記の如く氣候の變化甚しきが故にも因ることならん歟尤も少し氣の利たる連中は夏三箇月間位は住屋を鎖し家内連れにて暑を海濱又は山間に避くるを例とし其間は芝居興行物等も皆休業する由なり

七月四日は獨立紀念日にて米國に於ては一年一度の大祭日なれば市中一般に休業、祝意を表する爆竹の聲、到處に轟し午後四時頃より森村組の森村開作、關西貿易の手塚國一兩氏の案内にて「マンハッタン、ビーチ」に遊ぶ、ロングアイ

ランドの停車場より汽車にて凡う一時間半、大西洋に面したる海濱の遊び場にして奇麗なる旅館、海水浴場、芝居小屋等もあり日々紐育より上流社會の來遊するもの甚多し殊に此頃は烟火の催しあり尙又今日は大祭日のこと迎、人出非常に多く旅館の食堂は錐を立つべき餘地もなし、われ等の着せしは時間少し早き方なりし故、幸に一卓を占むることを得て食事を終り夫より烟火を覽る打ち上げの數も少なからず何れも奇巧を競ひ其色合の變化多きは遠く我邦の上に出づ既にして富士山焼けと稱する最後の催しに至る前面に作り置きたる我芙蓉峯之に屬する我國風を模したる寺院樓閣等より一時に噴火する狀、頗る凄まじくもあり又心地よくもあり人々喝采して止まず、但し其前に暫時我國の「俄」めきたることあり士が行列を整へて寺に參ると多くの坊主が迎に來る、其中に奥襟然たる婦人が人に逐はれて寺に逃げ込む、途中にて立ち回りが始まる、提燈を持ちたる供の衆がワイ々々騒ぐなど何の意味やら更に分らず而して其模形建築の風よりして此等、俄の服裝に至る迄、支那日本半々にして、われ等の眼より見れば可笑しきこと限りなし、われ等も未だ我國の米

國一般に知らるゝ所、此位のものなるか是にては折々支那人か日本人かと問はるゝも無理にはあらずと互に顔見て苦笑を漏らしぬ

五日には「アンカライン」の持主たる「ヘンダアソン」商會の支配人「トッド」氏の案内にて小蒸氣船を浮べて「アドソン」河を上下し併せて港内を巡視す、この人は原と馬耳塞に於て我會社の代理人を勉め居たりしが、近頃之を罷め轉じて當地に來りしなり之れより先六月三十日「ホボケイン」に在る北曼「ロイド」會社の棧橋に大火あり折柄繋留中の大船三艘に及ぼし何れも殆んど全損となりしのみならず百餘人の死者をさへ出したれば其混雜一方ならず損害高の概算二千萬弗にも達せりと唱へ居れり此日序ながら其棧橋の燒迹并に半沈没の燒船を弔す船は皆六七千噸の大船にして一艘を新造するにも少くも二百萬圓内外を要すべし、われ等平生斯業に従事するもの其無殘なる有様を見て安んず惻怛の思なきを得んや夫より「ブルークリン」の側に在る海軍船渠の前往復し長橋を下より仰き遂に「ブルークリン」船渠を覽る頗る盛大にして其最も大なる船渠は長さ六百二十呎あり

紐育市中の建物は皆甚だ高くして中には雲を突く計りのものもあり二十階位の家は珍らしからず其昇降は何れもエレヴェトルの便を用ゐ居れば高き迎も其爲め別に不自由もなしわれ等の旅館ウォールドルフ、アストリヤの建物は十七階にして第五縦街の第三十四横町の東角に在り規模宏壯、室の數千二百あり外に大小の舞踏室四五、演藝場特別室等の設もあり階下には食堂三箇所、讀書室、休憩室、酒保を首め新聞の賣場、電信の發信所等諸般の便利を備ゑ出入する人々いつも雑沓を極む中には外より飛び入りに来りて手紙を書くものもあり新聞を讀みて休み居るものもあり年盛りの令嬢達の殊更に着飾りて見せびらかしに来るものもあり是等は一切旅館にて咎むる所にあらず手紙の用紙、狀袋等は誰にでも使用すること勝手次第なり然れども一箇年に積れば其費額は左迄巨大なるものにあらず廣告料を拂ふと思へば安きものなりと申居る由なり最上階の屋根は所謂納涼場にして夏の間はここに音楽を催ふし酒保を開き客の來りて涼を趁ふもの甚だ多し地下にも尙ほ二層室あり其上層には理髮場、料理場等を設け下層には館内に使用する電力の機

械を据ゑ置く電燈の燭力は殆んど東京全市に使用するもの程ありと云ふ斯の如く其構造の大なるにも拘らず萬事頗る整頓し階上に至れば寂として更に喧器の聲を聞かず日本宿屋の騒々しきに比すれば雲泥の相違なり一體紐育の季節は冬に在り其頃には今夜は誰氏の新婚、明夕は何某の夜會など毎夜此旅館内にて舞踏の催し絶ゆる間なく演藝もあり音楽もあり各豪華を競ふ由が李鴻章が一日に三百弗の宿料を支拂ひて借りたる特別室も此旅館の三階に在り各國の王侯貴人にして此類の室を使用するもの亦少なからず大旅館としては缺くべからざる設けなり帳場に頼めば何時にても案内して館内を回覽せしむ

當地にて有名なる飲食店は、デルモニコなり是は第五縦街、四十四横町に在り價の貴きを以て顯わる、われ等も兩度程此に會食す成程出す所の食物、何れも精選を主とし其調理方の如きも何となく他に異なる所あるを覺ゆ上流社會の往く所にして何事も高尚なる方なり

三原氏は用務のため當地より先きに歸朝の途に上り、われ等一行は復た三人

和聖東府

和聖東は合衆國の首府にして政廳の所在地なれども原來商工業の區にあらざれば自然雜沓少なく靜かなる方なり而して其街衢の兩側には樹木を植て日を覆ひ風を送り頗る幽趣に富む町の名は何れも合衆國內各州の名を其儘用ひ議院を中央として四方より扇骨の狀を爲して集中せり人口凡う二十七萬八千人其三分の一に及ぶと云ふ

當時我駐劄公使は缺員にて鍋島書記官代理すわれ等は六月十八日午後三時半ペンシルバニヤ鐵道に頼りて紐育を發し八時半和聖東に若く鍋島氏賢くも菊の御紋打ちたる公使館備付の馬車を用意して來迎せらるわれ等には勿體なき方なり此頃は最早議會も閉場重立ちたる政治家外交官等は多く皆避暑の爲めに出遊交際場裏も至て靜なる時なれば公使館の如きも寧ろ閑散なる方なれども支那事件の爲め平年に比すれば多少面倒多き由鍋島氏の話

なり過日來到る處支那事件に就ては風説紛々新聞紙の傳ふる所も定かならず公使館に來れば少しは確なる事實も分るべしと思ひ居りしに矢張同様に左迄珍らしき報知もなく何れも雲か山か其推測に苦む所なりけり公使館の雇外人に「スチーブン」氏と云ふあり古くより居る人にて先づ公使顧問の如き位置に立ち交際場裏にも此人多く奔走する由なりわれ等其案内に依りて議院書籍館等を巡覽し又大藏省國務省の役人にも面會することを得たり

議院は「キャピトルヒル」と稱する高地に在り四方を瞰下して圓塔屹立翼を南北に張る北は上院南は下院而して中央には高等法院肖像室等あり總て純白なる大理石を用ひ其壯嚴整正なること寔に四十餘州八千萬民の議政府たるに恥ぢずわれ等は上院の口より入りて議場委員室大統領室等を歴夫より高等法院(舊上院議場)中央圓室肖像室を歴次に下院議場委員室等を過て下院の口より出でぬ議場は雙方とも半圓形にして正面に議長席あり其前に書記官席あり傍聽席は周圍の階上に設け四五百人を容るゝに足る中央圓室とは即

ち圓塔直下の大室にして直徑九十七呎餘、仰けば塔の天井迄、高さ百八十呎、光線は三十六窓より注入し來る其内面に有名なる壁畫あり、閣龍が千四百九十二年十月十二日、萬里の大洋を渡りて始めて、サンザルグエドアに上陸したる所、千七百七十六年七月四日、費府の議事堂に於て時の議長、ハンコックが卓に凭り其前に「ゼブルソン」「アダムス」「フランクリン」「ジャアマシ」「リビンストン」の五委員起立、有志を集めて獨立宣言式を行ふ所、「サラトガ」に於ける「バアゴイン」の降を乞ふ所、千七百八十三年十二月二十三日、將軍和聖東が議院に於て其職を返す所など、其重なる者なり之に對すれば人をして自ら今昔の感に禁えざらしむるものあり、肖像室には各州名士の肖像、生けるが如く温厚の君子、雄猛の將軍、明敏の才子、活達の英雄、相對し相列び室内髣髴として其聲を聞くの想あり、われ等異郷の客にても所感斯の如し、況んや其平生の功業、德望に親炙せる斯國人に於てをや、議院内の裝飾としては好工夫と謂ふべし。

書籍館は議院の前に在り、二三百間を隔て、相對す千八百八十八年に基礎を据ゑ九十七年の春、落成したる大建築にして、其費額實に六百餘萬弗、外に敷地

代五十八萬五千弗を要せりと云ふ、一切大理石又は花崗石を以て作り、輪奐の美、構造の壯、到底拙筆の記るし盡くすべしにあらざ、先づ大體の設計は中央に讀書場を設け、周圍に方形の回廊あり、前に大なる入口あり、讀書室と回廊との間に藏書場あり、總ての建物凡そ三エーカー半、凡そ四千三百坪の面積に廣がれり、而して其書棚を延長すれば殆んど一哩に及び、無慮四百五十萬卷の書籍を藏め得べき由、聞くも、誠にうその様なり、此館内には上下兩院議員の特別讀書室の設もあり、尙又議員が議院に在りながら參考書を借覽するの便に供する爲め、兩館の間に隧道、長千二百七十五呎を設け、望みの書籍、聲に應じて忽ち其手許に達し來るの装置を爲せり、盡くせりと謂ふべし、若し夫れ清閑を得て來て、此明窓の下に千古の奇書を繙くことを得ば、其樂や果して如何、風塵堆裏に齷齪たる予の如きものは、坐ろに館内に安置したる諸文豪の肖像に對して、忸怩たるのみ。

此府に於て何よりも目に立つものは、和聖東の紀念塔なり、「ポトマック」河畔の公園内に在り、高さ五百五十五呎、五吋八分の一の四角柱狀を爲し、其頂尖りて

劍の如し土臺の所にて五十五呎方面表面は悉く白大理石を以て疊み上げ内部に昇降機の設あり之に頼れば容易に其頂に昇ることを得べし彼の「エフェル塔」高九百四十八呎を除く外全世界中之に及ぶ高塔なし此建築の由來を尋ねるに既に千七百八十三年の議會に和聖東の功業を表彰する紀念を作らんと議あり和聖東の死に到り其議再發せしも未だ實行の運びに至らず千八百三十三年に及び始めて和聖東紀念碑協會の設立あり廣く公衆の義捐を促し千八百四十八年礎石を据ゑ五十五年塔を積みて百五十二呎に達せしも此時融金既に盡き復た其工を續く能はず荏苒七十八年に至り遂に再び議會の議に上り其費途を得て之を繼續し八十五年二月二十一日を以て落成式を行ふたるなり其費額總計百三十萬弗に及べりと云ふ尖塔雲に入り數十哩の外よりして尙ほ之を望むことを得べし和聖東が千古の功業を傳ふるには此位の工事は敢て異數とするに足らず

之に反して今尙ほ人をして和聖東生前の儉徳を追想して休まざらしむるものは「マウント、ヴェルノン」に存在する其陋隘なる故居なり石棺に永眠する和

聖東夫妻の遺骸も亦此邸内に安置せらるれば人の遠近より來りて之を訪ふもの常に跡を斷たず地は和聖東府を南に距ること十六哩「ボトマック」河上に在り高邱俯して流に枕み長樹亂生綠陰空を覆ひ鳥啼き草青く一境幽寂たり而して木造の二階作り一棟其中に立ち之に連りて料理場あり其外は奴僕の仕事場物置等數棟の粗屋あるのみ全く少し氣の利たる農家の體なり此本屋は九十六呎に三十呎の建物にして階下に饗客室、音樂室、應接場、家内の食堂、和聖東夫人の居間及び書籍室の六室あり二階には寢室三四あり其外一部分三階ありてこゝに又小寢室二三あり何れも天井低くして構造一體に極めて粗樸なり百有餘年の昔に當りて一世を聳動せし大偉人が功成り名遂けたる後も尙ほ依然として此に棲隱し絶て豪華を弄せず儉謙自ら守り遂に終焉に到りしかと思へば此の陋屋も亦寧ろ金碧燦爛たる高樓大厦に優る心地するなり

原來此家屋は和聖東の異母兄「ローレンス」が千七百四十三年始めて建築したるものにして其「マウント、ヴェルノン」と稱するは當時「ローレンス」が事へし英

國水師提督の名を取りしなり其後ローレンス及び其孤女共に死し此家屋井に附近の田畑は遂に譲られて和聖東の有に歸し和聖東は千七百五十九年結婚の後間もなく其最愛の夫人「マアサア」を携えここに移り來り燭立戦の爲めに劍を手にして立つの日迄農業に従事せり爾來多年の間風餐露宿千軍萬馬の間に馳驅し戦止んで後も國事に軼草して家に歸ること極めて稀れなりしも第二期大統領の任期終りたる後は復た歸り來りて千七百九十九年の永眠に至る迄靜に其餘生を此家に樂めり然るに不幸にも其後裔之を守る能はず千八百五十五年の頃時の持主たる「アウガستن、ワシントン」より賣物に出したり此時南カロリナ州の一婦人「カニンガム」嬢之を聞て感慨の念禁する能はず如何にかして此著名の故居を保持せんものと百方奔走して「マウンツ、ゲエルン」婦人協會を設立し五十九年迄に二十萬弗の金を集め得て同六十年に家屋田畝を舉げて協會の手に買収せり夫れより追々と破損したる所を補ひ遺物の散亂したるを集め來り永く保存の途を立たり今日に至る迄幸に此故居の存在するもの畢竟「カニンガム」嬢熱心の致す所洵に和聖東死後の知己と

謂ふも溢辭にはあらざるべし

各室内に備え置ける遺物一として今昔の感を惹かざるものなく中にも和聖東が戰場に用ゐし革襖、軍服、佩劍の如き或は其終焉の時迄臥せし臥床の如き、來觀者をして之に對して自ら敬肅の意を表せしむ夫人「マアサア」終焉の室は三階の一隅にして極めて低き小室なり和聖東の死後夫人は良人厝棺の所を望み得るは唯此室のみなりと自ら選んで此に起臥せしなりと云ふ

此邸内の一隅に於て岸に倚りて煉瓦を以て凸字形の小屋を作り鐵欄を前にし其内に大理石にて作りたる和聖東夫妻の棺を安置す周圍に家族の墓碑二三あり始めは河岸の低地に置きしを水害を虞り今の所に移し來りたる由、嗚呼白骨空しく枯れて英魂今何に在るを知らざると雖も其生前に辛苦經營せし合衆國の運命は日々益隆盛に赴き今や宇内に屹立して自由の宗國、商工業の發生場となる魂若し知るあらば又必ずや欣々然として首領せん

われ等は鍋島代理公使と共に往く時は電車、還る時は河舟にて、此故居を訪へり紀念物には園内の木にて作りたる小さき斧等を闕く、入覽料は一人二十五

仙なり

鍋島代理公使より二夕、日本食の饗應に預かる食後、裏の芝生に椅子を列べて涼を納る。燈火三々五々、飛て空に遊ぶも珍らし彼の桑港にて、われ等の話に上りし統計家伊東某、疾くより來りて寓公たり中々面白き人物にて其失敗談、人の顔を解くものあり鍋島夫人に英語を學び新聞買にゆく時、郵便切手買にゆく時などの話振りを真似るも可笑しく自ら曰く予は一通りの英文は差支なく之を認むることを得、日本にて幾多の英文書狀を草したることあれども未だ會て通らずして戻り來りたることなし然るに其通りに話して分らぬとは不思議なり先刻も「エイス、インス」の新聞を呉れと小僧に言ふたれども更に分らざりしには驚けり字に書けば本月八日は「エイス、インス」にて分るものを如何なれば新聞屋は之を解し得ぬぞと、之を聞て皆々抱腹、鍋島夫人は久しく英國にあり英國風の教育を受けられたる人にて日本に在りては會て皇后陛下に侍りて通辯を勉められたることありと聞く

公使館の取者は古くより居る黑人にて仲間の中にては中々幅のきく方なり

このことなるが此取者も星亨氏には大閉口、同氏公使として在勤の節には馬車も不用なりとして之を廢し従て取者も一旦解雇せしに付、今に至る迄恨み居る由、人情は可笑きものなり

是迄經來りし米國の各地は猶ほ不整頓なる新開地多く更に古色の見るべきものなく東洋生れの、われ等には何となく物足らぬ心地ありしが此和聖東府に來りて始めて幾分か好古の僻を醫することを得たり

「バルチモア」費府、「ピッツバルグ」及び「バツファロ」

われ等は六月二十二日の朝十一時、ペンシルヴァニア鐵道に頼りて和聖東を出發、途中「バルチモア」にて下車、市中を巡覽し午後七時費府に來りぬ

「バルチモア」は「チエサピーク」灣深く入たる所、「パタブスコ」川の流末に在り、太西洋迄二百餘哩、現今五十萬の人口を有する一良港なり、其輸出物は牡蠣の罐詰、烟草、銅鐵類を重なるものとし、穀物の賣買も中々盛なり、大船の碇繋する船渠は對岸の「ロカスポイント」と稱する所にして市より凡う三哩程を隔つ「バル

「バルチモア」費府、「ピッツバルグ」及び「バツファロ」

チモア、ヲハヨ鐵道の線路ここに來りて水陸互に相接續す、われ等僅かに馬車にて駆け回りたるに過ぎざれば、彼是れの評も出來ざれども、市中一體靜なる方にて何となく生氣の勃々たるものなきが如くに感ぜられたり。費府は流石に合衆國第三の都會だけありて人口も百三十萬に達し、家建も賤からず、目貫の所を除く外、餘り高き家もなければ、なべて清潔なり。千六百八十年の頃、有名なるウキリヤム、ベンの創設に係り、其後遂々に繁昌し、獨立時代に至りては實に各州の中心點となり、千七百七十四年の第一議會も、ここに開かれ、續て七十六年七月四日には、ここに獨立宣言書を發表し、八十七年には合衆國の憲法を定めて之を公にし、第一の大統領もここに住し、九十七年に到る迄、議會開會の地、即ち合衆國政府の所在地なりしかば、今尙ほ當日の古迹見るべきもの少なからず、われ等の路順は紐育より先づ當地に來る積なりしも、折柄當府に於て「レバブリカン」黨の大統領豫選會あり、全國各州より集り來る黨員、非常に多く、迎も旅宿は得難かるべしとのとに付、和聖東の方を先にしたるなり、われ等の着したる日は右の大會閉場後なりしを以て、市中は恰も洪

水後の如く靜なりしと雖も、尙ほ窓より國旗を出したる家も少なからず、夜中も新聞社などには、花瓦斯を點じたるあり、餘炎、多少残り居れり。當府は「デレウエヤ」河上に位するを以て、其沿岸に幾多の船渠を設け、出入の船舶常に多く、水陸の貿易甚だ盛なり、殊に諸般の製造業を以て名あり、「グラムプ」造船所は頗る盛大にして、われ等見物の節には、露國戰艦「カッスル」線の大船を首めとして、六七艘建造中なりき、一時に十五六艘位は引受くることを得べしと云ふ。

此地の公園は以て天下に誇るに足るべし之を「フエヤマウント」公園と稱し、「シユイキル」川其中央を貫流し、總面積凡そ二千九百「エークル」凡そ三百五十萬坪あり、丘陵高低、雜樹陰森、車を清風に驅るべく、舟に碧流に棹すべく、動物園もあれば、美術館もあり、千八百七十六年米國百年祭紀念の大博覽會も、此所にて開かれ、其遺物多少存在す、米國各市何れの地も心を公園に用おざるなしと雖も、其の天然の形勝を占むること、此地の如きは稀に見る所なり、園内に保存しある「ウキリヤム、ベン」當日の住屋は粗末なる煉瓦作りの小屋にて、古氣掬すべき

ものあり

「メンシルヴァニア」大學は此地に在り、われ等友人中、曾て在學せし人も多く、常に話にも聞き居れば、何となく夏かしく往て之を覽る規模随分大にして講堂、會堂等幾多の建物相連り、何れも飾らずして高尚、一見深遠なる學理を講ずる所たるを知る前年、此地に客死せし馬場辰猪氏の墓を弔はんとして之を搜索したれども、遂に搜し當らざりしは遺憾なりき。

二十四日の夜、瀛車にて費府を發し翌朝、ピッツバーグに着す、こゝは名高き「カア子ギ」製鋼所の在る所、地は「モンガヘラ川」と「アレガニー川」と會流して「ヲハヨ」河となる、其中央の舌端に在り、アレガニー市、水を隔て、北に隣りす、兩市を合すれば其人口四十萬に餘るべし、街路廣からず、處々に坂あり、畢竟一小市に過ぎざれども、其雜沓の甚しきこと驚くばかりなり、蓋し鋼鐵のみならず硝子等の製造所も多く、日々に發達しつつある地なるが故ならん。

抑も此地が斯の如く製造場として勃興せし所以のものは、要するに其周圍に無數の良炭鑛あると天然瓦斯に富むと水利の便あるとに因る、現今にては水

に臨みたる處は概ね製造場を以て充たされ、筍の如く參差連立する烟筒より噴き出す炭烟は濛々として空に漲り、白日爲めに暗く、何となく氣味わるく感ぜらるゝ程なり。

此地の近邊より産出する石炭は年額三千萬噸内外、一噸の價金貨六七十仙の間、に過ぎず、天然瓦斯の使用高は一箇年凡そ四百五十億立方呎に達すれども、其三分の二迄は家屋用に供し、製造上に用ゆるものは三分の一程なりと聞く、其燃料としての効用は凡そ瓦斯十二立方呎を以て石炭一斤に比較し得べき割合なり。

鋼鐵の原料たる鐵鑛は多く、シユピリヤル湖畔より運び來るものにして、其額年々五六百萬噸に下らず、「カア子ギ」製鋼所のみにて製する鋼の高年額凡そ三百萬噸、宇内各國殆んど之を供給せざる所なく、其餘りに大業なるを以て世界の平和を擾亂する勢力ありと噂せらるゝ程なり、近來米國の鋼鐵が漸く英國を凌ぐに至りしも、故なきにあらず。

われ等は先づ市中に在る「カア子ギ」製鋼會社の事務所に到り、刺を通じて其

工場の縦覧を請ひしに賣捌係長「ホップス」約定係擔任「カアソン」の兩氏出で、面會快くわれ等の請求を容れ「カアソン」氏、態々案内の勞を執り一同電車に乗りて走ること十二三哩、第一に「グエケーン、ミル」に到り鑛鐵を溶解して鐵塊となす所を覽る鑛爐は高きこと見上る計りにして一日に六百噸を溶解し得べく之に鐵鑛并に「コークス」を投入する矩合、いづれも固より器械の力を用ゐ其簡便容易なること面白き程なり、原と此邊は川に沿ふたる山村にして市街にも遠ければ「カア子ギ」會社にては殊に少なき旅館を設け、こゝに來る人々の爲めに宿泊食事等に差支なからしめ居れり、われ等も其旅館にて「カアソン」氏より午餐の饗應に預り次ぎに「ホームステッド」の製造所を覽る其規模非常に壯大、火になりたる鐵塊の五六尺角もあらんと思はるものを機械にかけ或は延して板となし、或は截ちて條鐵となす等左ながら木材を取扱ふに異ならず而して其鐵を溶解する大坩堝は幾個となく列立し鐵湯を充たしたる擔桶は右に左に間斷なく天井裏を飛び回るを以て、炎焰常に室に滿ち地下には又火脈の縦横するあり看來る光景、電氣閃き、鐵火飛び、瓦斯燃白、鐵車轟き見ぬ

焦熱地獄も斯くあらんと思はる、われ等暫く其内に立て見物せしも何がサテ暑中に火屋に在ることなれば熱氣言はん方なく汗既に涸れ盡くして、兩耳ヒリ／＼と焼痛を感じるに至れり今にして之を回想するも尙ほ肌の熱する心地す、われ等は全體斯業に就ては盲目同然、唯見て驚くのみなれども若し専門の人をして之を見せしむれば必ず色々悟る所も多からん

「カア子ギ」の製造所は都合十箇所、方々に散在す悉く之を覽んとすれば少くとも三四日の時日を要す、われ等は前途の急がる身にて逆も其暇なければ前記の二箇所だけに止め此夜直に「バツファロ」に向け出發、翌朝同地に着す西に於ける「シユピリヤル」湖上の「ドルース」と相對して東に於ける「イリイ」湖上の「バツファロ」は湖水々運の要樞を占め東西を貫通する鐵道の一集合點なり現今人口凡う三十五萬、「バツファロ」を稱する河の流末に倚りて港を作り湖上を往復する數多の大船巨舶こゝを起點とするもの甚だ多し従て穀物、木材、石炭等の輸出頗る盛にして無數の「エレヴェトル」港に臨みて連立、中には「ナイヤガラ」大瀑の水力電氣を用ゆるものもあり、市街は一體に清潔にして家屋の建

「バルチモア」費府、「ピッツバURG」及び「バツファロ」

築も中々立派なり

大北鐵道會社の附屬たる「ノーザン」汽船會社の支店此地に在り其客船「ノースランド」號及び其姉妹船「ノースウェスト」號の二艘此地より發航して「ドルース」に到る、われ等は其店員の案内にて「ノースランド」號を覽る大北の自慢する船だけありて船内の諸設備至極完全裝飾亦極めて美麗蓋し湖上に往復する諸客船は言ふに及ばず、米國各地の諸灣諸川に浮ぶ客船中是程の者は復た他になかるべし噸數三千五百噸、速力二十哩、五百人の客を運ぶに差支なし船室は二人室、一人室等色々區別あり従て其運賃にも亦等差あり食事は船内の食堂にて船客各好む所に従ひ別に代價を拂て之を喫す、米國の湖川に浮ぶ諸客船多く此仕組なり、大抵の室内には附屬の浴場と便器の備あるが如き隨分の贅澤なり但し大體の構造は平水航船即ち「フェリー」形にて荷物は船客手荷物の外、一切積入れず其最下層は料理場貯蓄場等に充て居れり此の如き好船舶なれども湖水は冬季氷結するを以て其働く時日は一年の三分の一に過ぎず經濟の上に於て維持甚だ困難なるや無論なりと雖も大北の人の話に依れば此

船が鐵道の引札となり之に依りて鐵道の方に與ふる利益少なからざれば此に失ふ所は彼にて償ひ得べしと云ふ尙又近年は湖上往復の愉快と此客船の完美なること漸く世上に知れ渡り來りて之を試むるもの日に増加し船のみにも餘り損失を見ずして濟む になれりとのことなり其事實果して如何にあるべき歟

此地の公園は湖水の落ちて「ナイヤガラ」河となる其岸上に在り水風肌寒く烟波天に貼し眺望ただ佳なり對岸は即ち英領加奈多に屬すれば國防の爲めと云ふ積り歟處々に古大砲の横はるを見る又郊外に出づれば湖畔に數多の遊び場所あり酒旗林間に翻りて客を招く、われ等も馬車に鞭つこと十哩計り數時間の閑を「ウッドローン」なる所に消す海とは違ひ岸打つ波も何となく柔かにして濱の砂子も荒々しからず五六の飲食店遊戯射的場等水に臨みて點在、肥え太りたる田舎娘の客喚ぶさま言語こそ異なれ風情はわれにも變らざりけり

此地より紐育に達する運河あり川船の交通頗る頻繁にして大抵十五六日あ

「バルチモア」政府「ピッツバURG」及び「バッファロー」

れば紐育に達することを得べきが故、急がぬ荷物は之を利用するときには運賃最も低廉なり。原來「ミチヤボリス」或は「セントポール」より通じ汽車にて紐育に荷物を送るよりも前章にも述べたる如く「ドルルス」にて湖上の荷物船に積移し「バツファロ」に輸送し更に汽車に積み送る方、運賃の上にて於て頗る勘定よし。これ夏季の間、此地を「ドルルス」が非常に繁昌する譯なり。

「ナイヤガラ」の瀑布

いでや是より筆を清めて宇内の奇觀を寫さんと喚ばれば、いかにも名文でも出来そうに聞ゆれども日記帳付のわしが秃筆、徒らに造化の巨作を汚すに過ぎず。心地は左ながら威風堂々たる大豪傑の前に引き出されたる素町人に異ならず。

「シユピリヲル」「ミシガン」及び「ヒュロン」の三大湖の水、集りて「イリー」湖に入り更に下りて「ラントリヲ」湖に入る。此兩湖の間を貫通するもの「ナイヤガラ」河是なり。其長さ三十六哩。「ナイヤガラ」の大瀑は此河に在り、「イリー」湖口より二十二哩、

「ラントリヲ」湖頭より十四哩の所に懸る。

通常瀑といへば多く深山幽谷の裏に在りて、斷崖絶壁より瀉下するものなれども、此大瀑は其周圍一體の高原にして、只邱陵の處々に起伏するものあるのみ別に山もなければ谷もなく、一口に評すれば、勾配急に流れ来る江水が忽ち江底の陥落に逢ふて頓折し、上段より下段に向て注ぐものなり。

山羊島江中に横り、瀑之が爲め岐れて二流となる。南に懸るを「アメリカ」瀑、北に懸るを「馬靴」瀑、又「カナダ」瀑と稱す。其中央に又一流あり、中央瀑と稱すれども、「アメリカ」瀑と相近ければ、同瀑の一派と見るも可なり。「アメリカ」瀑は此中央瀑を合せて其幅凡そ一千呎、高さ百六十四呎。「馬靴」瀑は其幅凡そ二千七百五十呎、高さ百五十八呎。瀉下する水積「アメリカ」瀑に比すれば、四分の三乃至五分の四多く、落口に於ける水深二呎より二十呎の間に在り、之を「馬靴」と稱するは、其形の似たる故なれども、今は靴頭段々落ち込みて鋭角状を爲すに至れり。算數家の説に依れば、此兩瀑より落つる水は二十四時間毎に二億九千六百萬立方呎に達し、二十萬噸の石炭、即ち全世界の炭産より掘出す一日の産炭額を以て作り

出す所に匹敵する力を有すと云ふ驚くべき至ならずや
瀑の上流は江勢既に急湍の状をなす其勾配アメリカ瀑の方半哩間に四十呎
下り馬靴瀑の方四分の三哩間に五十五呎下る舟楫固より通じ難く湍勢石も
流れん計りなり

「ナイヤガラ河ハ合衆國と加奈多と兩國の界にして合衆國の側に於ける瀑邊
一體の地及び山羊島ルーナ島は共に之を公園地と爲し紐育州に於て保管す
對岸加奈多領の側も亦同じく公園地にてラントリオ州に於て之を保管す尤
も右は近來のことにて其以前には名所の弊風甚だしく此大瀑を覽る爲め少
くとも五六弗の料金を要し而して兩岸には汚穢なる飲食店休息場等並列し
常に遠來の客を惱ませしを以て遂に紐育州にては百四十三萬餘弗ラントリ
オ州にては四十三萬餘弗を投じて其地面を買收し陋屋を毀ち弊風を矯め見
物無料の公園と爲したるものなり故に今にては兩國間に懸る橋の橋錢の外
特別に設けたる觀瀑用の舟車等を雇用するにあらざれば此大瀑を覽るだけ
には何等の料金をも要せざることゝなれり

「アメリカ瀑は一の字形に懸るを以て寧ろ奇趣乏き方なりと雖も馬靴瀑は前
記の如く銳角狀を爲すを以て其角の所に在りては兩扁より落つる水互に相
打ち三四合目より下は既に濛々として水烟盛に巻き上り其狀大噴火口に異
ならず最も奇なり而して雙瀑とも水積の厚き所は稍藍色を帯ぶと雖も薄き
所は總て餉色をなす流下の江面は一面に打綿の浮動するが如き凝烟を以て
充たされ巖も石も水も浪も皆一色なり其四方に飛び散る泡沫は碎けて霧と
なり雨となり雲濕ひ樹滴る其百哩に轟く瀑聲は響きて雷の如く霆の如く天
驚き地動く其怪奇にして變幻常なき所は惡鬼羅刹の群を爲して戯むるゝに
異ならず其雄豪にして壯快なる所は萬馬千軍の一齊に馳突するに似たり
涓滴も遂に石を穿つ時あり况んや此晝夜轄々として下り休まざる億萬の水
勢に於ておやその漸次斷崖を磨耗して後退すると云ふも敢て怪むに足らず
地學家の調査に依れば既往半世紀間に於ける馬靴瀑後退の度は頗る著しく
若し此割合を以て進むときは追々瀑の位置は山羊島の後邊に迄退き從て今
の「アメリカ瀑は涸れ盡き其上流は化して巖石磊塊たる一溪となるに至るべ

しと、但し夫れは少くとも數千年の後のことなりと云へば先づわれ等現世界の人類は安心して可なり、近頃又此後退は全く空氣の爆發力に因ることを發見せし人あり其説に曰く馬靴瀑に於ける銳角兩扇の水相激する所殊に勢強くして其邊の空氣之れが爲めに壓迫せられ五分乃至二十分位毎に爆發し水烟を空に漲すこと時として百呎の高きに及ぶことあり瀑の此邊より次第に掘れ込みゆくは其度毎に斷崖の幾分づゝ自ら削り去らるゝが故なりと、氣壓力の強大なることは之を諸般の機械に利用して世に隠れなき所、その天然に生じて此作用を違ふすること固より之れなしと謂ふべからざるなり之よりも猶ほ面白きは大瀑江水並に溪谷の年齢に關する地學家の諸説なり或る先生は瀑の後退力及び大盤渦の邊に於ける水路の變化模様を爲し、ナイヤガラ河は三千五百年より古からずと唱ふるかと思へば或る先生は又否を熱ら水身變化の狀を參觀すれば三萬二千年位の齡を重ねるならんと説き或は又之に基きて氷雪時代、湖水時代等の説を試み其學說頗る新奇なるものあり

大瀑はアメリカ側も加奈多側も共に掬して飲み得ん計りに直ぐ瀑の落ち口に迄近き上より瞰下すことを得べく又傾斜鐵路に頼りて瀑岸を下り霧娘號と稱する小蒸氣に乗れば雙瀑とも直下より之を見上ぐることを得べし尙ほ「ルーナ島と山羊島との間に於て風窟と稱し中央瀑を背後より覽る所もあり各其方向に従ひ趣を異にすと雖も最も盛觀なるは兩國の間に跨る長橋の中央に立て眺むるに在り我面前に當り雙瀑相列びて萬丈の玉簾を垂下したるが如くに懸り其後半の雲霧となりて糝糊たるさま、洵に天地の大奇觀なり此橋は千八百六十九年の架設に係りアメリカ側に於ける塔の高さ百六呎加奈多側に於ける塔の高さ百二十呎、塔より塔迄の間千二百三十呎、水面を去ること二百五十六呎、車道人道に分れ、構造の雄壯なること大瀑々下の吊橋たるに恥ぢず、橋の兩側に兩國の税關出張所あり向ふ岸にて購ふたる土産物にてもグツム々せば苛税を課せらるゝことあり是は風雅の地に似合はぬことなれども國法なれば奈何にせん

大瀑の水力は七百萬馬力に下らず、其風雅を損することなくして之を製造工

業に應用すること敢て難きにあらず既に前年來其計劃成効して目下瀑邊に設立する製紙、製藥、製鐵等の諸製造處五六あり其他電氣鐵道電氣燈等の原動力ともなり居れり今後益其發達を見るならん

われ等六月二十七日の午後「パツファロ」より電車に頼りて四時頃「ナイヤガラ」街に着し「インタアナシヨル、ホテル」に投ず「ナイヤガラ」街は現今人口四萬程あり觀瀑の客に便する旅館も少なからず就中此「インタアナシヨナル、ホテル」は大なる建物にして清潔、六百人位の滯留に差支なく後は直ぐ公園に臨み雜樹繁茂、綠陰人に宜しく枕に響く瀑聲も自ら塵心を洗ふ想あり案内の馬車を賃して處々を乗り回はり遂に向ふ側に渡りて馬靴瀑頭の旗亭に入り寫眞並に土産物を購ふ別に珍奇なるものもなし唯瀑下に産する寒水石様の軟石を以て作りたる飾玉等の細工物は紀念として面白ければ少し携え歸らんと直段を聞くに中々に不廉なり兼て掛直多き由聞及びたれば凡そ半直位に冷やかすと番頭の婦人喋々と其高からざる所以を辯じ容易に承知せず漸くのことにて直切り遂げ一行合せて二三十金の買物を爲し隨分酷に談じたれば安く

とも高きことはなかるべしと共に誇り居りしに何ぞ圖らん還りて旅館の近傍に在る正札付の土産店に入りて試に同種の品の直段を聞けばわれ等が安く購ふたりと思ふ其直段と大差なく中には此店の言ふ方少し安きものもあり「サテモ油斷のならぬことかな、承知しながらも猶ほ斯の如しと互に顔見合して微笑一番

馬靴瀑頭より江に沿ふて往き又四五町計り岸を上げれば火井あり原と瓦斯の水の中より發するものに過ぎざれども今は一個の見物場となり之を覆ふに小屋を以てし周圍を暗黒にせり而して客來れば誘ふて其屋内に入り先づ棒を以て井中を攪擾し置き之に點火すれば猛火忽ち盛に立ち外り其中より魔法使でも顯れそうなり夫れだけのことなれども「ナイヤガラ」の一名所なれば收入の見物料も少なからざるべし

白人種の未だ來らざる昔に在りては「インデヤン」人は常に此大瀑を以て鬼神の隠るゝ所と認め毎年生きながら小女を犠牲に供し崇拜止ざりしと云ふその白人種の知る所となりしは千六百七十八年佛人「ラセイ」の一行に加はり

て渡り來りし宣教師「ルイ、ヘチピン」に始まる此人は其紀行を公にし中には瀑の高さを五六百呎もあるべしと記したるが如き誤謬もあれども兎も角之を歐洲人間に紹介したるなり其以後此近傍は度々白人と土人との間、英人と佛人との間、又は英人と米人との間に於ける戰場となり修羅の慘狀を演じたることもあり其古迹今尚ほ往々にして存在せり、ランテリオ湖に於ける「ナイヤガラ」古壘の如き最も著れたるものなり

大瀑より下ること七哩「アメリカ側には「ルイストン」加奈多側には「クキンストン」と稱する兩小村あり、水是より平にして舟行差支なし、こゝに到る迄の間「アメリカ側には電氣鐵道あり奔湍激流と並行して走る、風景最も幽奇、壑塘三峽も之に過ぎざるべし、われ等二十八日の朝「ナイヤガラ」を後にして此電氣鐵道に乗りて出立、瀑の下流は水勢緩漫洋々として波を揚げず深き所にて百呎乃至二百五十呎、幅大抵四分の一哩位あれども下ること凡そ二哩、「ミンガン、セントラル」鐵道と「グランドツランク」鐵道との兩長橋相列りて架する邊より江勢漸く盛りて幅四百呎に過ぎず水は怒龍の群を爲して走るが如く右に激し左

に當り浪躍り雪砕け奔放の狀、人間最も快絶の境を爲す其速力一時間に三十哩に達すと云ふ暫くして江折れて水北に屈す其曲り角臂の如し、「フーブル」即ち大盤渦と稱する所是れなり加奈多側を望めば絶壁削るが如く其高さ約三百五十呎、其上綠樹森々たり奔馬の勢を以て馳せ下る巨江の水崖に當りて轉回、忽ち千呎の大盤渦を巻き起し水面高低、湯の釜中に在るが如く、煮え返り涌き還り順に流れ逆に流れ男浪女浪は巻きつ巻かれつ吸ひつ吸はれつ互に相狂激、其聲轟々として雷霆を聞くに似たり電車停まること數分、直に復た馳せ去る間もなく妖怪窟と稱する名所あり湍勢頗る急なり其上の巖中に一大窟あり昔時土人の酋長共が集りて會議を開きし所なりと云ふ千七百六十三年の頃、英兵二三百計り「ナイヤガラ」壘を出で、「シユロツサア」壘に向ふ途中、此窟中に於て午餐を傳え居りしに、忽ち土人の襲ふ所となり殆んど屠殺せられしことあり是より以下は水勢次第に緩かにして江の幅も亦廣くなり行き兩岸別に見るべきものなし唯、加奈多側に當りて深樹の中に屹立する「ブロック」將軍の紀念塔隱現するのみ將軍は千八百十二年十月十二日「クホンスト

「ナイヤガラ」の瀑布

ン岡に於ける英米の戦に名譽の戦死を遂げたる英將なり午前十時半、ルイス
トンに着、汽船「チベツ」號に上る

嗚呼余は今や覺束なくも宇内の奇觀を寫し終れり願みて遊覽の當日を臆え
ば神魂忽ちにして雲霧模糊たる巨瀑の邊りに往復し耳には猶ほ鞞々の聲を
傳え眼には猶ほ萬尺の玉簾を懸く唯其風光の壯大無比なる隨て記せんとす
れば隨て捕捉すべからざるものあり萬一をも形容し能はざるを奈何せん、聞
く所に依れば大瀑の冬景は又格別にして千尺の氷柱空に懸り氷塊堆積して
山を爲し日光之に映じて五彩の氣を放つ趣、最も見ものなりと云ふ

凡そ山水の奇觀は多く遊覽に便ならざる僻境に在り尙くも好奇の士にあら
ざるよりは探討するもの少なきを例とすれども此大瀑に至りては全く之に
異なり既に舟車の便に富み又眠食の備にも不足なし左れば客の四方より來
るもの年々五十萬人以上に及び中には熱市の暑を避けて永く滞在する人も
あり又風光に戀々として數日去る能はざる人も少なからずと聞く、われ等も
時さへあれば五日十日の滞在は苦からずと思はれぬ

千島及び「モントリヲル」

洋々たる「ナイヤガラ」の江水は寛厚の長者に接するが如く更に波瀾の起伏す
るを見ず瀑となり灘となり幾多の變化を經來りたる其前身も此「ルイストン」
邊に至りては其偉だにも留めず百尺の「チベツ」號流に順ふて靜に下りゆく兩
岸の風光自ら淵大なり下ること五哩、江水注で「ランテリオ」湖に入る、「アメリカ」
側には「ナイヤガラ」の古壘、邱上に屹立し加奈多側には「ナイヤガラ、ラン、レイキ」
の小市、水に枕みて粉壁烟を帶ぶ、「ミッシンソーガ」の古壘亦其畔に在り何れも史
上に隠れなき古迹なり既にして船は烟波渺茫たる湖上に浮みて舐る水風脈
々舵樓肌猶ほ寒し午後一時過「トロント」に着す「ランテリオ」州の首府にして加
奈多に於ける繁昌なる一市なり人口二十二萬、家屋の構造、街衢の設計頗る見
るに足る、大學もあり、製革、醸造、家具製造等の業、逐日發達の勢ありと聞く、われ
等は僅か一時間計りの時を利用して馬車を驅りて市中を回り二時半頃「トロ
ント」號に上る

「ドロント」より九十四哩にして船「アメリカ側」の「シャロテ」に寄港す「ロセスタア」市の港口にして一小村に過ぎずと雖も名ある避暑場なり、峡月湖に在り船兼霞の裏を溯りて又下る、夜色極めて幽、夫より烟波夢を載せて穩かに名高き「キングストン」も何時の間にか過ぎ去りて翌朝覺めて起き出れば船は聖魯連斯河上に在り「クレイトン」に程近く彼の「千島」の絶景既に始まりたる所なり、抑も「千島」を稱するは「キングストン」邊より起りて「ブロックウキル」邊に至る迄、凡そ四十哩程の間、聖魯連斯河に散在する島嶼を云ふ者にして其數實に幾許なるを知らずと雖も公文に徴すれば大小合せて千六百九十二島ありと云ふ、加奈多と合衆國との境は水の中央に在るを以て此等の島の中には加奈多に屬するものもあり合衆國に屬するものもあり水路は島の間を縫ふて蜿蜒、右し左し、北に南に、岐れては復た合し合しては復た岐れ船之に順て上下す島として蒼翠なる樹を戴かざるはなく而して樹間には朱欄粉壁、圓塔方樓、巧を競ひ奇を争ひ壯麗なるは水城の如く幽閑なるは釣亭の如く、綠波と相掩映、送れば來り來れば去る、江面左ながら屋氣樓閣を現出するかと疑はる皆是れ陶朱

猗頓の避暑場にして萬金を費しとせず建て列ねたるものなり尤も中には來遊の客に便する宏大なる旅館もあり番の如き島を其儘に公園となしたる所もあり「ヤット」の競走、釣魚の樂、盛夏を消するには恐らく天下に又た是れ程の名所はなかるべし、われ等行旅の人、唯身を輕舟に托して此間を下りしのみ畢竟雲烟過眼、仔細に品評を費すの暇なきは遺憾の至りなり、九時半頃、船「加奈多側」なる「プレスコット」に着、更に「ボヘミヤ」號に乗換え復た江を下る水平かにして復た多くの島嶼を見ず六哩程にして「ゲヤロップ」灘あり幾ならずして又「ブラット」灘ありと雖も未だ之と云ふ程にもあらず、是より江勢漸く急にして「グロイス」島を過て「ロングソール」灘に入る、其最も流の急なる所は一哩半程の間に過ぎざれども其前後一體に流早くして九哩の間、引續き灘狀を爲す水の速力一時間二十哩に及ぶ、江面數島あり水路は通常南側に在り北は極めて危険なり、此灘の盡くる所に在る「加奈多側」の小市を「コーンウアル」と云ふ小舟にて此灘を上下すること困難なるを以て別に江に沿ふて運河を作り數多の閘門を設けて水を平かにし運輸に便せり、「コーンウアル」より二

十五哩の間は、フランシス湖にして其幅五哩、湖盡きて江面復た數島あり、コー
ト「シイダア」ケヤスケイドの諸灘、相連りて下る既にして、ヲタワ河、南より來
りて合す水深黒江に入りて色あり、セント、ルイス湖、幅六哩、長さ十二哩、其下に
連る之を過ぐれば即ち江中最も名高き、ラシン灘なり、當時白人種の此を發見
するや支那に到る水路、正しく此より通ずと認めて此名を下せりと傳ふ灘を
下りて五六哩、間もなく眼に落つる長橋は其長さ九千八十四呎に達する、ウ井
クトリヤ橋なり、橋下を過ぎて船直に、モントリヤル港に入る時正に午後六時
頃なりき、以上過ぐる所の諸灘蓋し皆水の江底の巖礁に激するものにして其
怒浪を起し、盤渦を卷くの勢物凄きこと言語に盡くし難し、船の此を下る時は
宛も洋海の風濤を渡るに異ならず、船體動搖、今にも碎け去らんかと惧る快は
快なりと雖も、ラシン灘の如きに至りては面白さは過ぎて寧ろ顔に汗する思
あり、水先案内は總て此水路に熟する、インデヤ入を用ゆる由なり、平水の所に
至りては兩岸平遠、村樹烟深く、牛遊び馬嘶き、時に層螺の遙翠を送るものあり、
時に尖塔の樹梢に隠現するものあり、其悠揚迫らざる所、自ら大國の風致を備

ふトロントより、モントリヤル迄、里程三百八十九哩、キングストンより、モン
リヤル迄、同二百四哩、即ちわれ等が今朝起き出てより、聖魯連斯河を下ること
凡そ百八十九哩の間に在り、寔に樂しき旅路なりけり

ヲタワ河は流末に至り、岐れて數派となり、聖魯連斯河に合す、其間に在る一大
島を、モントリヤル島と云ふ、モントリヤル市は即ち此島上に在り、表は聖魯連
斯河に臨み、背には、ローヤル山を負ひ、風光畫の如し、現今人口凡そ三十萬あり、
加奈多に於ける最も盛なる貿易地なり、是れ畢竟河水此邊に至る迄は、猶ほ深
く、大船巨舶の出入に差支なく、歐洲との間に直航の便あるが爲めなるべし、現
に、アラン線は此地を以て起點となし、常に八千噸をも超ゆる大船の多く埠頭
に碇泊するを見る之に加ふるに、陸に於ては加奈多太平洋鐵道の根據を此に
占むるあり、其外、グランド、トランク線もあり、遠くは太平洋沿岸の各地、并に湖
畔の諸要地と連絡を通じ、近くは紐育と一晝夜の距離に過ぎず、形勝頗る壯な
り、初め千五百三十五年、ジャックケス、カアチアの發見する所にして、當時は、イ
ンデヤ人の茅屋、山下に點在するに過ぎざりしが、續て千六百四十二年に至り

佛蘭西人來りて殖民し千七百五十九年英領に歸したる時其人口四千八百あり夫れより長足の發達を爲し、いつの間にか加奈多に於ける商業の中心となれり

前記の如く此地は原と佛人の開きし所故今尙ほ佛人の數其大半を占め聖魯連斯街を中にして東は佛語を話す人種西は英語を話す人種と自ら區劃を存せり市中には寺院の數頗る多く堂塔高く聳え、いづれも古色あり中にも「ノッタルダム」寺の如き千六百七十二年の開基にして塔の高さ二百二十七呎堂内一萬二千人を容るゝに足る右の外近來の建物中にも宏壯なるもの尠なからず

初めわれ等は加奈多太平洋鐵道會社の停車場旅館に投ずる積なりし所かの「ボヘミヤ」號の船中には多くの客引乗込み居り遂に其口車に乗せられ模様替して「グンズル」ホテルに投じぬ此とて固より粗末なる下等旅館にあらず萬事整備したる大建築なれば敢て不足なき方なれども客引に説付けられたるは是れが始めなり是迄は何れにても更に此種の人に出合ひしことなかりき

又此船中に乗合ひの人々は何れも皆日本人が珍らしそや顔付を爲し頻りにわれ等の動止に注目せり中にも田舎風の翁媪が日本といふ國を知らず或る客引が之に對して其支那と異なりて文明の域に進みつゝある國人なりと講釋し居りしには、われ等も知らず歎聲を漏せり夫れかと思へば又大の日本好きの一婦人あり態とわれ等に近づき來りて、よもやまの話を仕掛け米人の何事も金々と騒ぐ殺風景を罵倒し日本の美術に熱心なるが羨まじと我國の爲めに氣焔を吐しも頗る興あるを覺えたり

此地には有名なる日本好きの素封家サア、ウキリヤム、パンホーム氏とて近き頃迄加奈多太平洋鐵道會社の社長を勤め今尙ほ其重役の一人たる好老翁ありわれ等も業務上全く關係なき筋にもあらざれば往て之を訪問せしに折柄在宅にて大に喜び忽ち客室より延ひて自分の居室に案内せられ多年集收に苦心せし日本の陶磁器を示して是は何焼彼は何甕と半生の研究に依りて得たるを説話す斯道に就ては中々われ等の及ばぬ智識あり二十五年前より研究を始め之が爲めに抛ちし金錢も少なからず今にても珍らしき品物は續々

買入る由なり家僕も日本人を使用し凡そ日本人とあれば貴賤に拘らず引見して會談するを最上の樂となすと聞く、變りたる人もあるものかな
馬車を驅りて「マウンツ、ロイヤル」公園に上る、草樹茂生、いまだ手入れの届きたる方にはあらざれども全市を眼下に瞰、ラシン灘の邊より、ゲキクトリヤの長橋など皆見えわたり、河を隔てたる合衆國の平野には漠々として烟連り氣象頗る遠大なり唯此日は寒雨霏微、我三月頃の天氣にも似て肌冷かなれば勿々にして下り来る

六月三十日の夜八時「ポストン」に向け出立、初めの間は加奈多太平洋鐵道線なれど間もなく「ポストン、メイン」鐵道に接續す

「ポストン」

「モントリヤル」よりの汽車中に於て例に依りて合衆國の稅吏、客の手荷物を検査す、われ等の手提、革囊等をも開き一々嚴重に之を改む固より別に稅の懸る品もなければ無事に通過す、其後検査稅吏は、われ等の姓名、職業を問ひ終りて

曰く始めより承れば革囊の検査も要せざりしに知らぬこと、逆太だ失禮せりと彼れ亦無情の人にあらず、七月一日朝八時「ポストン」に着、「ホテル、ツォーレイン」に投す

「ポストン」は同名の灣底「チャーレス」河の流末に在り、河水と海水とに劃られ、半島の狀を爲す、「チャーレス、タウン」南「ポストン」、東「ポストン」、何れも其對岸を圍繞し合せて大「ポストン」市となる、其人口凡そ百二十五萬、内、原との「ポストン」に屬するもの凡そ五十六萬、港内に數多の小島羅列して頗る風致を添ふ、沿岸には多くの船渠あり、歐洲諸國、其他各地方に通航する船舶の來往、紐育に亞て盛なり、然れども原來米國に於ては最も古く開けたる地だけありて自ら美術文學の中心となり他の各地に比すれば氣風一體に落付、突飛急進の生ま／＼しき俗氣薄きに似たり

史を案ずるに千六百三十年の頃、ジョン、ウキンス、ロツツ、其一隊を率て此邊に到着し、初めは「チャーレス、タウン」及び「サレム」に殖民せしむ、其地を好まず轉じて今の「ポストン」即ち當時「インデヤ」人が「ショウマツト」と稱せし半島に移れり

是れ即ち「ボストン」の始めにして其時には地域も甚だ狭かりしが追々周圍を埋立、今の如く廣がれりと云ふ、越て千七百二十二年の頃には其人口一萬六千七百七十人あり其前千七百三十年には既に米國に於ける最初の新聞紙此地にて發行せられたり千七百七十年よりそろく米國革命の亂兆顯れ同年五月五日、英兵始めて市中の人家を焼き殺傷あり引續き英國の苛政益暴虐を逞ふし七十五年六月十七日遂に「パンカア、ヒル」の戰となり「ボストン」市中は忽ち修羅の卷と變じたり、かの和聖東が此に來りて聯合軍の指揮を執りしは七十六年の三月四日に在り亂平て後千八百年には人口二萬五千に達し夫れより漸次發達して遂に危然たる大都會をなすに至りしなり

市中の建物、紐育等の如く雲突く様なる高厦を見ずと雖も其趣向頗る高尚にして雅致あり中には随分面白き形したる古建築も少なからず若し米國に於て何れの地が最も英國風を存するかと問へば萬口一齊「ボストン」なりと答ふるなるべし且つ此地は豪家多く米國西部の諸事業に向て注入し居る資本少額にあらずと云ふ羊毛の貿易、穀類、靴類、紡績糸布等の製造太だ盛なり

此地の美術館は多く稀代の名品を蒐集したるを以て夙に世上に隠れなし就中日本の古美術品に至りては是れ程集めたる所は他に之れなかるべし銅器、彫刻物、武具等は申すに及ばず漆器類の如き時代詩畫の高貴なるもの甚だ多く我國にても容易に手に入り難き品物のみなり蓋し維新以後我文物一時廢替に歸し美術品の如き人の棄てし顧るものなき時に「ビグロ」氏等の手にて集めたるものなり、博士「モールス」の集めたる日本陶磁器も亦館内に在り是は殊に著名なるものにて、其數幾千百なるを知らず幾多の硝子戸棚に陳列して長大なる一室を領せり其陳列の方法は、先づ國に依りて區別し各其密名と時代とを附記し置けり、「パン、ホーム」氏の集め方も之に同じ、何分各國各密の古製品を收めしものなれば自ら玉石混交の譏は免れざれども其主意我國人が骨董を愛するると異なり新古を參照し精粗を比較する點に於て世を益すること少なからず歐米人の美術に對する心懸は又わが俄分限者や似而非茶人どもの思ひも寄らざる所あり聞く所によれば「モールス」博士は今尙ほ此館に在勤し多年苦心せし此陶磁器に對する解説、起稿中にて其脱稿も近きに在り遠か

らず發刊する由なり日本美術品の爲めに一大恩人と謂ふべし
「パンカア、ヒル」は「チャーレス、タウン」に在り有名なる戰場なれば定めて山河の
形勢も夫れに相應したる所ならんと思ひ居たりしに來て見れば何ぞ圖らん
人家の櫛比したる間にある數十畝の芝生にて少し高味なれども今日にては
先づ小供の遊び場に適當したる一小丘に過ぎず其上に紀念塔あり高さ二百
二十一呎千八百二十五年六月十七日彼の俠將軍「ラフェー」其建礎式を行ひ同
四十三年に落成有名なる「ダニエル、ウエブスタア」氏落成式の演説をなしたる
ものなり抑も此戦は千七百七十五年六月十七日、四千の英兵が粗造なる胸壁
に依れる三千の米人を攻撃して其胸壁を奪ひしものにて當時英軍の死傷千
五百、米人は四百五十、以て其激戦たりしを知るに足る掌大の芝地、別に凄風の
鬼哭を傳ふるものなしと雖も百二十餘年前に於て、こゝに漂ひし殷血は遂に
滔々として米大陸に氾濫し今日の繁盛を來たすの源となりしかと思へば又
自ら懐古の情の禁ざる能はざるものあり之を聞く、此地も原とは山と唱へし
程にて相當の高原なりしも追々市の發達に従ひ四方より切り平らげ其周圍

に家屋を造るに至りしものなりと

「バアバート」大學は對岸の「ケンブリッヂ」に在り綠樹の裏に講堂點在、閑靜に
して勉學の地には最も適當と思はる千六百三十六年の創立にして獨立戰爭
の時には一時米軍の兵營、和聖東の本陣となりしこともあり、和聖東が此樹下
にて始めて聯合軍の指揮を執りしと云ふ榎、今尙ほ學校の近邊に在り一碑之
を標章す

此地の地下鐵道は近年の創設に係り何事も改良の新設計に基き地方人士の
誇稱する所なれば試に之に乗じて二三の停車場間を往復す聞きしに違はず
車も奇麗、速力も早く電氣力に頼ることなれば炭烟の臭氣なく極て快なり龍
助の地下鐵道は人の常に噴々する所われ等該地に着したる時、友人共が屹度、
其便を説くに相違なければ、其時はわれ等は「ポストン」にて既に是より便利な
る地下の電車を試みたりと鼻柱を挫きやらんものと用意顔なるも可笑
此地には山中の骨董店を始め三四の日本商店あり、七月二日午後三時「ポスト
ン」を發し九時頃紐育に着す

米國雜事

米國は一體平等の國にて貴族もなければ門閥もなく大統領も、權助も、貴婦人も、おさんも階級上には別に變りなく何れも自尊獨立の氣を負ふ夫れに加へて新開の地なればにや自ら遠來の人を歓迎する傾あり此に於てか逢ふ程の人は誰れ彼れなく紹介して憚からず例へば人に案内せられて或る商會に至らん乎、案内者は其室内に椅子を列へ居る人には主人にても手代にても委細構はず残らず吾を紹介して握手せしむるを國風とす「シエトル」にて、われ等或る工場を見て歸る時、門前にて上には「シャツ」一枚、下には弊れたる股引を穿ちたる労働者體の人に逢ふ案内者忽ち紹介して曰く是れ市會議員某氏なりと彼れ平然、手を出して、われ等と挨拶、敢て其服裝の粗野なるに耻づる色なし、こゝ等が米人の氣風なり

米人は何を話すにも直に世界第一と云ふ彼所の製造所にて、此所の製造所にて、世界第一と誇稱し何でも少し大なるもの、新奇なるものは世界第一の

形容詞を用ゐざるなし蓋し是れ其抱負の自ら言語に顯はるゝものと謂ふべき歟

大抵米國各市の家屋は其建築非常に高きが故に昇降機を用ゆるを常とす旅館又は大なる建築には三四乃至六七の昇降機あり間斷なく働き居れり其速力「ラフピス」に用ゆるもの最も疾くして降るときには自ら慄然とする思あり之を掌るもの黒人多し旅店にては折り／＼之に心付を要するなり又婦人が其内に入り來るときは男子は脱帽する習慣なり女尊男卑も餘り有り難からず

旅店の地下室には理髮所、靴磨場の設けなきはなし二三脚の椅子を高き所に列へ前に足を置く臺を設く客椅子に倚りて足を臺上に載すれば一奴伏して靴を磨く傍に二三の新聞あり客に退屈をせしめざる爲めなり街の四ツ角其外人通りの多き處には必ず此靴磨屋あり初めは齒醫師の出張所かと思はるゝ程にて其體裁頗る奇なり龍動、巴里等には此種の靴磨屋を見ず少年の墨と刷毛とを入れたる小箱を携えて磨きに回るものあるのみ

米國の旅店、涼車内等にて使用する奴僕は多く黒人、或は黒白の間の子なり、煤にて塗りたる如き手にて皿を出されたるときは餘り奇麗な心地もせざれども、夫れも慣れ來れば何時の間にか忘れ去りぬ、一體に白人よりも柔順にして使ひ易きに似たり

最も羨ましく思ふは市内の交通機關、道路並に水道なり、殊に道路は何れの市にても「セメント」「アスファルト」等を以て叩き堅め、其兩側の人道即ち家屋の前通りは皆板石を敷きたれば如何なる雨にても泥にて靴の汚るゝ憂なし、而して其家屋の前通りの敷石は家主の義務に屬し、是非ともせねばならぬ事になり居れりと云ふ我國にても斯くありたきものなり

荷車を曳く馬は大き象の如く肥え太とりて脊筋の溝は深さ一寸もある程なり、其くせ至極温順にして絶て喧騒の聲を聞かざれども、力は體力の割合に強じと云ふ、途中にて見る度毎に羨ましく思はれぬ、若し我國の馬を以て之に比すれば、其比例横綱の大砲と常人との如き有様なり、然れども其道に通じたる人の説に依れば、斯の如き種類の馬匹は伯樂の一顧をだにも値せざるものに

て之を種育することも容易なり、夫れよりも米國馬匹の優等なるものは餘り軀幹長大ならずして骨格の締りよき種類に在り、このことなり、尤も近年は自轉車の流行に依り馬の價頗る下りたる由

何れの地にても旅館内には別に酒舖あり、外より來りて飲むこと隨意なり、其外飲食店にも酒舖の設け備はり居れば一寸散歩中にもアソコここに寄りて興奮劑を聞召すこと、米人一般の習慣なり、而して誰にても先きに言出したるものが其代金を拂ふこと殆んど常法の如くなれり

何品によらず米國は高直なり、衣服の如き龍動に比すれば少くとも倍は高し、故に婦人連中は歐洲に遊びたる時、作り來るもの多き由なれども、餘り澤山持ち返るときは忽ち税を課せらるゝ憂あり、之を免れん爲め無暗に襲ね着を爲し汗びたりになりし珍談も屢耳にする所なり、但、リン子、類は土地に産するを以て割合に高からず

土地の濕氣少なき故にも因るか、凡て米人は氷を用ること甚だ多く、家々皆其供給者と約束して、毎朝若干斤を配達せしむ、旅館、停車場、涼車内等に於て一般

の用に備ふる飲用水も皆氷塊を投入したる所謂氷水なり、われ等も米國旅行中は平均一日に六七杯の氷水を飲まざる日なかりき

太西洋

五月四日桑港に上陸せし以來、凡そ七十日間、各地を周遊し豫定通り七月十一日紐育より英國行の郵船「ラーセア」ニツク號に上る毎年此季節は米歐間の旅客甚だ多きが常なるに別けて今年は佛國大博覽會行の見物客非常に夥しく評判よき船の客室は數月前より約し置くにあらざれば俄に申込みれば速急には得がたし、われ等は此機子を聞知するを以て日本出立前、既に龍動に申遣はし此船の客室を豫約し置きたるなり出帆は午後三時にして其前より九丁目なる白星社船の棧橋に集り來る見送人は老若男女立錫の地もなく船の上は又手荷物を持ち運び等、上を下への大混雜われ等も見送りの知友に手傳て貰ひ漸く手荷物を自分くゝの室内に持ち込み終りしは船側に倚りて雜沓の有様を見て樂む既にして時刻にもなりければ船纜を解て徐ろに船渠

を出づ帽を振り手巾を揺かして別を叙する内外船内の人々、其聲沸くが如し、われ等も今や米國を去るかと思へば聊か并州是故郷の感なき能はず

此「ラーセア」ニツク號は千八百九十九年白星線即ち英國の「イスマイ、イムリー」會社が英米間の郵船として九十萬磅を抛ちて新造せしものにして當時世界第一の大船なりき其長さ七百五呎幅六十八呎深六十八呎總噸數一萬七千四十噸汽機十五、公稱馬力二萬八千、最速力一時間二十二海里、石炭の消費高一晝夜に付四百五十噸乃至五百噸、三百九十餘人の乗組員を備ふる上等四百餘人、中等二百人、下一千人の船客を搭載し得べしと云ふ

この度は上中等の船客満員にして、三々五々甲板に散歩するもあり書籍室に漫讀するもあり酒舖は朝より忙しく喫烟室には骨牌遊びの音丁々たり十二、十三の兩日は潮流の都合にて蒸熱殊に甚だしかりしも其後は逐々涼しくなりゆき且つ毎日く風浪穏かにして船動揺せずわれ等の船暈連中、豫ての心配も全く無用となり三度の食事も寧ろ時刻遅しと待ち兼ねたり、所謂大船に乗たる心地とは斯る時を謂ふなれりと始めて覺りぬ

上等客の食堂は船體の中央なる中甲板に在り同時に總員の會食に差支なし尤も三四百人にも餘る多數のことなれば到底食堂内に於て席順を立つることとは出来がたく銘々初日に「スチユアード」に就き勝手なる卓を取極め置き之に就くなり衣服の如きも中には盛裝して威儀を正し居るものあるかと思へば更に又無頓着にて略服の儘なるもあり全く制裁なきに似たり、われ等無性ものには至極の所なり概して英米の間を往復する上等船客は上流社會多く若し船中にて彼是服裝などに干涉するときは男子こそ一領の燕尾服にて事足るべけれども華奢を好む婦人連中に至りては毎夕同一の服裝を着くる譯にもゆかず又其間甲乙互に競争の氣を生じ自然冗費を要せしむるに至る虞ある故、此の如く其制裁を付け居らぬなりと説くものあり一理ある説なり此船中にては「コブチック」號に於けるが如く別に遊戯の催しを見ず是れ一は其航海時日の短きに因るべしと雖も一は客の數餘り多くして何事も容易に纏り難き故ならん歟、但し毎夜食事後喫烟室に於て明日正午迄の航海哩數を競賣に付すること頗る盛にして一時間程は全くせり市場の如し詳く言へば

競賣に付するは何百何十哩と云ふ籤のことにして最も當りそちな籤程其價高く、せり上げく二百餘磅にも達せしことあり是れ愈當れば之に依りて得る所、四五百磅位に達する見込ある故なり最初其仲間に入るには一人に就き一磅宛出し置くを要す然るときは何百何十哩かの一籤を得る權利あり其得たる籤を更に競賣に付し自分も買ふことを得、人も買ふことを得而して其賣上代金の半額は之を其籤の所持人の有と定め残り半額を集めたるものと最初の加入金とが即ち當籤者の當り高となる方法なり故に時に依りては五六磅乃至十磅位にて二三百磅を贏ち得ることあり當れば中々の儲けなれば熱心に競争するも無理ならず或る當籤者の如き思懸なく二三百磅の收入を得たるより毎日朝から酒浸りになり喫烟室内に眼をすゑ意氣獨豪然たりしも可笑かりき

船中にて日本人客は、われ等三人の外二人あり何れも米國に在住し名も知らぬ人なり外客の内には日本珍らしく、われ等に談話を求むるも少なからず中には「ドクトル、アールン」と云ふ五十格好の醫者なり此人

平生好みて日本支那の事物を研究し居る由にていつもわれ等の骨牌仲間となり大きなる孟子にて麥酒を飲みながら面白く話し合へり或る時も隣偶ま船暈のことに及びわれ等紐育出立の際友人より船暈止めの妙薬を貰ふたれども斯く天氣穩かにては其用もなしなどと話しサテ醫學上より何か船に酔はぬ工夫は出来ぬものにやと尋ねしに其醫師の説には船暈は畢竟耳底に在る水の動揺して腦に及ぼし其邊に在る胃の神系に影響し遂に嘔吐を催さしむるものなり其證據には先年數百人の雙啞を一船にて單送せし事ありし時誰れ一人として船暈を感じたるものなく之に反して半生聽感の發達したる音樂家には船暈に感ずるもの殊に多し故に之に基きて方劑を用ゆれば船暈も豫め防くことを得べし現に今同行の荆妻の如き平生船暈の僻あるを以て豫め之に其手當を施し置きしに大に効あり更に船暈を感じず卿等にして若し船暈の氣味あれば遠慮なく話されよ直に良薬を施さんと鉛筆を執りて耳底の圖など描きて示されたりわれ等素人のことなれば果して其説の當れるや否やを知らず参考の爲め記るし置くのみ

一日事務長に話し船内各部を巡覽す機關の壯大なるは申す迄もなく料理場貯品場氷室等の整頓して大仕掛なること左ながら大旅館の設備に異ならず寔に驚く計りなり料理人の一人がわれ等を見てヲハヨク々々と連呼せしも一興なりき

航程は大抵日々四百七八十哩最も多く走りし日は四百九十四哩に達せり左れば總計二千九百三十二哩の大西洋も六晝夜足らずに經過し終りぬ又快ならずや其代り船客運賃も太平洋に比すれば甚だ高く同じ上等にても室に依りて等差あり又冬と夏と季節に依りて高低あり夏の間の人通り多き時は冬よりも凡そ二割方高きを常とす我社長の船室は上甲板の最上等部に在り一人入りの細長き室にて其運賃九十五磅余と川田氏との室は第三甲板即ち食堂の下層に在り日光の徹らぬ室なれども二人にて六十磅を支拂ふたり十七日の夜愛耳蘭のクキンスタウン港外に二時間餘り船を停め同地行の客を揚げ翌十八日は愛耳蘭峽を過ぎて正午少し過ぐる頃芽出度リヴァプールに着き棧橋に船を繋げば出迎ひの人々又黒山をなす舷側に頼り望てめばわ

れ等の知人「ブラウン」「ゼームス」根岸の三氏、早くもわれ等を見付け喜色満面に溢る、われ等も亦何となく心嬉しく上陸遅しと急がれたり。既にして陸に上りて見れば、棧橋の横は直ぐ停車場にして龍動行の列車待ち構ゑたり、手荷物等の始末も濟めば之に打ち乗り「リヴァプール」を立出でぬ。後にて聞けば是歳佛國博覽會あてに歐洲に遊び大西洋を渡りて米國に還り來りし旅客の統計は次の如くなり、先づ年中の航海度數は總計八百三十八回にして運送旅客の數五十四萬三千三百四十三人、之を一昨年の航海度數總計八百二十六回、旅客の數四十一萬千七百七十七人に比すれば航海度數は僅か百分の一程の増加なるに旅客の數は三割方増加せり、既往十年間中千八百九十一年に五十九萬五千三百十三人、内四十四萬五千二百九十人は下等客の旅客ありて以來の大數なり、而して此昨年中の旅客を種別すれば其十三萬七千八百五十二人は上等客、四十萬三千四百九十一人は下等客にして一船平均、上下等六百四十五人、前年は四百九十七人に當れり、又之を各線に區別すれば上等客は「キエナード」會社線第一にして五十一航海に對し平均一航海三百九十二人、

「アメリカ」ライン之に次ぎ平均三百七十三人、白星線第三にして平均二百九十九人なり、然れども若し上下等を合せて之を算すれば白星線第一にして平均八百八十六人、北曼「ロイド」第二、平均八百六十三人、「キエナード」會社線第三、平均八百三十八人、之に次ぐを北曼地中海船、平均七百六十三人、「アメリカン」ライン平均七百五十六人、漢米線及び赤星線各平均七百三十二人、佛國線平均七百四十八人、漢米地中海船平均六百五十八人、「アンカア」ライン「地中海線」平均五百九十三人、同上「グラスゴ」線平均三百八十八人、「マラン」線平均百四十二人なりとす。

龍 動

名にし負ふ世界第一の大都會來て見れば聞きしとは又格別にて其繁華雜沓の狀、何から言はん様もなし昔或る佛蘭西人が龍動に遊ぶこと一箇月、歸りて後其狀態を寫さんものと筆を執りしが何分不確かなる所あればとて更に遊ぶこと三箇月、歸りて復た筆を執れども未だ要領を得ざる所多く三度目に出掛け種々探討研究遂に三箇年の久しきに及び却て丸で分らぬ様になり嗒然

筆を抛ちたりとの話あり蓋し觀れば觀る程考ふれば考ふる程益漠乎となり其津涯を知る能はざるに至るは龍動の如き大都會の觀察には怪むに足らざる所なり夫れを予が一箇月足らずの滞在にて一端なりとも筆を下さんとす抑又大膽の所業と謂はざるを得ず想ふに予をして更に一箇月間滞在せしむるときは必ずや彼の佛人の如く初めより筆を抛ちて降參せしならん予の筆を下すは畢竟其滞在の短かりし故に外ならず

「テームス」河を溯ること凡そ五十哩、水に架する長橋は幾多の虹影を顯はし兩岸の人家參差として軒を列ね其何れの處に至りて盡くるを知らず龍動市の幅員は實に長さ十四哩、幅八哩、百二十二平方哩の面積を有し街衢の數凡そ七千八百之を延長すれば三千哩に及び建物之數は五十五萬四千、人口は凡そ四百五十萬あり紀元前數百年の昔より存在せし所なるを以て米國各市の如く高樓大厦の雲際に聳ゆるを見ざる代りに滿都の風光幾多の劫塵を閱みし來りて自ら古色の掬すべきものあり米國より來るものは恰も數奇贅澤を盡くしたる新分限者の邸宅より庭の植木も千年の緑を籠る由緒正しき舊家に移

りたるが如き感を生ず

さる畫工會て米人、英人及び歐洲大陸諸國人の狀態を寫出し米人に擬するに疾走の體を以てし英人に擬するに徐歩の體を以てし大陸人に擬するに休息の體を以てしたりと、大陸にも今は日耳曼人の如き日々發達するものあれば一概に此寫意に同心する能はざれども米人の疾走、英人の徐歩は頗る穿ち得たりと思はるゝ所なきにあらず第一、龍動に來りて眼に着くものは目貫の所に電車の走るを見ずして二階付の乗合馬車が轆々として四方に奔馳し、盛装したる妙齡の佳人も絹帽に「ブロック、コート」を着たる紳士先生も悠然として其上に乗り居ることは是れなり、われ等一日談此に及び「斯の如き古風なる物を存せずとも何か新工夫のありそうなものなりと言へば豫て龍動最負英國自慢を以て名ある友人根岸氏は躍起となりて若し龍動にして此乗合馬車なかりせば市民の不便いかに大なるべき乎、乗合馬車程便利なるものなしと、大に辯護に努む、われ等も亦擲論半分に「何ぞ米國の如く電車の便に頼らざる自體英人は保守に傾き進歩に迂なりと罵倒すれば根岸氏は益躍起となりて此の

肩摩穀擊の雜沓場裏に如何にして電車の軌道を敷くことを得ん是れ乗合馬車の存在、已むを得ざる所以なりと同行の川田氏は例の米國最負盛に米國の優れたる所を説き、こゝに英米の兩論者、市街交通の機關に就き數時の論戰を旅館の樓上に開きたることあり畢竟一時の戲言に過ぎざれども龍動に來るものは蓋し誰しも皆此感あることならん此外市中に多きは一頭立二人乗の辻馬車にて處々に屯集、客を待つこと我人力車の如し尤も市街交通機關としては數多の市街鐵道あり、夫れに有名なる地下鐵道もあり、尙又近頃開業したる地下電氣鐵道あり、テームスの川蒸氣あり、又市端になれば電車もあり、馬車鐵道もあり地と處とに應じ十分の便を備えたれども此の乗合馬車と辻馬車の多きは確かに市内の大雜沓を來たす一大原因たるべし往復の頻繁なる處に在りては何時も此種の馬車并に荷馬車、絡繹織るが如く一寸街上を横切るも容易のことにあらず四ツ角には巡查立ち居りて數分間毎に大手を廣げて縦より來る馬車を制しては横より來る馬車や行人を通過せしめ横より來る馬車を制しては縦より來る馬車や行人を通過せしむ其狀千軍萬馬の馳せ違

ふ戰場の混雜を見るが如く、われ等如き始めての旅客はマゴクせば忽ち踏み潰さるゝ恐あれば道行くにも大に注意を要し殆んど半分は走る方なり我會社船の或る事務長は急用ありて領事館に出願する爲め群がる馬車の馬腹下を五六度も這ひくゞりて漸く、こなたの端よりあなた端に出づることを得たりと話せり又われ等の一友人にして一脚の不具なる人が先年龍動に遊びて路頭に泣きたることあり兩脚達者なる、われ等も時折は泣き出さんとせしことあり併しながら此大雜沓も慣るれば何事もなきものと見え盲人も歩行せば跛者も通行す中には自轉車を驅る得意の佳人もなきにあらず而して餘り踏み潰されたる話も聞ざるなり地下鐵道は煤氣空に散ぜずして墜道に充ち還りて車窓を打つを以て臭氣頗る耐へ難く長く乗れば頭痛の氣味を生ず之に比すれば地下電氣鐵道は大に優る所あり其昇降には「エレヴエートル」を用ゆる程にて三四百尺の下に在れば一種の陰氣を感ずと雖も龍動に於ては先づ第一の交通機關たり「ポストン」に在るものに比するも多く遜色なし其敷設には非常の金を費したりと左もあるべし

龍動の市街は多年の間に年を逐ふて發達したるものなれば街衢極めて不規律、迂曲繁回、或は廣く或は狭く道を覺ゆるは容易のことにあらず、われ等も幾度か迷子にならんとせり然れどもそこが辻馬車の御蔭にて一二志を投ずれば大抵の所からなれば無事に旅館に歸り來ることを得べし乗合馬車は其色合等に依りて各道筋、行先を異にすれば餘程熱し來る迄は容易に乗り難し濫りに乗れば飛んでもなき處に連れ行かると受合なり但し其賃金は近きは一片、遠きも二片三片の間に過ぎざれば少しく分り來れば之に乗りて龍動の見物は至極安上りにて却て興味あるべし市中にて最も雜沓する所は英蘭銀行の前にて俗に「バンク」と稱する邊龍動橋の近邊、又は「ネルソン」記念塔の在る「チャリン、クロス」近邊ならん、この邊に集まる人馬車輛の數は實に夥しきものにて龍動橋を通過する車數だけにて一日二萬二三千、行人十一二萬に及ぶと云ふ

われ等の投宿せしは瓦土樓橋畔の「テームス」河岸に於ける「サウライ、ホテル」にして壯大なりと云ふにはあらずれども高尚優美、調理極めて上等龍動に於て

も他に餘り讓る所なき好旅館なり窓外綠樹を隔て、悠々たる江水に枕み橋を過ぐる輪蹄は晝夜を分たず轟雷の響を斷せずと雖も若し夫れ水風、晚涼を送り月、參差たる樓臺の上を照らす時に至りては市中には多く得易からざる眺望なり原とより上等人士の止宿する所なれば客多しと雖も更に喧囂の聲を聞かず晚食の時には男女何れも禮服を着用し威儀頗る靜肅假りにも惰容あるを見ず、われ等は折々更衣が退儀になりて自室内にて食事を済ませしことあり根岸氏が常に來りて食を共にし蘇州産の古「ウスケー」を左ながら我家にて製したるかの如き自慢「川田氏」が一瓶の「ウスケー」を何日間も食堂の給仕に預け置きて飲むは紳士の體裁に關する逆、眉を皺めたるも時に取りての「一興」なりき

憲政の本家本元たる英國の議院は是非一見せざるべからず議事も一度は傍聴したきものなりと思ひ居りしが幸に公使館員の周旋にて傍聴券手に入りたれば或る日世話しき中を一寸繰り合せ、午後三時頃より「ウエスミンスタア」橋の畔に於て「テームス」河に枕みて建られたる議院に往き下院の議事を傍聴

す此議院は千八百四十年の建築に係り長さ凡そ九百呎幅凡そ三百呎の大夏にして上下兩院の議場を左右にして十一箇の大廣間と一千一百の小室を有す而して前には有名なるウエスミンスタアの大廣間あり(長二百四十呎幅七十呎高九十二呎)南西の角には「ウキクトリヤ」塔あり(高三百三十一呎)其外龍動中に響き渡ると云ふ大時計を載せたる高臺もあり頗る壯嚴なる建物なり傍聽人の入口は即ちウエストミンスタア大廣間の横口にして此より入れば室内には古今名士の肖像兩側に並立す其間を過ぎて曲れば大廣間の一隅に受付係あり之に傍聽券を示して宿處姓名を帳面に記入し階段を踏みて二階に上り左曲右折處々にて守衛に教へられ遂に傍聽席に出づ、瞰下せば議場眼下に在り六十二呎に四十五呎の長方形を爲す正面に一甌あり是れ即ち議長席にして其前に書記官席あり又其前に卓子あり書類文房具等を載す議長席の右は政府黨左は反對黨の席なれども何れも別に卓子もなく唯共同腰掛、長く列を爲し其後に番號を記したるのみにて甚だ無雜作なり原來下院の議員は其數六百七十人あるに拘らず議席は總計四百六十七人分に過ぎず而して

其一部分は階上の傍聽人席に接近せり故に大問題起りて多數議員の出席したる場合には傍聽人席に迄割込み來る由なり議員は何れも帽子、外套、杖等を自席に携え來り中には帽を戴きたる儘の議員さへ見受けらるゝに反して議長と書記官とは白の縫に赤の法服を着け依然として古風を存し居れり此日の議題は餘り重要ならざる事件と見え出席の議員も少なく演說何れも單簡にして之と云ふ程のこともなき様子なりしかば二三分にして出で來りぬ全體議事は夜に入らざれば旺にならざるを例とすと云ふ又議院の開會中は晝間は「ウキクトリヤ」塔上に國旗を翻へし夜間は時計臺に火を點ずるが定例なる由

「アールスコート」と云ふは淺草の奥山を數十倍大にしたる程の見せもの場にして種々様々の催しあり近來殊に評判となり居るは各國美人共進會なり一志の見料を投じて其中に入りて之を覽るに場内環狀を爲し之を幾區にも仕切り一區を一國となし「パノラマ」の如くに其國々の風景を模し、そこに其國産の美人、二三人位づゝ或は樂器を弄し、或は歌樂を唱えなどして遊び居るさま

楚腰越艷魏紫姚黃左ながら衆香國裏に来るが如し多くは是れ碧眼紅毛の高加索人種なれども地に依りて其衣服裝飾の異なるは無論自ら顔形同じからず清楚々たるもあり妖嬌々たるもあり紅唇萬斛の愛を蓄ふるもの秋波善く英雄を射殺するに足るもの佛人の華奢愛耳蘭人の粗撲額骨低くして鼻の高き英姝寧ろ九ボチャ然たる曼娘看來り看去れば中々に興あり唯同じく其中に加はりたる日本美人に至りてはわれ等も顔を覆ふて過ぎ度なりぬ蓋し天草邊より海峽地あたりに出稼ぎ居たりし醜業婦の類にてもあらん歟一人は二十前後一人は十六七共に色の黒きこと小麦團子の如く其上に處班らに白粉を點じ田舎娘が村の御祭に着るが如き變な色したる衣物を着ポロンくと三味線を掻き鳴らし居るは如何に野卑にしてむさくろしきか殆んど言語同断なり豫て東海の美人國を以て目せらるる我國人の見本としては今少し選擇の仕方もありしならん斯ることは畢竟餘り感心すべき催しにもあらず従て彼是論評の限にあらざれども誰しも國自慢の念なきものなければ見れば自ら之に觸れて一種の感を生ずるぞかし隣の支那美人の方は大小二人と

も曲眉高鬢一寸見るに足る其實是れも日本人を支那風に仕立たるなりとの説を爲すものあり果して然れば何ぞ初より之を取替ゑざる歟阿々

有名なる水晶宮はサイデンハムに在り市中より鐵路の便あり長さ千六百餘呎に渉る鐵骨の一大建築にして玻璃窓玲瓏として八面を照らす是れ其名を得る所以なり原と千八百五十一年に開きたる勸業博覽會の建物の材料を用ゐて五十四年に建たるもの由なれども其規模甚だ壯大周圍の地面等を合せて其費用無慮一百五十萬磅以上を要せりと云ふ場内には肖像或は各國の美術工藝に關する標本等あり其外勸工場の如き賣店幾つもあり酒舗料理店の設も少なからず要するに一種の遊び場にして見料壹志を徴す夏季は一週二夕程つゝ烟花の催しあり之を見んとして遊ぶもの頗る多しわれ等も一夕此烟花見物旁之に遊ぶ然れども音に聞きたる程にもなき様に思はれぬ

龍動人士が最も清遊の一として數ふるはテムス河の舟遊なり一日日曜を下じて我社長の催しにて龍動支店の人々と共に此遊を試む先づパッチェジッドン停車場より汽車にて一時間餘り走りウキシンドブル驛に下ると有名なる宮

城は石壁高く邱陵の上に聳る其中央に抽でたる圓樓の上には英國の國旗、風に向て翻れり、下流には幾百萬噸の大船巨舶を送迎する、テームスの流も此邊にては其幅百間位に過ぎず浪細にして時に濤々の聲あり宮城の下より小蒸流を醸して流を溯り行けば野色平遠近樹遠村霞むが如く眠るが如く水は煙艇蛇行して兩岸の綠楊或は漸る或は續き風流を極めたる別墅其間に點在、幾群の白鷺樂しげに流に戯れ居りぬ二三の閘門をも過ぎて上りゆけば水は益狭く往き違ふ舟は互に舷を擦るかと思はる既にして「メイドン」橋下に達す岸上には三五の旗亭もあり馬車や自轉車を驅るべき坦路もあり一同暫し舟を捨てて陸に上り晝餐を傳へ思ひくゞに遊び戯る之れより上流は兩岸林樹鬱葱山にはあらざれども其綠陰の水を裏む所太だ幽邃にして嵐山の奥に保津の清湍を賞するの想あり併し時刻も追々移りゆくを以て我舟は其邊迄溯らず二時頃よりソロソロ下り初めたり河上遊艇の多きこと秋の木葉も管ならず佳人を載せて輕快射るが如きもの、翠陰に繫て喃々低語するもの、壯士の隊に少女の組、相呼び相戯れ、絲竹の興を助くるものは見えずと雖も何れを見

ても男女相樂むの狀、洋々として溢れん計りなり是は我邦の如き男女間の實際究屈なる所にては到底見得べからざる狀景たり舟下ること速にして面に當る古城の石壁は雲間よりわれ等を招くが如く岸を散歩する赤服金鈕の近衛兵も漸く歸り去んとす宮城下に着きしは五時前なりき急ぎ石階を踏み登り宮城内に入りて縦覽す凡そ千年にも餘る古建築のみ故、古色自ら溢然、壁苔模糊として幾多の劫塵を経、幾多の興亡を閱みす其高き邱上に在るを以て眺望極めて壯大、平野陣裏に漫々たり數多の園庭あれども禁園として見る程のものにあらず其他建物萬端、極めて質粗、内部は知らず外面は大英國萬乘の君の御座とは受取れぬ程なり但しわれ等如き外人にても女皇陛下の便殿の窓下迄も進行苦しからず、それさあるに滿城更に金碧の燦然たるものなく千有餘年前の有様を其儘に存置したる所、熟ら考ふれば却て民と共に樂む英國王家の氣風を示すに似て奥床しく思はれたり

龍動に出入する船舶の多き、其貿易額の巨大なるは言ふ迄もなき所なり試に千八百九十八年中の統計を舉れば實に其數左の如くなり

入港

船數 二萬六千二百二十六艘

噸數 千五百三十八萬八千二百二十八噸

出港

船數 二萬六千五百十三艘

噸數 千四百六十二萬五千二百六十二噸

輸出額

内國品 五千三百七十一萬七千四百七十七磅

外國品 三千四百四十六萬六百八十九磅

輸入額

一億六千四百十萬五千六百九十五磅

是等の船舶は總て船渠内に於て荷物の積卸しを爲す、船渠は何れも「テームス」河に沿ふて之を建造し其構内に荷物を貯藏する倉庫の設あり其外諸般の設備何れも能く行届き居れり重なるものは「ロンドン」、「ドック」、「シント」、「カサリン」、「ウエスト」、「インデヤ」、「サウス」、「ウエスト」、「インデヤ」、「イースト」、「インデヤ」、「ローヤル」、「アルベルト」、「グキクトリヤ」、「チルベリ」等にして現今是等の諸船渠は相合同して

「ロンドン」、「エンド」、「インデヤ」船渠連合委員の支配に屬せり我會社の船舶は入港の時は「チルベリ」船渠、出港の時は「アルベルト」船渠に繋ぎ居れり彼阿會社の船は總て「アルベルト」船渠なり

右の如く龍動には數多の船渠ありと雖も出入の船舶は年々増加するのみならず實際に於て其設備尙未だ十分ならず其一例を舉れば「チルベリ」船渠の如き市中より二十餘哩の下流に在り往復に時を費すこと多く其竣成の初めは入渠の船舶割合に少なかりしも此頃に至りては大に増し來れりと云ふ又原來龍動の港は「テームス」河上に在ること連、大船は潮時を待たざれば何時にても出入する譯にゆかず、且つ近年船體の大きくなりゆくに従ひ此不便益甚だしくなりたれば近頃港改良の議あり委員を設けて頻りに取調へ居れり
大英博物館は珍品奇種の蒐集を以て名あり其外動物園、繪畫館等面白く人の時間を費さしむるもの數限りなし若し夫れ一々其概況だけにて記せんとすれば更に幾十頁を要すべく而して其事たるや既に前遊者の書き盡くしたるもの多かるべければ陳套と認め之を省くこととせり

「サウオイ、ホテル」に長逗留も余の如き一介の書生には勿體なき話なれば安土府より歸りて後は獨り、ガッ街に下宿、社長と川田氏も蘇州より歸りて後は、ハイドパーク近傍に高尚にして閑靜なる旅館を卜し此に留れぬ初め社長も成るべくは素人屋を借りて龍動人日常居住の有様を見聞したしとの望あり依て或る新聞に廣告して之を求めしに僅か一日にして應ずる者殆んど百に垂んとす何れも一長一短適宜と認むるものなかりしを以て見合せられたりと雖も龍動に於ける新聞廣告の如何に利目多きか亦以て其一斑を知ることを得たり予の下宿したるは我海軍連中の定宿とする家の近邊にて老人夫婦に下婢二人下僕一人、部屋の數六七あり止宿人合せて七八人、庭には樹木もあり綠陰涼しく一體に小奇麗なる方なり最初往くと門の合鍵を主婦より渡し呉れる故之さゝれば何時にても出入勝手次第唯食事時間に時間あるの外、萬事自由にして我邦の旅店下宿屋の如く、ごたごたしたる面倒更になし龍動の下宿は一體此通にして少し料金を多く拂へば別に接客室をも借り得べく獨身者には至極の便利なり高尚なる素人屋にても借れば交際向等にも大に得る所

あるべしと云ふ、ガッ街の如きは先づ安下宿の方にて東京の神田邊に於けるが如く餘り上品ならざることば無論なり

「リーゼント」街を下りて、チャリング、クロスより「ピッカデリー」の邊は龍動夜景の見所にして瓦斯燈の光、畫の如き所、花笑柳嘯蝶狂ひ蜂戯る其邊に多き戲場や酒舗は細腰楚々、秋波脈々、人を腦殺せんとする佳人を以て充たされざるはなし知らず毎夕幾千の黄金を此間に銷し去る歟、這般の消息はわれ等田舎漢の解し得ざる所なり唯近來日本人の龍動に遊ぶもの漸く多き故に因るか時に「ヲハヨ」の嬌聲を此あたりにて耳にするも亦一奇なり

諸會社、諸商店に勤むる重役支配人、手代等は何れも皆遠方より通勤するを常とし或は鐵道に頼るものもあり或は乗合馬車に頼るものもあり大抵三十分以上一時間餘多きは二時間近くも途中に費すものもありと聞く而して其平常の服装は既に主席手代位になれば「フロック、コート」に絹帽を戴き容儀の嚴然たること米國とは大に趣を異にせり是等の人々の午食は何れも其事務所最寄の飲食店に就き極めて手輕に喫する風にて中には友朋數人、連合して

或る飲食店内に於て定め席を執り置くものもあれども多くは所定めず二三箇所の飲食店を彼所此所と回りゆくが如し尤も其中には上等も下等もあり種々なれども何れも簡単に一品或は二品位と「ビヤ」咖啡等を用ゆるに過ぎず其代り一皿にても「ビーフ」ステッキ「マットン」チヨップの如き殆んど常の大さあれば加ふるに時の野菜を以てすれば十分飢を療するに餘あり其炙り立の黒烟未だ去らざる所最も口に適し一たび之を味へば「ホテル」の高尙なる料理は寧ろ眞味を失するの思を生ず我會社支店の在る「フエンチャーチ」アベニユ邊は諸大會社の集合地なれば其近邊に此種の飲食店甚だ多く日本橋の旨いもの横町に在る或る家の如く小き家にて料理の美を以て評判高き店も少なからず一日外友に連れられて狭き小路に在る、むさぐろしき一小店に入る店内僅に十人を容るゝ計りなり既に先客もありたれども漸く餘席を得て之に着くと外友は直に次の間の芳臭紛々たる割烹場に就き「ビーフ」ステッキ二人分を命じ炙きあがるを待て之を喰ふ其美言ふべからず是は古き數十年の昔より有名なる家にて其いふせきこと限りなきに拘らず今に歴々の人達の微

行する所なりと聞く殊に奇なるは此家の習慣として始め割烹場に就き食物を命ずるとき必ず一人に付一片の心付を置き喫し了りて出る時復た前同様一人一片の心付何れの飲食店にても心付を置くは通常なれども置くが例にして此家始りて以來更に變ることなしとの話なり

「グラスゴー」及び「ミッドルスボロ」

龍動も八月中は暑氣相當に甚だしき由なれば此間に蘇格蘭を遊び廻ることよからめとわれ等は八月一日の朝「ユーストン」停車場より北東鐵道の汽車にて龍動を出立、道すがらの風物別に之と云ふ所もなけれども古國のことなれば一體に人家稠密、綠樹の間に粉壁隠現、處々に製造所の烟突符の如く參差として空に抽出て煤烟、墨霽の龍の如し蘇州に入てよりは邱陵漸く起伏し草氈の如く牝牛牡牛群り遊び、羊豕蠢然として戯る景色何となく蒼涼なるを覺ゆ午後七時三十分「グラスゴー」に着、中央停車場構内に在る旅舎に逗りぬ

「グラスゴー」は「クライド」河上に在り大英國に於て龍動に亞く大市にして人口

「グラスゴー」及び「ミッドルスボロ」

凡そ百萬、世界第一の造船場なり此市の創立は紀元五百年代に係り「セント・マ
ンゴ」なる高僧が停錫して寺を建て教を説きたるが人の集まる始なりしと
云ふ然れども其後數百年の間は見るべき發達もせず第十五世紀の頃には人
口未だ七千に過ぎず千八百年の初に於ても尙ほ僅に八萬三千餘の人口に止
まりしが其以後に至りて長足の進歩をなし遂に今日の盛況を見るに至りし
なり是れ畢竟世界に於ける航海造船術の發達と共に此地の「クライド」河上に
在りて之に適する要樞を占めたるに因るなるべしと雖も抑又蘇人堅忍の性、
然らしむる所と謂はざるべからず今にては、あらゆる大船巨舶の出入に差支
なき「クライド」の流も百有餘年の昔に在りては砂磧廣漠たる間を蝮蛇蛇行す
る野水のみ之を今日の如くに浚濼し幾多の船渠を作り幾多の棧橋を作り幾
多の起重機を作る迄には果して幾千萬の金を費したるか現在生存し居る人
の中にも据を蹙げて此流を涉りたるものありと云ふ以て其發達の全く軌近
に屬するを知るべし蘇人の諺に曰く「グラスゴ」は「クライド」を作り、「クライド」
は「グラスゴ」を作ると、事實洵に其通りなり、今「グラスゴ」最近一箇年間の實

易に關する統計を擧れば次の如し

入港船

一萬八百七十六艘 三百五十五萬百四十六噸

出港船

一萬千七十八艘 三百八十四萬四千七百八噸

輸入價格 千三百二十五萬七千二百

輸出價格 千五百五十一萬八千九百八十七磅

外國品 四十二萬三百五十五磅

輸入品は穀物、木材、麥粉、砂糖、礦物類を主要なるものとし輸出品は棉花、棉布、毛
并に麻の製品、鐵、機械類、石炭、藥品等を主要なるものとす

われ等は雜沓を極めたる龍動より來りし故にや「グラスゴ」は何となく陰氣
に思はれたり是れ幾分は地、北に偏し氣候龍動よりも寒冷にして微雨乍ち降
り乍ち休み冷烟常に濛々たるの故にも因るならん歟然れども概して市中の
龍動程に賑かならざるは無論なり尤も龍動とは違ひ市内の電氣鐵道もあり

「グラスゴ」及び「ミッドルズボロ」

又「クライド」の流底を貫きて此岸より彼岸に走り市を環る地下電氣鐵道もあり交通頗る便利にして家立も亦比較的整然たる方なり

名譽領事「ブラウン」氏の案内にて「フェアフィールド」并に「ヘンダソン」二箇所の造船所を見る從來我會社の使用船は此地にて造りたるもの多く造船所の爲めには好得意たれば先方にて待遇方頗る勉むる所あり案内も極めて丁寧なり此等の造船所は何れも川に臨みて建られ現に製造中の艦船あまたあり去るにても川幅も廣からざる「クライド」の流を利用して、よくも六七百尺にも餘る大船を船卸しするものかな之には、われ等も意外に思へり

造船所を覽て歸る時なりき「クラブ」にて晝飯を執らんと「ブラウン」氏を先に立て一行市中を歩行せし折柄予獨り少し後れたれば後より一老翁來りて予の背を打ち突然汝は支那人か日本人かと問ふ予は即ち老漢人を愚弄するならんと思ひし故予は日本人なり汝何の用かあると態と真向になり再三詰問せしに老翁は左もきまりわる氣に別段用あるにはあらずと狐鼠々々を行過ぎたり後にて皆々に話し大笑を催しぬ併し願れば又多少の感なき能はず

予は原來最初より龍動に着すれば一通り業務上の要地を視て社長より先きに歸朝すべき筈なりしを以て緩々する譯にゆかず乃ち此地に於て社長に別れ社長は川田氏を隨へ暫く蘇州山間の各地を巡遊することとし予は獨り「ミッドルスポロ」に出で博多丸に乗船安土府に往くことに極め三日の朝雨を衝て「グラスゴー」を發す是迄は同行もありし身の是よりは少しの間と雖も形影相弔するの獨り旅となりたれば何となく寂寥の氣味を覺へぬ

車中には新西蘭人の老婦人と其子と二人同乗、退屈なれば彼問ひ我答へ、よも山の話の中に蘇京に着きたれど下車の積にあらざれば徒らに城樓を烟雨の裏に眺め長驛短亭、一去一來、晝前には新城を過ぎ「タイン」の流も車中より一瞥既にして或る驛にて車を下り、こゝより支線に乗換へ午後二時四十分「ミッドルスポロ」に着す、折ふし非常の風雨にて停車場より博多丸の繋り居る船渠迄は僅に數町に過ぎざれども船渠構内へは馬車にて乗入ること出來ざれば人足に革囊を負はせて傘を披き徒歩す博多丸に着きし時は衣帽悉く濕ひ殆んど鼠を水中より引出したるが如し事務長龜井氏等款遇到らざる所なく漸く

衣を改めて心神稍落付きたり然れども冷氣猶ほ甚だしく全く嚴冬に似たり此日最も心配せしは汽車の乗換にして獨行のことなれば間違へば面倒なりと大に注意せしだけありて幸に事なきを得たり社長の一行後に此邊へ廻られし時龍動支店長の「ゼームス」氏が東道たりしにも拘らず一驛を乗り越し「ミッドルスボロ」到着の豫定時間を違へ該地に於ける歡迎の人々が頸を曳て待たりと聞く英國に於て英人の案内にても此の如し予が獨りたびにて迷子とならざりしは寧ろ大出來の方なり

「ミッドルスボロ」は「チイス」河口より凡そ八哩程上りたる所に在り極めて新開の地にて人口未だ十萬内外なれども近邊炭嶺に富み從て鐵の製出高甚だ多く尙又「マンチエスタア」産出の綿布類も汽車を以て此地に輸送し船積することを得べきが故輸出額は年々に増加す我會社船の定積取地なり船渠其他の設備向は總て北東鐵道會社の所有に屬し近來出入の船舶漸く多きを加ふるを以て當時一新船渠を作り居れり造船所も亦こゝに在り後來中々有望の地なり

四日の日は雨止み天穩になりたれば船も積荷を始め予も亦代理店「ブルマア」氏を訪ふて事務上の話を爲し午後は市中を散歩公園迄電車にて行きぬ新開の割合には萬事整頓し北米に於ける新開地とは頗る趣を異にせり五日の朝船纜を解て徐々として河を下る兩岸に製鐵所多くして煤烟空を蔽て濛々たり船長右舷の方なる小丘を指して曰く其上に有名なる「キャピテンクック」の紀念碑あれども今日之を望むを得ざるは残念なりと實に此邊は「クック」の生れ故郷なり我船に在るは猶ほ家に在るが如く烟波夢穩にして翌六日の正午過ぎ安土府に着す

安土府、瓦土樓及び「ロッタアダム」

安土府は佛蘭人之を「アンヴェルス」と稱す「セルデ」河口より凡そ六十哩の所に在りて人口凡そ三十萬を有する世界屈指の大港なり凡そ日耳曼、白耳義の兩國は言ふ迄もなく北部佛蘭西の製產品も亦多く此港よりして輸出せらる此を以て船舶の來往頻繁を極め河岸二哩程の間は總て之を繫船場に充て壯大

なる上屋之に附屬し其外部には鐵道線並行し水陸連絡の便大に備はれり而して船は皆繫船場に横付にするが故に荷物の積卸し船客の上下共甚だ便利にして舷門を下りて上屋内を過ぐれば直に市街なり左れば船に在ること猶ほ旅館に在るに異ならざれば予は言語の通じ難き旅館に行かんより寧ろ博多丸に逗留る方都合よしと認め、そのことにせり

此地は歐洲大陸の要樞に當るを以て早くより開け千五百年代に既に十二萬餘の人口あり、ヴェニスにも譲らざる繁昌の地なりしも其後西班牙人の手に屬してより騷亂相續ぎ漸次衰運に向ひ千七百年代の終りには人口減じて四萬に下れり夫より一時佛蘭西に屬し奈破翁は此地の重要なることを認め頗る計劃する所ありしも事未だ成らずして亡び次に和蘭王國に屬することとなり其屬領地との貿易の爲め稍恢復の色を顯はせりと雖も是亦「ロッタアダム」「アムステルダム」の爲めに妨げられ思ふ通りの發達を見ずして荏苒經過し千八百六十年の頃に至り始めて世運の伸長に連れて俄然勃興の勢を生じ現今にては一箇年間に五千艘、六百萬噸以上の入船あり輸出價格は六億法(凡そ我

二千四百萬圓)に上り此地を經過する貿易品の價格は四億法(凡そ我壹千六百萬圓)に達す試に河岸の上屋内を歩行すれば其貨物集散の甚だしきに一驚を喫すべし

英國より此地に来て見れば僅に一葦水を隔るに過ぎざれども言語は無論土人は多く「フレミッシュ」語を用ひ上流人は佛語を話し英語を話すもの少し風俗も大に其趣を異にし酒舖の多きこと、道行く人の野卑にして衣服の粗末なること、婦人の荷車を曳き居ること、犬が八百屋物賣などの車の先曳をなし居ること等異様の光景忽ち眸裏に映じ來るを覺ゆ事務を執る人々に至りても午時には出で、最寄の飲食店に小餐を喫し次に又おなじみの珈琲店に入りて茶又は珈琲を嗅び烟草を吸ひ悠々として憩ひ中には象碁をさし居るもあり夫より「ブルス」に往て諸商況を聞き取引上の事務を談じ己れが事務所に歸るは大抵四時前なりと云ふ随分香氣なる所と謂ふべし併し是は此地のみならず大陸は何れの地も皆同じ有様なる由なり地の廣きだけ人心も自然と優長なる方歟

繫船所に沿ふて高架棧道あり長さ十丁もあるべし土地の人士が散歩かたぐ
此棧道に來りて大船巨船の出入を見て樂む中には田舎娘の白き布片を頭上
に戴き雙腕をむき出しにしたる連中なども折節チラツキ居れり船上より之
を望むも亦一興なり

此地に過分なりと謂ふべきもの三ありゴシックの大寺院、美術館、動物園是なり此寺院は其建築餘程古くして高塔空に聳え遠くより之を望めば大なる竹竿の如し其高さ實に百三十呎に及び院内の面積七萬六千平方呎即ち凡そ我二千坪あり有名なる畫工ルーベンの筆に成る宗旨畫數幀を壁に貼し中央に説教臺あり予の見に往きし時には一僧其上に登り頻りに辨を弄し居たり美術館には名家の作に係る古畫頗る多く割合に能く集めたる方なり動物園は其構内も廣く草樹も多く庭園の趣亦見るべきものあり其内に飼養する異禽奇獸數知れず人をして半日の閑を消せしむるに足る就中其獅子室の如き音響上に注意を加えて建築したりと見え獅子一たび吼るときは聲雷の如くに響き渡り人々思はず震慄す龍動の動物園にも數頭の獅子を飼ひ置けども

其吼聲夫れほどには聞えず全く室の構造に依るに相違なし

我博多丸の繋ぎ居りし二十一番繫船所の直ぐ前に當りて一軒の酒舖あり初より日本人がお得意にて二十一二を頭として十七八に至る其家の娘三人、臈に當りて酒を賣る姿色左迄野ならず且つ近來巧に日本語を話し都々逸、カッポレ等の我俗謠をピアノに合せて歌ふに至る船の水火夫共は皆此に集りて酔を買ふを以て無上の樂となし晚になれば室内日本人にて充滿し他客の入るを許さず彼れの商賣に懸けて拔らぬ所は感心なり去るにても亦都々逸、カッポレが此邊の銀髮娘に憑りて唱えらるゝに至りしも畢竟我國旗を掲げたる船舶の來往する御蔭にて之を我國運發達の一兆として喜ぶも敢て不當にあらざるべし

予が安土府に滞在中、巴里博覽會見物に來りし日本人の大陸巡遊の途次、此地を過ぐるもの甚だ多く何れも四五人位にて一隊を爲し居り一日に二隊三隊も我船に來訪せしことあり中にも松本重太郎氏の一行の如き同勢十七八人連れにて「サントアン」旅館に宿し居たり其の夜は船に鈴木領事等を招き日本